

321

123

6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 7

始





正9A95

32  
12

農商務省農務局編纂

日本主要農作物耕種要綱

大日本農會







千葉縣	一七七	兵庫縣	二〇三	福井縣	二三四
茨城縣	一八三	滋賀縣	二一〇	福岡縣	二四〇
三重縣	一八八	愛知縣	二二二	大分縣	二四四
北海道	一九五	福島縣	二二五	熊本縣	二五一
大阪府	二〇〇	青森縣	二二九	鹿兒島縣	二五九
<b>第六 煙草</b>					
神奈川縣	二六三	靜岡縣(西部遠州地方)	三一二	德島縣	三六七
兵庫縣	二七三	福島縣	三二九	福岡縣	三八三
新潟縣	二八一	巖手縣	三三九	熊本縣	三九〇
茨城縣	二九一	岡山縣	三四六	宮崎縣	四〇四
栃木縣	二九九	廣島縣	三五六	鹿兒島縣	四一三
<b>第七 蕎麥</b>					
新潟縣	四二三	富山縣	四四八	廣島縣	四七七
宮城縣	四三〇	島根縣	五三九	福岡縣	四九四
石川縣	四三九	岡山縣	四六八	熊本縣	五〇〇
<b>第八 苧 苧(七島苧)</b>					
靜岡縣	五〇五	大分縣	五一五	鹿兒島縣	五三一
福岡縣	五一〇	熊本縣	五二六		

# 日本主要農作物耕種要綱 (特用作物)

## 第一 杞柳

京都府

### 整地

粘質壤土  
細葉  
一月上旬頃深サ四五寸ニ耕起シ、三、四間毎ニ幅一尺、深サ八九寸ノ排水溝ヲ設ケ、土塊ヲ細碎シテ畑面ヲ平坦ニ整キ均ス

### 施肥

人類尿五百貫匁(三倍ニ稀釋シ四回ニ分施)ヲ施スヲ普通トスレトモ所ニヨリテハ調合肥料ヲ用フルモノアリ

### 挿植

前記平地ニ挿植ス  
二月上旬頃一反歩ニ付十四、五貫匁(六七千本)ノ苗ヲ挿植ス、株間一尺三寸トナシ、別ニ畦立ヲナサズ

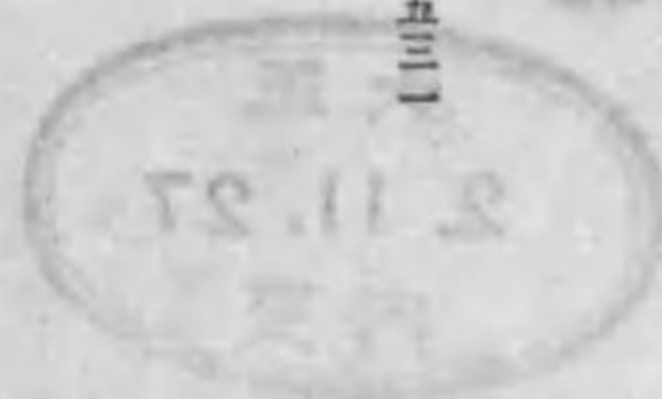
### 中耕及除草

毎年五回乃至六回雜草ヲ除去シ、春季刈取後淺ク中耕ヲ行フ  
別ニ病害ヲ認メス害虫ハ蚜蟲、金龜蟲等主ナルモノニシテ蚜蟲ハ別ニ驅除ヲ行ハズ、金龜蟲ハ布袋中ニ拂ヒ落ス

### 成熟收穫

春芽ハ二月、夏芽ハ七月  
植付後二年目ノ二月ニ第一回ノ刈取ヲナシ、翌年ヨリ二月七月ノ兩回收穫ヲナス  
一反歩ノ收量左ノ如シ

第一 杞柳(京都府)





初年 三年 四年 五年 六年  
 三拾貫 六拾貫 八拾貫 百貫 百貫 百貫

種類ニヨリテハ一反歩四百貫位ノ收量アルモノアレトモ販賣價格極テ廉ナリ  
 但シ剥皮乾製セル白芽トス

調製 春刈ハ運クモ寒明後三十日以内ニ於テ刈取リ(太キモノハ母株ヨリ一寸位ヲ殘シ細キモノハ母株ノ元ヨリ大(三尺以上)中(二尺以上三尺以下)小(二尺以下)ニ區別シ、五六本ヅ、密插(三寸距離)シ置キ、發芽ヲ待チテ之ヲ拔取リ剥皮ス、剥皮シタルモノハ順次清水ニテ揉ミ洗ヒ、一條ノ竹ヲ架シタル細ニ株元ヲ當テ、乾燥ス、剥皮乾燥ハ可成晴天ニ於テ行フベク、若シ雨天ニ於テスル時ハ光澤ヲ失ヒ品質ヲ損傷ス

乾燥シ終レバ四斗樽ノ如キモノニ入レ、コレガ長短ヲ五六段ニ撰別シテ八寸位ノ把トナシ、更ニ交互ニ東ネテ便宜三貫ノ或ハ十貫ノ束トナス、而シテ精製シタルモノハ之ヲ土藏或ハ納屋等ニ貯藏シ、決シテ風雨ニ曝露セメシズ、夏芽ハ午前四時ヨリ十時迄ノ間ニ刈取リ、三、四貫ノ束トナシテ剥皮場ニ運搬シ直チニ剥皮ス、尙東内ノ醗酵セザル様水ヲ注キテ之ヲ防グ、生芽ヨリ白芽ヲ得ル歩合ハ春芽三分、夏芽二分

栽培反別 遠方ニ輸送スル場合ハ右ノ束ヲ荒蕪ニテ捲キ數ケ所ヲ繩ニテ緊縛ス  
 明治四十年 十四町五反歩 明治四十一年 二十一町三反歩 明治四十二年 十二町歩 明治四十三年 十町九反歩 明治四十四年 十町六反六畝歩

販賣先、用途及ヒ農家ノ賣却價格 主トシテ附近所在ノ町ニ行李製造用トシテ販賣スルノミニシテ盛ニ他府縣ニ移出スル等ノコトナシ  
 十一貫 明治四十三年 五千六百七十八貫 明治四十四年 七千八百二十四貫 明治四十二年 五千五百七

耕作畑ノ時價 地方ニヨリ多少ノ變動アレトモ白芽一貫ノ付約六拾錢ナリトス  
 一反歩ノ收支計算 (自作ノ場合) 農家ノ賣却價格ハ年ニヨリテ多少ノ變動アレトモ上五百拾圓、中百圓、下七拾圓位ナリトス

(甲) 收入ノ部

主産物	數量	單價	總價格	備考
上物	八〇〇	六〇〇	四八〇〇〇	數量ハ四、五年目ノ最盛期
中物	一〇〇	五〇〇	五〇〇〇〇	價格ハ最近五ヶ年平均トス
下物	一〇〇	三〇〇	三〇〇〇〇	
副産物	二〇〇	一〇〇	二〇〇〇〇	同上
廢皮	二〇〇	一〇〇	二〇〇〇〇	同上

收入合計金五拾八圓

(乙) 支出ノ部

項目	數量	單價	總價格	備考
苗木	五百貫	一〇〇	六〇〇〇	苗木十五貫代六圓十ヶ年割
肥料	五百貫	一〇〇	一〇〇〇〇	
勞務	四百七十八人	二二	一〇、五〇〇	
公課	四十二人	二二	九、二四〇	

支出合計金參拾參圓七拾錢

勞銀内譯	人夫數		一日賃銀		總賃銀		備考
	男	女	男	女	男	女	
本畑整地	五	一	〇五〇〇	一	二五〇〇	一	食費ハ人夫ノ負擔トス
插植	二	一	〇五〇〇	一	一〇〇〇	一	
施肥	五	一	〇五〇〇	一	二五〇〇	一	
中耕	一	一	〇三〇〇	一	二四〇〇	一	
腋芽除	一	一	〇三〇〇	一	〇六〇〇	一	
被害豫防	一	一	〇三〇〇	一	〇三〇〇	一	金繰出ノ持セ落シ
合計	一五	五	一、〇五〇	五	一、〇五〇	五	







八分位ノモノヲ適當トス  
夏土用刈ヲ行フ際ニ莖幹ヨリ伸長適當ノ太サヲ有スル無傷ノモノヲ選擇シ圃中ニ殘シ置キ挿込期即チ三月下旬乃至四月月上旬ニ至リテ刈リ取りニ枝ヨリ長サ七八寸乃至一尺ノモノ三本位ヲ取り種苗トスルヲ普通トス其内根端ニ近キモノヲ良好トス

挿込ミハ冬十一月頃ヨリ翌春三四月頃迄ニ行ヒ陽燥ナル畑地ハ冬季ニ於テシ低濕地ニアリテハ春期融雪後ニ行フ長サ八寸乃至一尺ニ切リタルモノヲ根端ヲ二方ヨリ削リ又ハ三方ヨリ削リテ先ヲ尖ラシ深サ五寸乃至六寸ヲ挿入シ地上ニ三四寸ヲ出ス前記ノ如ク畦間ハ二尺内外ニシテ株間ハ八寸内外ナリ故ニ一反歩ニ要スル苗數ハ七八千本ニシテ苗一本ノ重量ハ四匁内外ニシテ總計二十八貫乃至三十二貫ナリ

**中耕除草** 中耕ハ施肥前ニ根端ノ土壤ヲ兩側ニ掘リ上ケ施肥後ニ之ヲ能ク膨軟ニシ根ノ兩側ニ搔キ寄セ土地ヲ均平ナラシム而シテ夏芽刈取後更ニ中耕ヲ行フコトアリ  
除草ハ草ノ生スルヲ見テ適宜ニ行ヒ可成芽ノ短キトキヲヨシトス

**摘芽** 杞柳新芽發生シ丈ク二三尺ニ達スル頃ヨリ腋芽ヲ發生ス元來杞柳ハ真直ナルモノヲ貴ヒ分枝セルモノヲ忌ムモノナレハ腋芽ノ未タ生長セサル内ニ搔キ去ラサルヘカラスコレヲ芽搔ト云フ杞柳ノ生長ハ二期ニシテ夏季温度八十度以上ニ昇ルトキハ生育ヲ一時中止シ又温度冷氣ニ向ヒ八十度以下ニ降ルトキハ生育ヲ殆ムルモノナレハ芽搔キモ之ニ從ヒ第一回ノ分ハ六月下旬ニ行ヒ第二回ノ分ハ第二期ノ生長後ニ行フモノトス

**害** (イ) コガネ (ロ) ツハムシ (ハ) 蚜 (ニ) 葉巻蟲 (ホ) 天牛 (ヘ) 蠅 (ト) カンチヨロ(俗)  
(備考) 初年ニハ蚜蟲ノ發生極メテ多シ

**收** 春芽刈トハ春期融雪後ニ行ヒ先ツ莖條真直ナルモノヲ株際ヨリ刈取り而シテ元ノ屈曲セルモノ又ハ枝條惡シキモノヲ株摘ノ際ニ細大漏サス悉ク株際ヨリ切取ルハシ  
夏芽刈トハ新芽四尺餘モ生長シタル頃夏土用後十日頃ヨリ凡ソ三十日間ヲ好期トシ刈取ルナリ

夏芽ノ刈取ヲ行フ場合ハ杞柳ノヨク繁茂シタル時又ハ夏季白芽ノ價格騰貴シタル時等ニ行フモノニシテ挿込後三ヶ年乃至八ヶ年ヲ經タルモノニ行ヒ時トシテハ中止スルコトアリ

**調製** 春芽、早春刈取後莖ノ大小ニ應ジ五六本ヲ一握トナシ水氣多キ濕田ニ五六寸ノ距離ニ深サ一二寸位ニ假植シ二十日ヲ經過セハ發芽ス芽三分ニ生長セハ晴天ノ日ヲ見計ヒテ剥皮ニ從事ス  
夏芽、夏土用刈取後直チニ水ニ浸シ翌朝剥皮ニ從事ス  
春芽、夏芽共ニ剥皮終レハ即時洗滌及乾燥ヲ行フ

剥皮ヲ行ハシニハ先直徑二分五厘位ノモノヲ長サ一尺二三寸ニ切リ之ヲ二ツ折トナシ挾箸ヲ造リ之ヲ右手ニ持チ皮柳ヲ左手ニ持チ最初柳莖ノ中央部ヲ箸ニテ挾ミ根元ニ向テ引抜クヘシ而シテ尙梢部ヲ挾ミテ引キ外皮ヲ分離スルナリ  
以上ノ方法ニヨリ剥皮シタル白芽ヲ可成迅速ニ清水ニ浸シ水中ニテ充分強ク揉合ヒ澁氣及汚物ヲ洗去リ而シテ直チニ二三間毎ニ杭ヲ打チ横ニ竹ノ渡シタル柵ニ薄ク擴ケテ乾燥セシムルナリ夜間及降雨ノ際ニハ逸早く取入レテ之等ニ逢ハシメザル様ニナシ乾燥ノ際ニハ土地及草生地等ニハ直接ニ觸レテ並列スルカ如キハ品質ヲ害スルヲ以テ避ケサルヘカラ

**貯藏** 充分乾燥セル白芽ハ乾燥セル室内ニ入レテ貯藏シ白芽ノ價格ノ騰貴スル期ヲ待ツベシ若シ濕氣ヲ帶ビタル時ハ早ク乾燥ニ着手スベシ

**包装** 一握ヲ一把トシ十把ヲ一束トシテ包装ス其目方七八貫乃至十貫位ナリ  
**土質及栽培法**ノ如何ニヨリテ年々差アレトモ平均シタル收量左ノ如シ

年次	初年	二年	三年	四年	五年	六年
皮	一一〇	二四〇	五五〇	五七〇	五九〇	五九〇
白	二〇	四〇	九〇	九五	一〇〇	一〇〇
春芽	二〇	四〇	六〇	六〇	六〇	六〇
夏芽	二〇	四〇	六〇	六〇	六〇	六〇
芽	三〇	三五	四〇	四〇	四〇	四〇







包 裝	
合 計	三〇三
一 年	三〇三
二 年	三〇三
三 年	三〇三
四 年	三〇三
五 年	三〇三
六 年	三〇三
七 年	三〇三
八 年	三〇三
九 年	三〇三

出 支	入 收		量 數	單 價	價 格
	支 出	入 收			
差引損益					
支出合計	三〇・八〇〇				
包製原料	三〇・八〇〇				
借地料	三〇・八〇〇				
公課諸掛	三〇・八〇〇				
同 女	三〇・八〇〇				
勞 男	三〇・八〇〇				
肥 料	三〇・八〇〇				
苗 代	三〇・八〇〇				
收入合計		三〇・八〇〇			
春 芽		三〇・八〇〇			
夏 芽		三〇・八〇〇			
秋 芽		三〇・八〇〇			
株 皮		三〇・八〇〇			
初 年					
二 年					
三 年					
四 年					
五 年					
六 年					
七 年					
八 年					
九 年					

(備考) △印ハ損

土地其他ノ資本利子農具ノ損料等ハ省略ス  
右九箇年間ノ平均收支計算

年	初	二	三	四	五	六	七	八	九	平 均
收入總計	一四・二〇〇	二八・三〇〇	六三・八〇〇	六七・三〇〇	七〇・八〇〇	七〇・八〇〇	六三・三〇〇	二八・三〇〇	一四・二〇〇	二四・一五〇
支出總計	三〇・八〇〇	一九・八〇〇	三三・九〇〇	二二・九〇〇	二四・四〇〇	二四・四〇〇	二二・九〇〇	一九・八〇〇	三〇・八〇〇	二二・七〇〇
差引損益	一六・六〇〇	八・五〇〇	三九・九〇〇	四四・四〇〇	四六・四〇〇	四六・四〇〇	四〇・四〇〇	八・五〇〇	一六・六〇〇	二四・二八〇

價格ニ變動アル場合ノ收支計算

收 入	出 支	差 引
最 高	六七・七〇〇	二四・七〇〇
平 均	六三・七〇〇	二二・五〇〇
最 低	六三・七〇〇	二二・五〇〇

(備考) 價格一貫タニ付最高壹圓、平均七拾錢、最低參拾五錢、極優等品ハ壹圓五拾錢、支出ノ部ニ於テ差ヲ生ジタルハ價格高キトキハ充分ノ手入ヲナシ低價ナルトキハ手入不充分ナルニヨリ勞力ノ上ニ差ヲ生ズルニヨル



栽培地ニ良否アル場合ノ收支計算

收入(數量)	田			備考
	上	中	下	
六〇〇〇〇	七〇〇〇〇	八〇〇〇〇	八〇〇〇〇	白芽ノ單價 上田 八拾錢 中田 六拾錢 下田 四拾五錢
四八〇〇〇	四二〇〇〇	三六〇〇〇	三六〇〇〇	
支出(價格)	二五〇〇〇	二三四六〇	二二四八〇	
差引	二二八九〇	一八五四〇	一三五二〇	

(備考) 支出ノ部ニ差アルハ上田、中田、下田各地價異ナルヲ以テ差ヲ生ジタルニヨル上田四拾圓、中田貳拾圓、下田八圓、上田ニ栽培スル品種ハ主トシテ細葉種、中田ニ栽培スル品種ハ主トシテ中葉若クハ細葉種、下田ニ栽培スル品種ハ主トシテ中葉若クハ大葉種ナリ

整地 播種又ハ插秧 施肥 中耕 刈取 調製 驅除 灌排 計	水田一毛作田稻作		畑作夏大豆		畑作冬麥	
	人夫數量	賃銀	人夫數量	賃銀	人夫數量	賃銀
男	二・三	一・一五〇	男	二・〇〇〇	男	一・〇〇〇
女	一・五	七五〇	女	一・〇〇〇	女	一・〇〇〇
男	一・〇	五〇〇	男	一・〇〇〇	男	一・〇〇〇
女	一・〇	五〇〇	女	一・〇〇〇	女	一・〇〇〇
男	一・〇	五〇〇	男	一・〇〇〇	男	一・〇〇〇
女	一・〇	五〇〇	女	一・〇〇〇	女	一・〇〇〇
計	五・〇	二・二五〇	計	五・〇	計	五・〇

他作物收支計算

同收 收入 種苗 肥料 勞務 公課 支出 差引	稻		大豆		麥	
	數量	單價	數量	單價	數量	單價
一・〇〇〇	一・七〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
二・〇〇〇	〇・一〇	三・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
三・〇〇〇	一・〇〇〇	四・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
四・〇〇〇	一・〇〇〇	五・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
五・〇〇〇	一・〇〇〇	六・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
六・〇〇〇	一・〇〇〇	七・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
七・〇〇〇	一・〇〇〇	八・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
八・〇〇〇	一・〇〇〇	九・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
九・〇〇〇	一・〇〇〇	一〇・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
一〇・〇〇〇	一・〇〇〇	一一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
一一・〇〇〇	一・〇〇〇	一二・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
一二・〇〇〇	一・〇〇〇	一三・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
一三・〇〇〇	一・〇〇〇	一四・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
一四・〇〇〇	一・〇〇〇	一五・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
一五・〇〇〇	一・〇〇〇	一六・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
一六・〇〇〇	一・〇〇〇	一七・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
一七・〇〇〇	一・〇〇〇	一八・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
一八・〇〇〇	一・〇〇〇	一九・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
一九・〇〇〇	一・〇〇〇	二〇・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
二〇・〇〇〇	一・〇〇〇	二一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
二一・〇〇〇	一・〇〇〇	二二・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
二二・〇〇〇	一・〇〇〇	二三・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
二三・〇〇〇	一・〇〇〇	二四・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
二四・〇〇〇	一・〇〇〇	二五・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
二五・〇〇〇	一・〇〇〇	二六・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
二六・〇〇〇	一・〇〇〇	二七・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
二七・〇〇〇	一・〇〇〇	二八・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
二八・〇〇〇	一・〇〇〇	二九・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
二九・〇〇〇	一・〇〇〇	三〇・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
三〇・〇〇〇	一・〇〇〇	三一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
三一・〇〇〇	一・〇〇〇	三二・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
三二・〇〇〇	一・〇〇〇	三三・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
三三・〇〇〇	一・〇〇〇	三四・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
三四・〇〇〇	一・〇〇〇	三五・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
三五・〇〇〇	一・〇〇〇	三六・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
三六・〇〇〇	一・〇〇〇	三七・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
三七・〇〇〇	一・〇〇〇	三八・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
三八・〇〇〇	一・〇〇〇	三九・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
三九・〇〇〇	一・〇〇〇	四〇・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
四〇・〇〇〇	一・〇〇〇	四一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
四一・〇〇〇	一・〇〇〇	四二・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
四二・〇〇〇	一・〇〇〇	四三・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
四三・〇〇〇	一・〇〇〇	四四・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
四四・〇〇〇	一・〇〇〇	四五・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
四五・〇〇〇	一・〇〇〇	四六・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
四六・〇〇〇	一・〇〇〇	四七・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
四七・〇〇〇	一・〇〇〇	四八・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
四八・〇〇〇	一・〇〇〇	四九・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇
四九・〇〇〇	一・〇〇〇	五〇・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇

(備考) 土地其他ノ資本利子農具ノ損料等ハ省略ス

杞柳ト他作物トノ收支比較

杞柳	收		支		差引
	入	出	入	出	
一毛作田	四八・一五〇	一三・八七〇	一四・七〇〇	二四・二八〇	二〇・五〇〇
一毛作田	三五・二〇〇	一四・七〇〇	一四・七〇〇	二〇・五〇〇	一四・〇〇〇
畑ニシテ	三二・八〇〇	一九・九五〇	一九・九五〇	二一・八五〇	一〇・八五〇

(備考) 杞柳ヲ前記ノ如ク城崎郡ニ於テ古クヨリ栽培シ多クノ白芽ヲ産シ農家ハ年々相當ノ利益ヲ擧ケツ、アリ杞柳ト他作物トノ收支比較ヲ見ルニ一毛作田水稻及畑作(夏大豆冬大麥)ハ割合ニ多收ナレトモコレ水害ナキ場合ノ收量ニシテ若水害アル時ハ收量皆無ナル年屢々アルヲ以テ十箇年平均スレバ收益甚シク減ス故ニ水害多



キ土地ニ栽植スル作物トシテ杞柳ハ第一ナルヲ信ズ

### 岐阜縣

**土質** 縣下ニ於ケル杞柳栽培地ハ年々二三回ノ浸水アル低濕地及堤外浸水多キ地ニシテ水稻又ハ桑樹等ノ栽培ニ適セサル地質肥沃ナル粘質壤土若シクハ壤土ニシテ平時ハ濕潤或ハ乾燥ニ過タルコト少キ土地ナリ

**品種** 本縣ニ於テハ一般ニ品種ヲ分ケ栽培セサレトモ莖皮ノ色澤ニヨリテ區別スレバ青莖種ヲ主トシ稀ニ赤莖ノモノヲ混ス又葉ニヨリ區別スレバ大葉中葉及ビ細葉ノ三種ナリ

青莖種ハ木質堅ク白芽ノ生産歩合多ク品質良好ニシテ赤莖ノモノハ之レニ反ス

**地肥** 備中畝ヲ以テ耕起シ雜草ヲ除キ濕地ハ適宜排水溝ヲ設ケ凸凹ナカラシム

發芽前ニ人尿五六荷ヲ施スコトアルモ普通施肥スルコトナシ

**挿植** 挿植ハ十二月中旬ヨリ二月上旬迄ニ栽植後三年目位ノ株ヨリ收穫シタルモノ、内行李用ニ供シ難キ長大ノ枝條ヲ種苗トス而シテ種苗ハ挿植ニ先チ梢頭五六寸ヲ除ク外ハ長サ八九寸ニ押切ニテ切斷シ種苗採取後直チニ切斷シ畑地ニ假植シ置クモノアリ而シテ之レハ成績可ナリ

二月中旬乃至三月上旬ニ於テ豫メ準備セル種苗ヲ一尺五寸幅ニ八九寸毎ニ一本宛垂直ニ深サ四五寸ニ挿木ス而シテ多クハ此春挿ナルモ時トシテ十二月ニ挿木スルモノアリ尙ホ十年乃至五年目ニ挿替ヲ行フ

**中耕及除草** 中耕トシテハ別ニ行ハス除草ハ五月下旬、七月中旬及九月ノ三回ニ萬能及鎌ヲ以テ行フモ勞力ノ都合ニテ一二回行フニ過キサルモノアリ

**摘芽** 五月下旬ヨリ七月中旬迄ニ三回行ヒ土用後ハ枝條ニ損傷ヲ生スルヲ以テ行ハス摘芽ノ方法ハ芽ノ一二寸ノ頃左手拇指ニテ芽ノ下底部ヲ壓ヘ右手ニテ芽ヲ掻キ取ルナリ

**病虫害** 蚜蟲ハ四月上旬ヨリ發生シ七八月頃被害甚シク殊ニ去ル四十二年ハ最モ著シキ被害アリ殆ンド全滅セラレシ個所アリシモ未タ驅除ノ良法ナク僅カニ手ニテ驅除スルモノアル位ナリ

芋蟲ノ驅除ハ一ニ浸水ノ天然驅除ニ待テリ

葉蟲ハ四月頃發生シ新芽ヲ害ス

**收穫** 普通二月上旬ヨリ同下旬ニ株元五六分ヲ殘シ銳利ナル木鎌ニテ總刈(但半枯及矮小ナルモノハ殘シ置キ後日刈取リ燃料トス)ヲ行ヒ又十二月落葉後直チニ刈取ルモノ或ハ芋蟲ニ蝕害セラレタルモノニシテ越冬セシムレバ枯死スベキモノハ十一月上旬刈取リ直チニ剥皮スルモノアリ

**調製** 收穫シタル青芽ハ濕潤ナル水田ニ方二寸ニ一本宛二三寸ノ深サニ挿シ置キ四月上旬ヨリ五月上旬迄ニ晴天ヲ選ミ剥皮ス剥皮ノ方法ハこばしト稱スル鐵製ノ形ノモノヲ杭ニ打テタルモノニ枝條ノ中央部ヲ挿シ先ツ根元ニ向テ扱キ次ニ反對ニ梢端ニ向テ剥皮ス剥皮ノ工程ハ一人一日ニ青芽ニテ普通二十貫乃至二十五貫太キモノハ三十貫乃至三十五貫細キモノハ十貫乃至十五貫ナリ剥皮シタルモノハ一度水ニ浸シ濡レ盡ニ一貫位宛卷キ兩手ニテ能ク揉ミ直チニ清水ニテ充分ニ洗滌シ三斗桶等ノ内ヘ立テ長短ヲ區別整理シ之レヲ晴天ニ三日間乾燥ス若シ洗滌後天候惡シキ時ハ非常ニ品質ヲ損スルヲ以テ洗滌後大體乾燥スル迄ノ天候ニ充分注意ヲ要ス乾燥ノ程度ハヨク折レ得ルヲ適度トス若シ乾燥不充分ノモノハ貯藏中光澤ヲ損スルコトアリ

**包裝** 青芽ヨリ白芽ヲ得ル歩合ハ二割八分位ナリ

一個十二三貫ニシテ藁繩ニテ三箇所乃至五箇所ヲ縛リ遠距離ニ輸送スル場合ニハ兩端ニ不動繩ヲ用フ

**栽培反別** 百五十九町歩

**產額** 白芽十二萬六千四百四十五貫

**販賣先、用途及農家ノ賣拂價格**

(イ)販賣先 芽白ハ重ニ但馬ニシテ岐阜、大垣、伊勢、東京、神戸地方ヘ少シク移出スルモ多クハ本巢郡地方ニテ行李ニ製造シ名古屋、横濱、江州、北陸地方ヘ販出ス

又製品中ノ網代編品ハ横濱ヲ經テ歐米各國濠洲等ヘ輸出ス

(ロ)用途 行李、網代編類

ハ農家ノ白芽賣拂價格

上	七拾五錢	四十五年	四十四年	四十三年	四十二年	四十一年
物	四拾五錢	參拾錢	貳拾五錢	六拾五錢		

第一紀 柳(岐阜縣)



中物	六拾五錢	參拾五錢	貳拾貳錢	拾八錢	六拾錢
下物	四拾五錢	貳拾錢	八錢	八錢	四拾錢

(二) 主產地 安八郡

平均	四十四年	四十三年	四十二年	四十一年	四十年
均	六拾四錢五厘	四拾八錢八厘	參拾錢	參拾錢	拾六錢六厘

耕作物ノ時價

(一) 主產地 本巢郡

白芽(一貫目ニ付)	上	九拾五錢	七拾五錢	五拾錢
	中	七拾五錢	七拾五錢	五拾錢
青芽(一圓ニ付)	上	六拾五錢	七拾五錢	九拾錢
	中	七拾五錢	七拾五錢	五拾錢

(二) 主產地 安八郡

白芽(一貫目ニ付)	上	七拾錢	六拾五錢	五拾錢
	中	六拾五錢	六拾五錢	五拾錢
白芽(一貫目ニ付)	上	七拾錢	六拾五錢	五拾錢
	中	六拾五錢	六拾五錢	五拾錢

收支計算 (一反步當)

(一) 主產地 木巢郡

(甲) 收入ノ部(自作ノ場合)

主產地	上	二拾五貫	五拾錢	拾八圓
中	四拾五貫	四拾錢	拾八圓	
下	二拾五貫	貳拾錢	拾八圓	
副產物	剝皮條	二拾五貫	貳拾錢	五拾錢

收入合計金參拾四圓七拾五錢

(乙) 支出ノ部(自作ノ場合)

種木	數	單價	總價格	備考
肥料	二十五貫	一貫目拾參錢	參圓貳拾五錢	種木代即插苗代及勞銀中整地費等八年々要セザルモ恒宜掲載セリ
勞銀	男二十九人 女二十四人	男五拾錢 女參拾錢	拾壹圓七拾錢	
公課諸掛	壹	拾壹圓七拾錢	圓	

支出合計拾五圓九拾五錢

勞銀內譯	男	二	〇・五〇	〇・五〇	一・〇〇
	女	一	〇・五〇	〇・三〇	〇・八〇
整地	男	一	〇・五〇	〇・三〇	一・〇〇
	女	一	〇・五〇	〇・三〇	一・〇〇
插苗	男	一	〇・五〇	〇・三〇	一・〇〇
	女	一	〇・五〇	〇・三〇	一・〇〇
施肥	男	一	〇・五〇	〇・三〇	一・〇〇
	女	一	〇・五〇	〇・三〇	一・〇〇
中耕及除草	男	一	〇・五〇	〇・三〇	一・〇〇
	女	一	〇・五〇	〇・三〇	一・〇〇







調製	五	一六	〇・五〇	〇・四〇	二・五〇	六・四〇	八・九〇
乾燥	一	三	〇・四〇	〇・二五	〇・四〇	〇・七五	〇・七五
荷造							〇・四〇

合計金貳拾圓四拾錢

(丙) 收支計算

收入總計 金六拾四圓五拾錢

支出總計 金貳拾七圓四拾錢

差引純益 金參拾七圓拾錢

但シ支出總額ヨリ勞銀ヲ控除シタル殘額ヲ支出トシテ收入總計ヨリ差引キ殘額ヲ全部勞銀ト看做シ之レヲ所要ノ勞働者男女別延人員數ニ按分ニ分配シ男女各一人一日ノ勞働賃男一日金貳圓參拾錢女ハ一日金六拾九錢ニ相當ス

(丁) 杷柳ト他作物トノ收支計算比較

杷柳栽培地ト同様ノ土地ニ杷柳ト同一期節ニ作付スヘキ主作物トシテハ堤外ニテハ川柳、堤内ノ比較的浸水少ナキ地ハ水稻ナルモ地方ニヨリテハ堤外地ノ低濕ナル葦生等ヲ開墾シテ作付セルヲ以テ他ノ作物全ク生育セズ爲メニ比較スベキ主作物ナキ地アリ今茲ニ主産地本巢郡ニ於ケル水稻作トノ收支計算ヲ示セバ次ノ如シ

主産物	米	數	量	單	價	總	價	格
副産物	麥	四	拾	貫	十	參	拾	錢
		一	拾	石	拾	五	圓	拾
		壹	圓	貳	拾	錢		

收入合計金拾六圓貳拾錢

(乙) 支出ノ部(自作ノ場合)

種子	數	量	單	價	總	價	格	備	考
肥料	二	升	五	合	一	拾	錢	拾	五
勞銀	七	人	二	分	五	拾	錢	六	拾
公課諸掛	七	人	八	分	六	圓	貳	拾	五

支出合計金八圓五拾錢

勞銀內譯	人	數	一日	賃	銀	總	賃	銀
苗床整地	男	〇・五	〇	〇	〇	〇	〇	〇
播種	男	〇・二	〇	〇	〇	〇	〇	〇
苗床整地	男	〇・〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
本田整地	男	〇・〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
移田植	男	〇・〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
中耕除	男	〇・〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
收穫	男	〇・〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
調製	男	〇・〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

計金六圓貳拾五錢

(丙) 收支計算

收入總計 金拾六圓貳拾錢

支出總計 金八圓五拾錢

差引純益 金七圓七拾錢



右ノ内支出總額ヨリ勞銀ヲ控除シタル殘額ヲ支出トシテ收入總計ヨリ差引其殘額ヲ勞銀ト看做シ之レヲ所要勞働者男女別  
 延人員數ニ按分シテ男女各一人一日ノ賃銀ガ幾何ニ相當スルヤ算出シ附記スルニ左ノ如シ  
 但シ此場合ニモ土地其他ノ資本利子及農具損料等ハ支出ニ計算セサルモノナリ  
 男一人一日當 金壹圓貳拾貳錢四厘  
 女一人一日當 金七拾參錢參厘

宮 城 縣

整 品 土

質 第四紀新層腐植土(追川及北上川沿岸)  
 種 主トシテ栽培セラル、モノハ細葉種ニシテ全栽培地ノ約七割ヲ占メ其餘ハ丸葉種及中葉種等ナリ  
 地 植付ノ初年ハ先ツ其前年秋期ニ於テ荒起シヲナシ耕土ヲ寒氣ニ曝シテ之ヲ膨軟ナラシメ翌春三月上旬頃  
 再ビ耕鋤ヲ行ヒ地面ヲ平坦ナラシム而シテ濕氣ノ甚シキ所ハ其土地ニ三間距リ位ニ一尺内外ノ明渠ヲ設ケ排水ニ便ス而  
 シテ二年目ヨリハ耕鋤ヲナスコトナク單ニ中耕ヲ行フニ止ム

肥 施

肥料ハ主トシテ人糞尿ヲ用ヒ反當三百貫外外ヲ普通トス春期萌芽ノ漸ク五寸位ニ伸長シタル頃ニ反當  
 百貫外及夏期土用前秋期九月中旬頃ノ二回ニ二百貫外内外ヲ分施ス

插 植

三月上中旬ノ頃強壯ナル親株ノ内ヨリ強壯ニシテ充實セル眞直ナル枝條ヲ選ビ株元ヨリ之ヲ伐採シ下部  
 三寸及上部八九寸位ヲ切り捨テ中間ノ部分ニ十芽位ヲ附シテ長サ約八寸ニ切り其先端ヲ三角形ニ削リタルモノヲ畦幅一  
 尺七八寸株間一尺ヲ距テ深サ五寸位ヲ度トシ地上ニハ三四箇ノ芽ヲ現ハシテ挿入スルヲ普通トス

中耕及除草

中耕ハ年三回位ニシテ通常第一回ハ四月上旬ニ於テ株ノ兩側ヲ淺ク掘リ上ケ日光ノ透過ヲ計リ肥料ノ分  
 解ヲ促進シ第二回ハ五月中旬頃再ヒ土ヲ株際ニ寄セ第三回及第四回ハ八月中芽後後肥ノ都度之ヲ行フ  
 除草ハ雜草繁茂ノ度毎之ヲ行ハ其効大ナルモ柵柳栽培地ノ如キハ他ノ畑地ヨリ其繁茂甚シク從而多クノ勞力ヲ要スル  
 カ故ニ普通一二回ニ止ム

摘 芽

植付後二ケ年ハ之ヲ行ハサルモ三年目ヨリハ夏土用前マテニ萌芽ノ狀況ニヨリ隨時之ヲ行フ而シテ芽掻  
 ニ最モ注意スヘキハ芽ヲ搔除スル時ハ其芽ノ基部黑色ニ變スルモノニシテ土用前ナレハ其後木質形成ノ際之ヲ被覆スル

カ故ニ柳ノ品質ヲ害スル事ナキモ土用後ナル時ハ其基部黑變シテ著シク柳ノ品質ヲ損スルモノナレハ土用後ハ決シテ之  
 ヲ行フヘキモノニアラス  
 普通芽掻ハ基部ニ在ル芽ハ伸長シテ他ヲ害スルモ上部ノモノハ大ナル支障ヲ及ボサ、ルモノナルカ故ニ收穫後ニ於テ切  
 リ取ルモ差支ナキモノナリ

病 害

病害ハ殆ント之ヲ認メサルモ害蟲トシテハ柵柳ノるりはむし及金龜子葉捲蟲等アルモ間々金龜子及るり  
 はむしヲ捕蟲網ニテ捕殺スルノ外驅除豫防ヲ行フモノナシ

收 穫

植付初年ハ肥培管理其宜シキヲ得テ枝條五六尺位ニ伸長セハ收穫シ得ルモ概ネ二年目ヨリ之ヲ收穫ス其  
 收穫期ハ春刈ト夏刈トアリ前者ハ二月中旬頃銳利ナル小鎌ヲ以テ枝條ヲ株元一寸内外ノ所ヨリ之ヲ伐採ス而シテ伐採後  
 株直シト稱シ刈跡ノ株ヲ整理スルト同時ニ刈殘リノ小枝ヲ全部伐採ス後者ハ八月中旬頃枝條ノ長ク且ツ生育ノ旺盛ナル  
 モノヲ銳利ナル小鎌ヲ以テ丁寧ニ他ヲ損傷セサル様ニ注意シテ選伐ス

調 製

收穫後直ニ剥皮スルカ又ハ池沼等ニ假挿シ置キ其根部ニ白毛ヲ生シテ樹液ノ流通ヲ始メ剥皮ニ便ナルニ  
 至レル時即チ八十八夜頃(五月二日頃)ニ晴天ノ日ヲ見計ヒ之ヲ引キ揚ケ長サ八寸位ノ中央ヲ薄ク削リU字形ニ曲ケタル  
 モノニテ柳ヲ扱キテ剥皮ス而シテ剥皮シタルモノハ樹液ノ乾燥セサルニ先チ直チニ之ヲ清淨ナル流水ニテ良ク洗滌シテ  
 枝條ニ存在セル樹液ヲ悉ク洗ヒ去リ其後之ヲ取り揚ケ乾燥ス

洗 滌

洗滌終リタルモノハ日當リ良キ場所ニ架テ設ケ之ニ斜ニ立テ、乾燥ス而シテ乾燥二日間ニ及ヘハ之ヲ五十本内外ノ小束  
 トナシ晴天ノ日ハ毎日之ヲ庭前及ヒ路傍等ニ立テ、乾燥ス斯クスルコト三四日ニシテ乾燥ヲ終リ後チ柳ノ長短大小色澤  
 ノ良否等ニ依リテ上中下ノ三種ニ撰別シテ別々ニ梱包シ倉庫物置或ハ風通ノ良キ場所ヲ撰ヒテ貯藏ス

選 別

選別ヲ終リタルモノハ之ヲ行李或ハ手提等ノ製造用ニ供スルモ行李ノ製造ヲ主トス而シテ柳ノ五尺五寸以上ノモノハ  
 大馬(行李ノ外法長サ二尺六寸幅一尺四寸五分)製造用五尺以上ノモノハ長尺別名ニツ折(長サ二尺四寸幅一尺三寸  
 八分)四尺七寸以上ノモノハ三ツ折(長サ一尺九寸五分幅一尺三寸五分)其他ノモノハ尺荷(長一尺七寸五分幅一尺五  
 分)製造用又ハ雜具用ニ供ス而シテ其製法ハ最初柳ニ濕氣ヲ與ヘテ之ヲ編ミ煙蒸室ニ入レ硫黃ヲ燻シテ漂白シ後竹及籐  
 ノ如キモノニテ縁ヲ取り付ケテ工作ヲ終ル而シテ一日一人ノ工程ハ編方及縁付各分業ニシテ編方ハ六枚縁付モ亦六枚ニ  
 シテ二人共同一日六個ノ行李ヲ製シ得而シテ行李一個ヲ製スルニ要スル柳ノ量ハ大馬ニハ一貫目長尺ハ八百三ツ折ハ  
 七百九ニシテ編糸ハ平均一個ニ就キ十五匁ヲ要ス



**包 裝** 製造シタル行李ヲ他ニ搬出スル時ハ大ナルモノ、内ニ中小ト順次ニ詰メテ其上ヲ蓆又ハ莫産ノ如キモノニテ梱包シテ搬出ス

**收 量** 植付ノ初年ハ反當僅カニ生柳ニテ二十五貫内外ナレトモ二年目ニハ八十貫三年目ニハ百五十貫内外ニシテ漸次收量ヲ増シ五六年度目頃ニ至レハ生柳四百貫ヲ得而シテ生柳ヲ白柳ニ製スル時ハ白柳ノ生産量ハ生柳ニ對シ其減歩合ハ七割二分内外ナル故ニ五六年度目頃ニ於ケル白柳ノ生産量ハ反當平均生柳ノ四百貫ニ對シ其二割八分即チ百十貫内外ナリトス

**販 賣 先** 販賣先ハ主トシテ東京、北海道、朝鮮及地廻リ等トス

柶柳 生産 高

年 度	作付反別	反當收量	總 産 額	單 價	總 價 格	備 考
明治四十一年	六一〇	四七〇	三九〇〇〇	一五八	四九、〇〇〇	
明治四十二年	七一〇	一〇〇〇	七二〇〇〇	一八五	一三三、〇〇〇	
明治四十三年	六三二	七六七	四八四〇〇	三〇〇	六九、二〇〇	收穫當時春出水ノ爲メ流サレタルモノ多シ
明治四十四年	六六三	〇六七	四五〇〇〇	五二〇	三〇〇、〇〇〇	大洪水ノ爲メ大損害ヲ受ケ收量減ス
大正元年	六三三	六〇五	四〇七〇〇〇	六〇〇	二五〇、〇〇〇	水害ノ爲メノ損害未タ恢復セザル爲メ收量少シ

柳行李生産高調

項 目	明治四十二年	明治四十三年	明治四十四年
總 産 額	二、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一八、〇四八
單 價			一〇、〇〇〇
總 價 額			一九、八五二、八〇〇

最近五ケ年間白柳價額表 (白柳一貫目ニ付)

種 別	最近ニ於ケル行李價額表 (柳行李一個ニ付)			
	明治四十年	明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年
上 柳	四〇〇	五〇〇	四〇〇	四〇〇
中 柳		四〇〇	三〇〇	三五〇
下 柳		三五〇	二五〇	二五〇
種 別	明治四十三年	明治四十四年	大 正 元 年	
大 馬	一〇八〇	一〇二〇	一〇六〇	一〇六〇
大 尺	一〇一〇	一〇〇〇	一〇六〇	一〇〇〇
長 尺	一〇四〇	一〇〇〇	一〇三〇	一〇四〇
三 折	一〇二〇	一〇七〇	一〇七〇	一〇七〇
中 折	一〇八〇	一〇〇〇	一〇一五	一〇五〇
上 折	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇四〇	一〇六〇
中 荷	一〇七〇	一〇〇〇	一〇九八	一〇〇〇

柶柳栽培一反歩收支計算

本縣ニ於ケル柶柳栽培地ハ唯タ一ヶ所ニ止マリ然カモ漸ク明治四十年頃ヨリ盛シナリシモノニシテ本年ニテ僅カニ五ケ年ヲ經過シタルノミナレハ柶柳ノ如キ永年作物ノ收支状態ヲ調査スルニハ其一代ヲ經過シタル後ニアラサレハ詳查スルコト能ハス故ニ今回ハ植付初年ヨリ五ケ年目ニ至ル各年毎ノ收支ヲ調査シ更ニ之ヲ通計シテ本年即チ第五年度目現在ノ收支状態ヲ調査シ報告スルニ止ム

柶柳栽培一反歩收支計算表

第一年度目、明治四十年



收入ノ部

種別	白柳		
	上	中	下
種別			
數量	四・六〇〇	四・六〇〇	四・六〇〇
單價		四・〇〇	
價額		一・八四〇	
備考			

項目	銀勞										
	小計	洗滌及乾燥	剝皮	假插	株間	收種	中耕	除草	挿植	排水溝手入	開墾手入
數量	三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇	四〇〇	二〇〇	一〇〇	四〇〇
單價	三・〇〇	四・〇〇	二・五〇	二・五〇	二・五〇	二・五〇	二・五〇	四・〇〇	二・五〇	四・〇〇	四・〇〇
價額	九・〇〇	四・〇〇	二・五〇	二・五〇	二・五〇	二・五〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	四・〇〇	一・六〇〇
備考	苗木ハ岐阜ヨリ購入シタルモノナレバ其運賃ソモ含ム 食費ハ人夫各自ノ負擔ナリ										

項目	公課諸掛			
	地租	縣稅	村稅	地租附加稅
支計	〇・三四	〇・二〇	〇・〇七	〇・六一
總計	一・四四	四・三六		

土地其他資本利子及農具損料等ハ計上セズ

項目	收支決算									
	洗滌及乾燥	剝皮	假插	株直	收種	中耕	除草	挿植	排水溝手入	開墾手入
人夫數	七・五	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	四・〇	二・〇	一・〇	四・〇	四・〇
一日賃銀	四・〇〇	二・五〇	二・五〇	二・五〇	二・五〇	二・五〇	二・五〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇
總賃銀	三・〇〇	二・五〇	二・五〇	二・五〇	二・五〇	一・〇〇	五・〇〇	四・〇〇	一・六〇	一・六〇
合計	五・三七五	二・五〇	二・五〇	二・五〇	二・五〇	一・〇〇	五・〇〇	四・〇〇	一・六〇	一・六〇



今支出總額ヨリ勞銀ヲ控除シタル殘金ヲ支出トシテ之ヲ收入總計ヨリ控除シ其殘額ヲ全部勞銀ト看做シ之ヲ所要勞働者男女別延人員ニ對シテ按分ニ分配シ男女各一人一日ノ賃銀カ幾何ニ相當スルヤ算出スレハ即チ左表ノ如シ但シ土地其他資本利子及農具損料等ハ支出ニ計上セズ

收入總額對支出總額及勞銀計算表

項目	支	出	ノ	部	收入總計		支出總額		勞銀總額		比較		收入總計ヨリ差引殘金控除額	
					男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
收入總計					七・五	九・五	一・八四〇	一四・四三六	五・三七五	九・〇六一				
一 反歩當リ延人員					七・五	九・五								
收入總計ヨリ差引殘金控除額按分														
當一人一日割當額														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														
下														
收入總計														
種別														
白柳														
上														
中														



項目	勞銀內譯		勞銀		公課諸掛		勞銀	
	男	女	男	女	地租	村稅	假株	中除
開墾手直	4.00	2.00						
排水溝手入	8.00	2.00						
插草植								
中除								
總計	12.00	4.00	38.50	1.50	3.80	1.50	6.00	2.00
備考	土地其他資本利子農具 損料等ハ計上セズ							

項目	種別	收入		支出		差引損	差引益
		柳上	柳中	柳下	總計		
開墾手直	種別	29.60	9.60	2.00	1.00	2.50	3.75
排水溝手入	種別	4.00	2.00	0.80	0.80	1.65	4.375
插草植	種別	3.00	3.00	0.90	0.90	0.45	1.25
中除	種別	2.00	2.00	0.60	0.60	0.45	1.25
總計	種別	38.60	17.60	6.86	6.86	3.75	5.914



芽種	二〇〇										
收直	四〇〇										
株直	三〇〇										
假插	二〇〇										
剝皮	六〇〇										
洗滌及乾燥計	一一・五〇										
支出總計	二七・〇〇										
收入總計	一三・八四〇										
差引損	一三・八四〇										
差引益	六・六八二										

今支出總額ヨリ勞銀ヲ控除シタル殘額ヲ支出トシテ收入總計ヨリ控除シ其殘額ヲ全部勞銀ト看做シ之ヲ所要勞働者男女別延人員ニ對シテ按分ニ分配シ男女各一日一人ノ賃銀カ幾何ニ相當スルヤ算出スレハ即チ左表ノ如シ但シ土地其他ノ資本利子及農具損料等ハ支出ニ計上セズ

收入總額對支出總額及勞銀計算表

收入總計	支出總額	對勞銀總額ノ比較	收入總計ヨリ差引殘金控除額
一三・八四〇	二〇・五二二	九・一二二	四・七一八
男	二・七〇	一・九二五	一・六四
女	二・七〇	二・七九三	一・〇三
男	二・七〇	二・七九三	一・〇三
女	二・七〇	二・七九三	一・〇三

第三年目 明治四十二年

種別	數	量	價	價	額	備考
白柳上	三五〇〇		四〇〇		一四〇〇〇	
白柳中	一〇〇〇		三〇〇		三〇〇〇〇	
白柳下	六〇〇		二五〇		一五〇〇〇	
收入總計	五一〇〇				一八・五〇〇	
排水溝手入		一・八〇	四五〇		四五〇	
除草		四・〇〇	三〇〇		一二〇〇	
中耕		三・〇〇	四五〇		一三五〇	
芽種		三・〇〇	三〇〇		九〇〇	
收直		三・〇〇	三〇〇		九〇〇	
株直		三・〇〇	三〇〇		九〇〇	
假插		三・〇〇	三〇〇		九〇〇	
剝皮		三・〇〇	三〇〇		九〇〇	
洗滌及乾燥		二・〇〇	四五〇		九〇〇	
小計		三二・五〇			一〇・六五〇	
地租					〇・三四	
縣稅					〇・二〇	
村稅					〇・〇七	
掛諸課公						



項 目	銀 勞											種 別	收 入 總 計	白 柳 上 中 下	種 別																		
	苗	小	苗	開	聖	手	直	植	草	耕	中					除	芽	收	株	剝	假	株	剝	洗	及	地							
數	三〇〇	三〇〇	三〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	八〇〇	五五〇	一九二〇	六〇〇	一〇〇	三〇〇	三〇〇			
單																																	
價																																	
額	九〇〇	九〇〇	九〇〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	三三三四	二四〇〇	六八四〇	一五〇〇	三三三四	二〇〇	二〇〇		
備																																	
考																																	

土地其他資本利子及農具損料等ハ計上セズ

項 目	銀 勞											種 別	收 入 總 計	白 柳 上 中 下	種 別																			
	苗	小	苗	開	聖	手	直	植	草	耕	中					除	芽	收	株	剝	假	株	剝	洗	及	地								
數	三〇〇	三〇〇	三〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	八〇〇	五五〇	一九二〇	六〇〇	一〇〇	三〇〇	三〇〇				
單																																		
價																																		
額	九〇〇	九〇〇	九〇〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	三三三四	二四〇〇	六八四〇	一五〇〇	三三三四	二〇〇	二〇〇			
備																																		
考																																		

通計 第三年目  
收入ノ部

項 目	銀 勞											種 別	收 入 總 計	白 柳 上 中 下	種 別																			
	苗	小	苗	開	聖	手	直	植	草	耕	中					除	芽	收	株	剝	假	株	剝	洗	及	地								
數	三〇〇	三〇〇	三〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	八〇〇	五五〇	一九二〇	六〇〇	一〇〇	三〇〇	三〇〇				
單																																		
價																																		
額	九〇〇	九〇〇	九〇〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	三三三四	二四〇〇	六八四〇	一五〇〇	三三三四	二〇〇	二〇〇			
備																																		
考																																		

收入ノ部  
支出ノ部  
差引損益



課 縣 地 租 制	諸 村 地 租 制	掛 地 租 制 加 稅 計	支 出 總 計
○六〇	○二一	○一八三	三二二

項 目	人 夫 數		一 日 賃 銀		總 賃 銀		備 考
	男	女	男	女	男	女	
開墾手間	四〇	〇	一・六〇	〇	一・六〇	〇	食費ハ勞働者各自ノ負擔トス
排水溝手入	三〇	〇	一・二五	〇	一・二五	〇	
插植	二〇	〇	〇	〇	〇	〇	
除草	二〇	〇	三・二〇	〇	三・二〇	〇	
中耕	七〇	〇	一・四〇	〇	一・四〇	〇	
芽掻	五〇	〇	二・〇五	〇	二・〇五	〇	
收穫	七五	〇	一・六五	〇	一・六五	〇	
株直	六〇	〇	一・四〇	〇	一・四〇	〇	
假挿	五〇	〇	四・五〇	〇	四・五〇	〇	
剝皮	一六〇	〇	一・五五	〇	一・五五	〇	
洗濯及乾燥計	七五	〇	七・三五	〇	七・三五	〇	
收入合計	三二二	〇	三二二	〇	三二二	〇	益
支出合計	三二二	〇	三二二	〇	三二二	〇	引
差引損							
差引益							

今支出總額ヨリ勞銀ヲ控除シタル殘額ヲ支出トシテ之レヲ收入總計ヨリ控除シ其殘額ヲ全部勞銀ト看做シ之ヲ所要勞働者男女別延人員ニ對シテ按分ニ分配シ男女各一人一日ノ賃銀カ幾何ニ相當スルヤヲ算出スレハ即チ左表ノ如シ但シ土地其他ノ資本利子及農具損料等ハ支出ニ計上セス

收入總計		支出總額對勞銀總額ノ比較		收入總計ヨリ差引殘金控除額	
支 出 總 額	勞 銀 總 額	差 引 殘 金	殘 額	高 不 足	足
三二・三四〇	三二・三四〇	九・一八三	二二・一五七	〇	〇
三ヶ年通計反當延人員					
男	女	男	女	男	女
一七・五	五三・五	七・七二二	一五・四四八	四・四一	二・八九
第四年目 明治四十三年					
種 別	數	單 價	價	額	備 考
白柳	六〇	四〇	二四〇〇		
中柳	二〇〇	三五	七〇〇〇		
下柳	八〇〇	二五	二〇〇〇〇		
收入總計	八八〇	〇	三三〇〇〇		
項 目	數	單 價	價	額	備 考
排水溝手入	二〇	四五	九〇〇	四五〇	







項目	勞銀內譯		一日賃銀		總賃銀		備考
	男	女	男	女	男	女	
插草	二・〇〇	一・五〇			四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇
中耕	一・五〇	一・〇〇			三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇
除草	一・〇〇	一・〇〇			二・〇〇	二・〇〇	二・〇〇
株收	九・〇〇	一・五〇			一〇・五〇	一〇・五〇	一〇・五〇
假株	八・五〇	九・〇〇			一七・五〇	一七・五〇	一七・五〇
剝皮	二・八〇	八・五〇			一一・三〇	一一・三〇	一一・三〇
洗滌及乾燥	六・〇〇	二・七〇			八・七〇	八・七〇	八・七〇
小計	三〇・七〇	二〇・〇〇			五〇・七〇	五〇・七〇	五〇・七〇
公課							
地租							
縣稅							
村稅							
掛諸稅							
支出總計	四三・〇六九	二四・〇二八			六七・〇九七	六七・〇九七	六七・〇九七

土地其他資本利子及農具損料等ハ之ヲ計上セ

食費ハ労働者各自ノ負擔トス

項目	收入	支出	差引損	差引益
芽種	九・〇〇	一・五〇	七・五〇	七・五〇
株收	一一・五〇	九・〇〇	二・五〇	二・五〇
假株	九・〇〇	八・五〇	〇・五〇	〇・五〇
剝皮	二・八〇	二・八〇	〇・〇〇	〇・〇〇
洗滌及乾燥	六・〇〇	二・六七五	三・三二五	三・三二五
計	二四・〇〇	一〇・二七五	一三・七二五	一三・七二五

收入總計	支出總計	差引損	差引益
六五・三三四	四三・〇六九	二二・二六五	二二・二六五

今支出總額ヨリ勞銀ヲ控除シタル殘額ヲ支出トシテ之ヲ收入總計ヨリ控除シ其殘金ヲ全部勞銀ト看做シ之ヲ所要勞働者男女別延人員ニ對シテ按分ニ分配シ男女各一人一日ノ賃銀カ幾何ニ相當スルヤヲ算出スレハ即チ左表ノ如シ但シ土地其他資本利子及農具損料等ハ支出ニ計上セ

收入總額對支出總額及勞銀計算表

收入總計	支出總額對勞銀總額ノ比較		收入總計ヨリ差引殘金控除額
	支出總額	勞銀總額	
六五・三三四	四三・〇六九	三三・八二五	五六・〇九六
四年通計一反當延人員	二四・〇〇	八三・〇〇	一七・〇五三
男			三九・〇四三
女			七・一一
收入總計ヨリ差引殘金控除額按分			四七・〇
男			
女			



第五年目 明治四十四年

種別	白柳		
	上	中	下
收入總計	六五〇〇	二〇〇〇	一五〇〇
種別	六五〇〇	二〇〇〇	一五〇〇
數量	六〇〇	二〇〇	一五〇
單價	一〇〇	一〇〇	一〇〇
價額	六〇〇	二〇〇	一五〇
備考			

項目	勞銀										
	洗滌及乾燥	剝皮	假植	株直	收種	芽播	中耕	施肥	除草	排水溝手入	小計
數量	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
單價	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
價額	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
備考											

項目	公課諸掛			
	地租	縣稅	村稅	地租附加
支出總計	四五〇	〇	〇	〇
備考	土地其他資本利子農具損料ハ之ヲ計上セズ			

收支決算

項目	勞銀		一日賃銀	總賃銀	備考
	男	女			
排水溝手入	一〇〇	〇	五〇〇	五〇〇	食費ハ人夫各自ノ負擔トス
除草	二〇〇	〇	三〇〇	三〇〇	
施肥	二〇〇	〇	五〇〇	五〇〇	
中耕	三〇〇	〇	三〇〇	三〇〇	
芽播	三〇〇	〇	三〇〇	三〇〇	
收種	三〇〇	〇	三〇〇	三〇〇	
株直	三〇〇	〇	三〇〇	三〇〇	
假植	四〇〇	〇	三〇〇	三〇〇	
剝皮	一五〇	〇	三〇〇	三〇〇	
洗滌及乾燥	三〇〇	〇	五〇〇	五〇〇	
計	九〇〇	〇	三六〇〇	三六〇〇	



收入總計	五〇七五〇	支出總計	二二・三六一	差引損		差引益	二九三八九
通計 第五年目				收入ノ部			

種別	白柳			種別	白柳		
	上	中	下		上	中	下
收入總計	一八〇〇〇	五九六〇〇	二九〇〇〇	收入總計	一八〇〇〇	五九六〇〇	二九〇〇〇
支出ノ部	二六八六〇〇	二九〇〇〇	二六八六〇〇	支出ノ部	二六八六〇〇	二九〇〇〇	二六八六〇〇
量	一八〇〇〇	五九六〇〇	二九〇〇〇	量	一八〇〇〇	五九六〇〇	二九〇〇〇
單				單			
價				價			
額	八七〇〇	二一・八四〇	七・二五〇	額	八七〇〇	二一・八四〇	七・二五〇
備考				備考			

項目	種苗		肥料		項目	種苗		肥料	
	小	大	小	大		小	大	小	大
除害					除害				
除草					除草				
排水溝手					排水溝手				
開墾手					開墾手				
小					小				
人糞					人糞				
計	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	計	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇
木					木				
量					量				
單					單				
價					價				
額	九〇〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇	額	九〇〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇	九〇〇〇
備考					備考				

項目	勞銀		公課		掛諸		項目	勞銀		公課		掛諸	
	施中	收株	假株	刈皮	洗滌及乾	小		地租	縣稅	村稅	地租	附加稅	小計
施肥													
耕													
插													
直													
穫													
假													
皮													
洗滌及乾													
小													
地租													
縣稅													
村稅													
地租													
附加稅													
小計													
總計													
備考													

項目	勞銀		公課		掛諸		項目	勞銀		公課		掛諸	
	施中	收株	假株	刈皮	洗滌及乾	小		地租	縣稅	村稅	地租	附加稅	小計
施肥													
耕													
插													
直													
穫													
假													
皮													
洗滌及乾													
小													
地租													
縣稅													
村稅													
地租													
附加稅													
小計													
總計													
備考													







柵柳栽培初年ヨリ五年目ニ至ル一人一日勞働賃銀對同賃銀ニ對スル利益割當額一覽表

年 別	一人一日ノ賃銀		同上ニ對スル利益ノ割當額	
	男	女	男	女
明治四十年(第一年度)	四〇〇	二五〇	損	損
同四十一年(第二年度)	四五〇	三〇〇	益	益
同四十二年(第三年度)	四五〇	三〇〇	益	益
同四十三年(第四年度)	四五〇	三〇〇	益	益
同四十四年(第五年度)	五〇〇	三〇〇	益	益

高知縣

土

第四紀ノ新層ニ屬スル壤質土ナリ元來本縣ニ於ケル柵柳ハ土地利用ノ目的ヲ以テ河水汎濫シテ他作物ノ收穫見込ナキ低窪地ニ栽培セラレルモ然モ尙ホ砂質ヲ帶ヒテ地下水低キ土地ハ優品ヲ産シ重粘ニシテ常ニ水ノ停滯スル所ハ生育不良ナリ

肥

赤木ノ細葉ニ屬セリ偶々樹皮青色ヲ帶フルモノアルモ兩者間ニ判然タル區別ヲ認メス  
本縣ノ柵柳栽培地ハ低窪地ニシテ年々降雨ノ際濁水汎濫シテ肥養分ヲ搬入スルヲ以テ特ニ肥料ヲ施與スルノ必要少ク從ツテ何等施肥ヲ行ハス

植

挿木ニヨリ之ヲ繁殖ス挿植時期ハ落葉中ハ何時ニテモ差支ナク發芽後ト雖モ生着スルモノナレトモ挿植ノ際剥皮ノ憂アルヲ以テ十一月ヨリ翌春二月下旬迄ヲ適期トス而シテ之ヲ挿植スルニハ本田整地後二尺ノ畦條ヲ作り株間八寸トシ三寸餘ヲ土中ニ挿植スルナリ若シ密植ニ過キカ柳條細長ニシテ品質可ナルモ收量少ク樹命亦短シ粗植ニ過シカ樹命長ク收量多キモ柳條粗大ニシテ挿植後四五年ヲ經過スルニアラサレハ精品ノ製作ニ適スル良品ヲ産出セザルナリ

穂木ノ反當用量ハ長サ八九寸ニ切りタルモノニテ普通三十貫内外ナルモ薄薄ノ土地ニハ直徑大ナルモノヲ肥沃ノ所ニハ

中耕除草

小ナルヲ用ユルカ故ニ土地ニヨリ十五貫乃至五十貫ノ差異アリ  
植付初年ハ春季ヨリ數回之ヲ行フモ此期間ハ新根漸ク發生シテ甚タ脆弱ナルヲ以テ之ヲ損傷セザルノ注意肝要ナリ二年目ヨリハ春季雜草ノ繁茂セザル内二三回冬季一回淺ク耕耘シテ除草ヲ行フ

摘

此作業ハ柳條ノ分枝セシメサル爲メ行フモノニシテ本栽培中ノ緊要ナル手入ナリ則チ腋芽ノ少クトモ三四寸ニ達スル迄ノ間ニ之ヲ掻キ取ルナリ若シ此作業トシテ時期ヲ失スルコトアラハ傷痕癒着セスシテ製品ノ品位ヲ損スルナリ但挿植四年後ハ本作業ノ必要少ナキニ至ル

病

黒枯病、赤染病アリ赤澁病ハ明治三十五年頃ヨリ點々發生ヲ認メ四十年頃ヨリ漸次猖獗ヲ極メシカ四十四年以後ハ著シク減少セリ本病ハ五月下旬ヨリ葉面ニ點々銹色ノ病斑ヲ生シ漸次蔓延シテ八月上旬ニ至リテ其ノ極度ニ達シ病害甚シキトキハ落葉スルコトアリテ幾分品質ヲ損スルモ收量ニハ甚シキ影響ナシ

黒枯病ハ四十二年頃ヨリ點々發生ヲ認メタルモ漸次激甚ヲ極メテ本縣柵柳栽培上ニ一大打擊ヲ與タリ

本病ハ八月上旬頃ヨリ柳條上部ノ柔軟部或ハ其中部ニ黒褐色ノ斑點ヲ生シ病斑次第ニ擴大シテ十月十一月ニ至レハ枝條中部迄黒變枯死シ而シテ被害部ト健全部トハ環狀ノ結節ヲ以テ判然區別セラル病勢甚シキハ遂ニ株根迄枯死スルモノアリ

蟲

本病ニ罹リタルモノハ材質脆弱シテ製作ニ用ユルコト能ハス

一、葉 卷 蟲  
四月ヨリ六月七月ニ亘リ漸次發生シ新芽ヲ卷キ其ノ内ニ在テ食害スルモノナレハ往々生長點ヲ害シ分枝スルコトアリテ柳ノ品位ヲ損スルコト多シ

二、柳ノるりはむし  
三、うぢすずめ  
三四月ノ頃新葉ニ集來シ食害スルモノナルモ明治四十三年ノ水害後發生ヲ認メス

七月ヨリ九月ニ亘リ發生加害スルモ四十四年冬季ニ於ケル出水ニヨリ全滅セリ

四、金 龜 子  
六七月ニ發生シ葉芽ヲ喰害スルモノナリ驅除法ハ摘殺シ又ハ赤土ヲ練リ之ニテ捕殺ス



**收穫** 種植後二年目ヨリ刈取ル明治四十年頃迄ハ冬夏ノ二季ニ刈取セシモ夏刈ノモノハ木質粗剛ニシテ製品ノ色澤變シ易キト樹勢ノ衰弱甚シキトニヨリ近來主トシテ冬刈ヲ行ヒ夏季ハ單ニ生長優レタル柳條ノミヲ刈取ルナリ冬刈ハ冬季落葉後翌春一月迄ニ銳利ナル鎌ヲ以テ柳條ノ大ナルモノハ基部ヨリ一寸五分小ナルモノハ八分内外ノ所ヨリ刈取リ四斗樽ノ如キモノニ入レ長キモノヨリ漸次之ヲ拔キ取リ大ナルモノハ四五本小ナルモノハ七八本宛把トシ五尺五寸以上ヲ大木、三尺以上五尺五寸以下ヲ中木二尺以上三尺以下ヲ小木二尺以下ヲ細木ノ四段ニ區別シテ日光ノ強射セサル乾田ニ六寸位ノ深サニ挿シ置クナリ如斯シテ四月下旬ヨリ五月上旬ニ至リ發芽伸長シテ一寸乃至一寸五分ニ至ラハ刈皮ヲ行フナリ

夏刈ハ七月中樹勢強壯ナル株ヨリ三尺以上ニ伸長シタルモノヲ刈取ル夏季ハ温度高ク蒸發盛ナルタメ刈口ヨリ下一寸位枯死スルコトアレハ晴天ノ夕方基部ヨリ四寸位ヲ殘シテ刈ルコト肝要ナリ刈取タルモノハ小束トスルカ或ハ其儘之ヲ日影ニ置キ翌日正午迄ニ剥皮ヲ行フ

**調製** 先ツ直徑三分内外ノ女竹ヲ火ニ燻ヘテ缺狀ニ彎曲シ右手ニ之ヲ持チ柳條ヲ左手ニ持チ其中央部ヲ抉ミ左右ノ手ヲ動カシテ先中央以下ノ皮ヲ剥キ次ニ柳條ヲ持直シテ其上部ヲ剥皮シ斯クテ得タル白條ハ直ニ水中ニ入レ強ク揉合セテ充分ニ洗滌シ四斗樽様ノ桶ニ入レ長キモノヨリ順次拔取り上端ヲ束ネテ山形ニ立テ梢端ヲ曲クシテ容易ニ折リ得ル程度ニ乾燥ス杞柳ヲ刈取リタル儘剥皮セサルモノヲ荒木ト云ヒ之ヲ剥皮シテ仕上ケタルモノヲ白柳ト稱ス白柳ノ歩止リハ春木ハ三割乃至三割三分位夏木ハ充分乾燥セハ二割二分位ノ割合ナリ

**貯藏** 充分乾燥シタルモノハ用途ニ應ジテ類別シ空氣ノ乾燥セル所ニ貯藏ス若シ濕氣ヲ帶タルモノヲ貯藏スルカ濕潤ノ場合ニハ忽チ青黴ヲ生シ品質ヲ損スルモノナレハ乾燥セサルモノハ貯藏セサルヘク濕潤ノ恐アルトキハ速ニ日光ニ曝露スヘシ

**收量** 土質肥培ノ如何ニヨリ差異アルモ二年目ヨリ收穫シ始メ逐次收量ヲ増シ四五年度目ヨリ十年位迄略同様ノ收穫ヲ得ヘシ十年以後ハ漸次收量ヲ減シ十四年度目ニハ植替ヲ行フ必要アリ

**栽培反別産額** (四十四年調査)

郡別	反	收量	價格
幡多郡	一七一三	二五、九七五	一一、四〇七

高岡郡	土佐郡	計
一八〇	九〇〇	一〇、八〇〇
六	九〇〇	一〇、八〇〇
一八九九	三三、六七五	一七、九一五

**販賣先** 白柳ハ主トシテ但馬方面ニ而シテ製品ハ粗製ノ儘一旦大阪ニ積出シ仕上ラナシテ高知市其他ニ於テ販賣セリ

**用途** 行李及靴ノ原料

**農家ノ賣拂價格**

年別	一貫目價格
四十年	二・八五〇
四十一年	四・七〇
四十二年	一・五七〇
四十三年	二・七〇
四十四年	九・三〇
平均	一・二一八

**耕作田ノ時價** (備考 右價格ハ上物ニシテ其他ハ大抵十七八錢ヨリ二十錢位ナリ)

田	上	中	下
田	參拾圓	貳拾五圓	貳拾圓
田	參拾圓	貳拾五圓	貳拾圓
田	參拾圓	貳拾五圓	貳拾圓

品目	數量	單價	價額	備考
上物	三六	●九三〇	三三、四八〇	裁別スレハ十四五種ニ區別ス
下物	四	●一八〇	●七二〇	裁別スレハ二種ニテ手合ス
收入金	參拾四圓貳拾錢			
支出之部				



品目	數	量	單	價	價	額	備考
勞銀		一六・五		五〇〇		八・二五	
公課		一・〇		三〇〇		三・六〇	
荷造		二・五		〇四〇		一・〇二	原價八五十間ヲ一把トシ四十貫ノ精價ヲ結束スル數量也

支出金拾參圓拾七錢ナリ

入役明細表

芽中耕除草 虫害驅除 收穫製	人夫數		一日賃金		總賃金		備考
	男	女	男	女	男計	女計	
荷調	二・五	〇	五〇〇	三〇〇	二五〇	三〇〇	日雇人ノ食物ハ機ア雇主ヨリ給ス 年三回行フ
收製	二・〇	〇	五〇〇	三〇〇	二〇〇	三〇〇	年一回冬刈トス
中耕除草	九・〇	二・〇	五〇〇	三〇〇	四五〇	六〇〇	剥皮乾燥
虫害驅除	三・〇	〇	五〇〇	三〇〇	一五〇	三〇〇	反四十貫ヲ結束スルモノ

但夏刈ヲ行ヘハ反當白柳十貫ヲ得ヘシ是カ刈取調製ニハ男一人五分女二人五分役ヲ要ス又初年植付ノ際ニハ插苗三十貫代七圓五十錢ト本田整理人夫男五人半一日插苗人夫男一人女二人役ヲ要ス

收入總計 參拾四圓貳拾錢  
 支出總計 拾參圓拾七錢  
 差引 貳拾壹圓參錢

男女各一人一日ノ賃金 壹圓參拾八錢七厘  
 男 一日 八拾參錢貳厘  
 女 一日 八拾參錢貳厘  
 但土地其他ノ資本利子及農具ノ損料等ハ支出ニ之ヲ計算セス



## 第二 除蟲菊

### 愛知縣

本縣下ニ於ケル除蟲菊ハ極メテ微々タルモノニシテ僅々二三郡ニ涉リ其一部ノ地方ニ栽培セラル、ニ過キス殊ニ近時夏期ニ於テ株ノ枯死スルモノ漸ク多キヲ加ユ故ヲ以テ逐年栽培者ノ減退ヲ招キツ、アリ而シテ之レカ栽培法ハ各地方ニヨリ多少異ナルト雖トモ其主産地ト認メラル、地方ニ於テ調査セルモノ左ノ如シ

第四紀古層ニ屬スル瘠薄ナル粘質壤土ナリ

質 毎年植換ノ際株分ヲ行ヒテ蕃殖シ特ニ苗床ヲ設ケ種子ニヨリ苗ヲ育成スルモノ全クナシ

本畑整地 秋期備中鋸ヲ以テ圃地ヲ深ク打起シ土塊ヲ碎キ幅一尺五寸ノ畦ヲ作り其中央ニ稍深キ溝ヲ設ケ元肥ヲ施シ土ヲ覆ヒ移植ス

移 整地シタル畦上ニ手ニテ穴ヲ穿テ株分シタルモノ(一株芽七八本ヲ有スルモノ)ヲ入レ土ヲ覆ヒ根元ヲ壓置クモノトス但シ株間ハ一尺トス

本畑ノ施肥 肥料ハ一反歩ニ付キ練粕十二貫大豆十五貫ヲ用ヒ原肥トシテ移植ノ際練粕四貫大豆粕五貫第一回追肥トシテ練粕五貫大豆粕六貫第二回追肥トシテ練粕三貫大豆粕四貫ヲ施用ス而シテ第一回追肥ハ二月下旬第二回目ノ追肥ハ四月下旬何レモ條側ニ淺キ溝ヲ設ケ施肥シテ後テ根寄ヲ行フモノトス

中耕及除草 中耕ハ二月下旬及ヒ四月下旬施肥ト共ニ行ヒ其他ハ摘花前一二回夏期二三回草削リヲ以テ除草ヲ行フ

收穫 六月上旬開花シテ花心即チ蒞ノ二三ヶ裂開スルヲ度トシテ朝露ノ乾キタル後手ニテ摘取り薄ク簾上ニ擴ク五六日陽光ニ當テ手ニテ捻リ粉碎セラル、ニ至ルヲ度トシテ吹ニ固ク詰メ濕氣ヲ吸收セサル場所ニ貯藏ス

莖ハ摘花ヲ終リタル後チ直チニ地際ヨリ刈取り一日間圃場ニ擴ケ乾燥シ後チ夜露ニ當ラサル様屋内ニ運搬シ更ラニ一二日乾燥ス

包装 普通ノ筵ニ枚ヲ縫ヒ合セテ方形ノ吹ヲ作り之レ乾花十八貫ヲ入レ一捆トシ繩ニテ固ク結束ス乾莖ハ單ニ二三尺ノ周リニ繩ニテ束ネ販賣ス



栽培反別 二十六町八反歩(明治四十三年度ニ於ケルモノ)  
額 六千五百五十六貫匁(乾花)(同上)

販賣先用途及農家ノ賣拂價格 販賣ハ主トシテ名古屋市、豊橋市方面ニシテ乾花ハ除蟲菊粉トシ乾莖ハ蚊遣粉ノ

原料トス而シテ農家賣拂價格ハ年ニヨリ多少ノ相違アレトモ最近五ケ年間ノ平均ハ乾花一貫匁貳圓七拾五錢乾莖一貫匁參錢ナリトス

耕作畑ノ時價

畑地ノ價格ハ

上畑一反歩五百五拾圓内外  
中畑一反歩四百五拾圓内外  
下畑一反歩參百五拾圓内外

一反歩收支計算

(甲) 收入 入 入 部 (自作ノ場合)

品名	數	單	價	總	價
一、主產物(乾花)	一八〇〇〇	貫	二・七五	四九・五〇	
二、副產物(乾莖)	二六〇〇〇	貫	〇・三〇	七・八〇	
收入合計				五七・三〇	

收入合計金五拾七圓參拾錢也

(乙) 支出 出 出 部 (自作ノ場合)

品名	數	單	價	總	價
肥料代 蘇 粕	拾	貫	五・五〇	六・六〇	
大豆 粕	拾	貫	二・一〇	三・一五	
勞銀 男	拾	圓	五・五〇	七・七〇	
勞銀 女	六	圓	三・五〇	六・六〇	
支出合計				二三・〇五	

公課諸掛

九四五

但シ荷造費ハ仲買人ノ負擔ニ付計上セス

支出金合計貳拾參圓九拾九錢五厘也

項目	男	女	一日ノ賃金	男	女	總賃金	備考
勞銀内譯	二〇	一〇	五五〇	一一〇〇	三三五〇	一・一〇〇	食費ハ勞働者ノ負擔トス
畑打起	一〇	一〇	同	五五〇	五五〇	一・一〇〇	
本畑ノ整理	一〇	一〇	同	五五〇	五五〇	一・一〇〇	
移 植	三〇	三〇	同	一・六五〇	一・七〇〇	一・六七五	中耕ハ施肥ノ部ニ加ヘタルヲ以テ茲ニハ單ニ除草ノ勞力ノミヲ掲ゲ
施肥(追肥二回)	二〇	二〇	同	一・一〇〇	一・一〇〇	一・二〇〇	
中耕除草	三〇	三〇	同	一・六五〇	一・七〇〇	一・六七五	
收 穫	一〇	一〇	同	五五〇	五五〇	一・一〇〇	
乾 燥	一〇	一〇	同	五五〇	五五〇	一・一〇〇	
莖 刈	一〇	一〇	同	五五〇	五五〇	一・一〇〇	
同 他	一〇	一〇	同	五五〇	五五〇	一・一〇〇	
造 其他	一〇	一〇	同	五五〇	五五〇	一・一〇〇	

計金拾參圓參拾錢也

(丙) 收入 支 計 算

五拾七圓參拾錢也

支出總計 貳拾參圓九拾九錢五厘也

差引利益 參拾參圓參拾錢五厘也

右ハ一反歩ニ對スル收支計算ノ梗概ナルカ支出總額ヨリ勞銀ヲ控除シタル殘額ヲ支出トシテ收入總計ヨリ差引キ其殘額ヲ全部勞銀ト看做シ所要勞働者男女別延人數ニ對シテ按分ニ分配スレハ男ハ一日壹圓九拾貳錢七厘女ハ一日壹圓貳拾貳



錢六厘トナル  
但シ以上ハ總テ土地其他ノ資本利子及農具損料等ハ支出ニ計上セス  
(丁) 該作物ト他作物トノ收支計算比較  
除蟲菊ニ對照ス可キ適當ナル作物ナケレトモ桑樹ハ該地方ノ畑作物トシテ大部分ヲ占ムルヲ以テ該作物ヲ對照作物トナシ之レカ收支計算ヲ記セリ

收入總計	五拾七圓八拾錢也
支出總計	貳拾九圓拾七錢五厘也
差引利益	貳拾八圓六拾參錢也

### 岡山縣

#### 土質

縣下ニ於テ本作物ノ栽培盛ナルハ小田、淺口兩郡ノ海岸ニ近キ地方ナリトス而シテ該地方ハ氣候溫暖ニシテ且傾斜セル排水佳良ナル土地ナルヲ以テ殆ト大概ノ地質ニハ栽培セラレツツアレトモ性乾燥ヲ好ミ排水不良ナル地ニアリテハ梅雨ノ候濕氣ノ爲メ屢々枯損スルコトアルカ故ニ可成粘質壤土ノ土地若クハ樹陰多キ地ヲ避ケ專ラ傾斜セル砂質壤土ノ山畑ヲ選ヒテ栽植ス

#### 品種

品種ハ白花種(ベルシヤ種)及赤花種(ダルマシヤン種)ノ二種アリト雖モ專ラ白花種ヲ栽培シ赤花種ハ白花種ニ比シ開花期早キモ性質稍々弱ク生育收量共ニ前者ニ及ハサルヲ以テ營利的ニ栽培スルモノ極メテ少シ  
(備考) 白花種ノ開花期ハ普通五月下旬ヨリ六月上旬トス

#### 採種及選種

採種ニハ花薹落下シ花部黑色ニ變シ花梗約一寸位枯レタル程度ニ熟シタルヲ適度トシ刈リ取りテ稻把位ノ大サニ束ネ軒下ニ吊シテ陰干トナシ置キ水稻插秧後取り下シテ穂ニテ種子ヲ打落シ唐箕ニテ塵埃ヲ簸ヒ更ニ篩ニテ小粒ノ種ヲ除キ袋ニ入レテ天井裏等ニ吊シテ貯藏ス種畑一坪ニ付五合内外ノ種子ヲ得ヘシ

#### 苗床ノ整地

苗床ハ砂質壤土ニシテ溫暖ナル平坦地ヲ選ヒ秋彼岸若クハ晩クモ十月上旬マテニ深サ約三寸位ニ鍬ニテ丁寧ニ打起シ土塊ヲ碎キ幅二尺乃至四尺長サ所要ノ坪數ヲ有スル隴ヲ造リ床面ヲ均平シ水肥ヲ施シテ播種ノ準備ヲナス本畑一反歩ニ對シ苗床一坪ヲ要ス

#### 苗床ノ施肥

苗床ノ肥料ハ栽培者ノ手加減ニシテ其回数及施用量ノ如キモ更ニ一定セサレトモ播種ノ際施肥スル時ハ發芽ヲ害スト稱シテ一般ニ苗床整地ノ際水肥ヲ施シ置キ播種ノ際施肥スルモノナシ追肥ハ發芽後心葉ヲ生シタル頃ヨリ春彼岸迄ノ間ニ生育ノ模様ニヨリ床面三坪ニ對シ稀釋シタル人糞尿四五升或ハ硫酸アンモニヤ十匁内外ヲ施用スルヲ普通トス而シテ硫酸アンモニヤハ其十匁ヲ水三斗内外ニ稀釋シテ用ユルヲ常トス

#### 播種

專ラ秋蒔ヲ行フ秋蒔ノ時期ハ普通九月下旬乃至十月上旬トス  
播種量ハ地方ニヨリ一定セサルモ小田郡地方ニアリテハ一合ノ種子ヲ苗床三坪ニ播下シ淺口郡地方ニアリテハ苗床一坪ニ對シ一合ヲ下種ス種子ハ乾燥セル粉末土壤若クハ細砂ト混和シ豫メ準備セル苗床面ヲ少シク鎮壓シ其上ニ丁寧ニ撒播シ更ニ種子ノ現レサル程度ニ薄ク細土ヲ篩ヒ掛ケ尙種子ノ乾燥セサル模様或ハ薄蓋ノ類ヲ以テ被覆ス

#### 苗床ノ管理

下種後ハ乾燥セサル様態ク注意シ時々如露ヲ以テ灌水ス大抵十五六日ニシテ發芽スルヲ以テ覆ヲ取り除キ時々水肥ヲ施シ除草ヲ行フ丁寧ナルモノニアリテハ發芽後ト雖モ雨天又ハ寒冷ノ日ハ床面ニ竹ヲ架シ其上ニ覆ヲナシ嫩葉ヲ壓セサル様注意シ二葉ヲ生シタル頃ニ至リテ覆ヲ取り除クモノアリ

#### 間引

間引ヲ行フモノナク秋末若クハ春三月頃ヨリ生育盛ナルモノヨリ順次掘り取り別ニ準備セル假植地ニ移植ス之ヲ「植出シ」ト云フ尤モ苗床ニアリテハ順次移植シタル後適宜ノ距離ヲ以テ殘存シタル苗ハ其儘苗床ニ於テ生長セシム

#### 移植

秋彼岸頃若クハ早春畑地ヲ能ク耕起シ土塊ヲ細碎シ幅三四尺ノ隴ヲ造リ表面ヲ均平シ四、五寸乃至六、七寸ノ距離ニ横ニ雁岐ヲ切り床面ヨリ拔キ取りタル苗ヲ一、二寸乃至三寸ノ距離ニ移植シ生着スルヲ待チテ十倍位ニ稀釋シタル人糞尿若干ト一畝歩ニ對シ大豆粕一貫匁トヲ施用ス

#### 本畑ノ整地

麥收穫後若シクハ夏作收穫後三ツ子鍬ヲ以テ一回ヨク打起シ土塊ヲ碎キテ均平シ一尺五寸乃至二尺ノ距離ニ作條ヲ切り移植ノ準備ヲナス粗放ナルモノニアリテハ前作物收穫後別ニ打起シテ行ハス單ニ作條ノミヲ切りテ移植ノ準備ヲナスモノアリ淺口郡地方ニアリテハ畦幅普通一尺内外ナリトス

#### 定植及本畑ノ施肥

前記ノ如ク「植出シ」ヲ行ヒタル苗ハ麥刈取後其跡地ニ本植スルカ又ハ其儘放置シ夏作收穫後秋彼岸頃ヨリ其跡地ニ移植ス最モ淺口郡地方ニアリテハ普通麥刈跡地ニ栽植シ六月二十日頃ヲ以テ移植ノ適期トセリ  
定植ノ方法ハ豫メ準備セル作條内八寸乃至一尺ノ距離ニ一本ツツ配置シ手ニテ土ヲ寄セ掛ケツツ定植スルモノニシテ一



反歩ノ株數五千株乃至七千株トス  
肥料ハ人糞尿大豆粕人造肥料最モ多ク間々魚肥油粕等ヲ用ユルモノアリ施肥ノ時期及施用量ニアリテハ區々ニシテ一定セサレトモ其最モ普通ナルモノニアリテハ移植後十五日乃至三十日後反當堆肥二百貫匁大豆粕十貫匁硫酸アンモニヤ四貫匁内外ヲ施シ其後乾燥スル場合ニアリテハ稀釋セル人糞尿ヲ施用シ十一月頃ニ至リ寒肥ト稱シ株間ニ淺溝ヲ穿テ一反歩當大豆粕十貫匁内外ヲ施シ更ニ元ノ如ク覆土シ置キ翌春三月頃ニ至リ春肥ト稱シ反當大豆粕十貫匁硫酸アンモニヤ四貫匁内外ヲ寒肥ト同様ノ方法ヲ以テ施用ス淺口郡地方ニアリテハ春肥ヲ施用セサルモノアリ

**中耕、除草** 中耕ノ時期ハ一定セス除草ヲ兼ネ隨時二、三回淺ク畦間ヲ打起シ盛夏早魃ニ際シテハ株元ニ麥稈ヲ數クモノアリ又夏季枯損シタル部分ハ附近ノ勢力旺盛ナル株ヲ分チテ移植ス

**病 害** 病蟲害ハ大ナル發生被害ヲ認メス從テ何等防除ノ方法ヲ行ハス

**收 穫** 五月下旬ヨリ六月上旬ニ至レハ漸次開花シ始ムルヲ以テ六月上旬頃ヨリ早咲ノ花ニ就キ一回手ニテ拔キ取リ其他ハ適當開花揃トナリタル頃ヲ見計ヒ根元ヨリ刈取リ麥把ノ如ク束ネテ屋内ニ運ヒ花首ヲ乾カサル内ニ麥扱ヲ以テ花ノミヲ扱落シテ乾燥ス而シテ收穫ノ時期ハ品質及收量ニ著シキ影響ヲ及ホスモノニシテ早キニ過クレハ量目少ク晚キニ失スレハ花部黒色ニ變ス殊ニ收穫期ヲ失シテ梅雨ニ逢フ時ハ著シク品質ヲ劣變セシムルモノナルヲ以テ普通花薺ノ平ラニ開キタル頃ヲ收穫ノ適期トシ梅雨ニ遇ハシメサルコトニ注意ス

**調 製** 收穫シタル生花一貫匁内外ヲ一枚ノ蓆ニ廣ケ一日數回反轉シテ能ク乾燥シ夜間ハ數枚分ヲ一枚ノ蓆ニ寄セ集メ納屋内ニ廣ケ積ミ重ユルコトヲ避ケ第二日目ニアリテハ前日ノ蓆ニ枚分ヲ一枚トシ終日乾燥シ夜間再ヒ集メテ五寸位ノ厚ニ廣ケ風通シ好キ軒下ニ取リ片付ケ爾後二日間乾燥シ手ニテ捻リ花薺ノ粉碎シ得ルヲ程度トシ乾燥セル階上又ハ納屋内ニ架シタル臺上ニ擴ケ置キ仲買人ノ來ルヲ待テ販賣ス

**包 裝** 一定セル荷造法ナシ普通通入トナシ一俵ニ付乾花十四五貫匁ヲ入レ外部ヲ繩ニテ緊縛ス一反歩當收量ハ最上ナルモノ乾花五十貫匁少キハ二十貫匁ニシテ二十五貫匁内外ヲ普通トス

**收穫後ノ手入れ及後作** 縣下ニ於ケル除蟲藥栽培法ニ二法アリ一ハ收穫後刈株ヲ全部打起シテ後作ヲ行フモノニシテ一ハ打起サスシテ二三年間連作ヲ行フモノナリ連作スルモノニアリテハ前記ノ如ク下種ヨリ第三年目ノ春ニ至リテ第一回ノ收穫ヲナシ其後雜草ノ發生如何ニ依リ除草ヲ行ヒ夏季早魃ニ注意シ寒肥及春肥ヲ施スコト前年ノ如クシテ第四年第五年ノ收穫ヲナス而シテ五年目以後ニアリテハ著シク收量ヲ減スルヲ以テ苗仕立ヨリ五年目ノ秋即チ九月下旬乃至十月上旬ノ收穫ヲナス

旬ニ至リ古株ヲ打起シ大ナル株ハ八株位ニ分株シ新苗ヲ栽植スルト同様ノ方法ヲ以テ別ニ準備セル本圃ニ定植ス本法ハ數年前マテ盛行ハレタル方法ナレトモ土地利用上夏作栽培ノ盛ナルニ至リタルト連作法及分株法ノ收穫比較的少ナキトニ依リ近來第一回ノ收穫ヲナシタル後ハ全部打起シ其ノ跡地ニ蜀黍、甘藷等ヲ栽培スルカ又除蟲藥ノ收穫ニ先タチ株間ニ小豆ヲ播種シ置クモノアリテ年々新苗ヲ栽植スル方法ヲ行フモノ多シ而シテ本畑ハ大概麥作ト一年輪栽ヲ行フヲ常トス

栽培反別産額

年 次	栽培反別	産額(量目)	年 次	栽培反別	産額(量目)
明治四十年	一〇・三	一、五四四	明治四十三年	一一・六	二七、九四八
同 四十一年	二七・六	四、五〇八	同 四十四年	一八七・七	三九、〇九三
同 四十二年	一〇・八・三	一九、九七三			

販賣先、用途及農家ノ賣拂價格

販賣先ハ紀州、大阪方面最モ多ク尾張三河方面ヘモ多少販賣セル販賣ノ習慣ハ需要地ヨリ仲買商人入り込ミ本縣主産地ノ仲買商人ノ手ヲ經テ買ヒ集メ需要地ニ搬出スルモノニシテ専ラ驅蟲劑トシテ用キラル

價格ハ年ニヨリ一定セサルモノ貫匁ニ付貳圓乃至貳圓五拾錢ヲ普通トス今左ニ明治四十二年以降同四十五年ニ至ル一貫匁ノ普通價格ヲ示セハ左ノ如シ

年 次	一貫匁ノ價格	年 次	一貫匁ノ價格
明治四十二年	參圓 内外	明治四十四年	貳圓 内外
同 四十三年	壹圓七拾錢 内外	同 四十五年	貳圓七拾錢 内外

耕作畑ノ時價及地價



種別	時	價	地	價
上畑	貳百圓	內	參拾五圓	內
中畑	百圓	內	貳拾圓	內
下畑	百圓	外	拾圓	外

一反步收支計算

(自作ノ場合ニシテ作物ヲ中等トシ最  
近五ヶ年平均ヲ標準トシテ調査ス)

(甲) 收入ノ部

種類	數量	單價	總價
乾花(主産)	二五〇〇	〇・〇〇	二五〇・〇〇
稈(副産)	五〇〇〇	〇・〇〇	五〇〇・〇〇
計			七五〇・〇〇

收入合計金五拾八圓五拾錢

(乙) 支出ノ部

種類	數量	單價	總價	備考
種子	一合	〇・三〇	〇・三〇	
肥料代	水肥五荷	〇・五〇	五・〇〇	
勞務	男一人 女一人 反步	〇・三〇 〇・二五 〇・〇〇	〇・五五	
公課諸費	二俵	〇・二〇	二・〇〇	地租、縣稅、町付稅、農會費、 叭、煙、
計			七・八五	

支出合計金貳拾貳圓七拾六錢

勞銀内譯	人數		一日賃銀		總賃銀	
	男	女	男	女	男	女
苗床(整地、施肥)	一	一	〇・三五	〇・二五	〇・三五	〇・二五
苗床(假植)	一	一	〇・三五	〇・二五	〇・三五	〇・二五
移畑ノ整地	二	二	〇・三五	〇・二五	〇・七〇	〇・五〇
定本ノ整地	二	二	〇・三五	〇・二五	〇・七〇	〇・五〇
本田施肥	三	三	〇・三五	〇・二五	一・〇五	〇・七五
中耕除草	五	五	〇・三五	〇・二五	一・七五	一・二五
收斂及荷造	三	二	〇・三五	〇・二五	一・〇五	〇・五〇
計	一九	二〇	六・六五	五・〇〇	一一・六五	〇・三五

計金拾壹圓六拾五錢

(丙) 收支計算

收入總計 五拾八圓五拾錢  
 支出總計 貳拾貳圓七拾五錢  
 差引益 參拾五圓七拾五錢  
 (丁) 該作物ト同一期節ニ作付スヘキ主作物收支計算  
 眞田用麥作  
 收入總計 參拾七圓五拾錢  
 支出總計 貳拾參圓五拾錢  
 差引益 拾四圓



廣 島 縣

土 質 花崗岩ノ分解ニヨリ成生セル砂質壤土ニシテ稀ニ礫質地土アリ而シテ除蟲菊栽培地ハ主トシテ山岳部ノ

傾斜地ノ地味概シテ瘠薄ナル土地或ハ畦畔ヲ利用セルモノ多シ

品 種 栽培セル品種ハ白花赤莖(タルマシヤ)種ニシテ原種ハ東京日本農園ヨリ購入セルモノ或ハ紀州、備中ヨ

リ移入セラレタルモノナリ尙(ベルシヤ)種ノ少數ヲ見受タルモ栽培ノ數ニ入ラス

苗床整地 過濕ヲ忌ムヲ以テ東南面排水ヨキ畑或ハ宅地附近ノ乾燥温暖ナル地ヲ選ヒ幅三乃至四尺長サハ任意ノ平

床ヲ設ケ床土ハ可成細破シ瘠薄ナル地ニアリテハ元肥ヲ打チ込ミ極メテ丁寧ニ均ス

苗床面積ハ反當一步位トス

苗床施肥 苗床ニハ基肥トシテハ用ヒサルヲ普通トスルモ極メテ瘠薄ナル土地ニアリテハ人糞尿草木灰等ヲ施ス事

アルモ其量一定セス

追肥トシテハ冬期二回春期二回極メテ稀薄ナル人糞尿ヲ施用スルノミナリ

播 種 九月下旬ヨリ十月月上旬迄ニ反當一合乃至一合五勺ノ種子ヲ前記ノ苗床ニ播下ス後薄ク覆土トシテ乾燥ヲ

防ク爲メ麥稈或ハ粉殼ヲ覆フ

苗床管理 被覆物ノ種類ニ麥稈ヲ直接ニ重並位ニ置クモノ、粉殼ヲ撒布スルモノ、竹ヲ渡シ麥稈ヲ覆ヒ床面ト直接

セシメサルモノ等アリ

直接麥稈ヲ覆フモノハ發芽後成長スルニ從ヒテ漸次ニ麥稈ヲ去リ冬期一月ヨリ薄ク麥稈ヲ覆ヒ翌春除去スルヲ普通一般

ノ法トシテ廣ク行ハル粉殼ヲ覆フモノハ苗ノ成育不良ナルヲ以テ漸次前法ニ改メラル、傾向アリ現今最モ良法トシテ稱

導サル、ハ覆物ヲ床面ニ直接セシメサル法ニシテ苗ノ成育最モ良佳ナリ

發芽前ハ勿論發芽後ト雖モ時々灌水シテ成育ヲ促ス又時々除草ヲ行フ

移 植 普通翌春二月乃至三月ノ候一回移植ヲ行フ

移植スルニハ苗床ヨリ發育良好ナルモノヨリ順次採取リテ全部ヲ三乃至四回ニ亘リテ植出ス一坪ノ苗床ニ付キ十歩ノ地

ヲ耕鋤シ腐熟セル堆肥ヲ打込ミ整地ヲナシ幅四尺ノ床ヲ作り株間一寸五分位ニ移植ス

而シ苗床ノ面積ヲ擴張シ苗ヲシテ充分ニ成長セシメ翌春移植ヲ行ハスシテ直チニ定植スルモノモアリ

本畑整地 春期栽植ノモノハ麥成育中或ハ麥收穫後耕起シ地均シテ植付ヲ行フ

秋期栽植ノモノハ大豆小豆等前作物收穫後耕起シ地均ヲ行ヒ一尺五寸乃至一尺八寸ノ距離ヲ保チテ植條ヲ設ク

定 植 春期植付ノモノハ肥沃ナル地ニ於テ一尺二三寸ノ株間ヲ保チテ栽植スレトモ七寸乃至八寸ニ植付クルヲ

普通トス又株間五寸ニ植付ク後間引ヲ行ヒ他ニ移植スルモノモアリ

秋期植付クモノハ畦幅一尺五寸株間七寸ニ植付ク

本畑施肥 普通元肥ハ殆ト之レヲ施サスシテ堆肥五十貫、硫酸安母尼亞七貫、過磷酸石灰十二貫ヲ十二月頃一回施

用ス又之レノ半量ヲ十二月ニ施シ残り半量ハ收穫後施スモノアリ其ノ効果ハ二者餘リ差異ヲ認メス

中耕除草 勞力節約ヨリシテ全成育期間ヲ通シテ二回位行フモノアレトモ普通十月、十二月、一月、三月、四月、

六月、七月、八月、九月、ノ五回之レヲ行フ

收 穫 五月下旬ヨリ開花セルモノハ漸次之レヲ摘花シ満開ノ時ヲ見斗リ全部刈取り直チニ稻扱ニテ扱落ス

調 製 扱落シタルモノハ其儘日乾シタル後家ニ運ヒ日中ハ筵ニ擴ケ夜間ハ屋内或ハ軒下ニ薄ク醱酵セサル様堆

積シ晴天ナレハ二日乃至三日ニシテ乾燥ヲ終ル

包 裝 筵一枚ヲ繼合セ圓筒ヲ造リ十五貫乃至十六貫入リトシテ「サンダワラ」ヲ當テテ口繩ヲ掛ケ縫合セ横繩

三本縦繩十文字ニ取リテ包裝ス

栽培反別及産額

年 度	面 積	産 額	年 度	面 積	産 額
明治四十一年	十三町步	三、二〇〇	明治四十四年	六十町步	一五、〇〇〇
同 四十二年	二十五町步	六、二〇〇	同 四十五年	八十五町步	二一、〇〇〇
同 四十三年	四十四町步	一一、五〇〇			

販賣先用途 和歌山、大阪、神戸、岡山地方ノ仲買人及製造家直接買收ス

用途ハ主トシテ製粉用、線香、害蟲驅除エキス、ノ原料ニ使用シ又近年輸出向トシテ増加セルモ昔之等ハ商人ノ手ニヨ

リテ取扱ハルヲ以テ不明ナリ







施中收荷		肥耕種製		計			
收入總計	金五拾四圓	○	○	○	○		
支出總計	金拾七圓八拾九錢貳厘	○	○	○	○		
差引利益	金參拾五圓拾錢八厘	○	○	○	○		
麥作收支計算							
收入總計	金貳拾四圓六拾貳錢						
支出總計	金拾九圓五拾參錢						
差引利益	五圓九錢						
甘藷收支計算							
收入總計	金貳拾八圓						
支出總計	金拾五圓						
差引利益	金拾參圓						
除蟲菊純益金參拾五圓拾錢八厘							
麥及甘藷純益金拾八圓九錢							
麥甘藷及除蟲菊ノ價格							
麥	最	高	最	低	五箇年平均	備	考
	一・二〇〇〇	三・五〇〇	〇・六〇〇	一・五〇〇	〇・七〇〇	十貫三付	
	六・〇〇〇	一・〇〇〇	二・〇〇〇	一石二付			

和歌山縣

一、畑地ニ於ケル栽培

**土質** 礫質粘土

**品種** 白花種

**選種** 唐箕選ニヨル(取扱フ最モ鄭重ニスル者ハ極メテ輕ク此法ヲ行ヒ選種ス)

**苗床整地** 苗床ハ東南ニ面セル所ニシテ日當リヨク排水良好ナル肥沃ノ地ヲ選ビ深ク耕シ幅四尺長サ適宜ニ苗床ヲ作リ十塊ヲ碎キ地表ヲ搔キ均ス又別ニ假植地ヲ要ス其整地法ハ右ト同様ナリ

**苗床ノ施肥** 前記ノ如ク整地セル所ニ稀釋人糞尿(前種)ヲ施スノミ

**播種期** 春秋彼岸前後ニ播種スレトモ春蒔ヨリハ秋蒔ノ方ヲ以テ優レリトス多クハ此法ニ依ルカ故ニ以下記スル所モ秋蒔ニ係ルモノトス

**播種** 前記ノ苗床一坪ニ對シ約二合ノ割合ニ撒播シ種子ノ見ヘサルヲ度トシテ土ヲ篩ヒ掛ケ過度ノ乾燥ヲ防ガシガ爲メニ蒔又ハ藁ヲ敷キ發芽期ニ際シ之ヲ除ク

**苗床ノ管理** 發芽後苗立ノ粗密ニ應シ適宜間引シテ隨時苗根ヲ傷メサル様注意シテ除草ス(以前ハ事情ニヨリ翌年迄假植セザルノ法ヲ行ヒシモ目下其必)要ナキヲ認メ行フ者ナシ)

**移植** 發芽後本葉ノ發生シタル後チ其密接セル箇所ヲ間引シ別床ニ之ヲ假植ス其法ハ苗ヲ二寸四方位ノ距離ニ植エ込ミ第一回ノ假植トナシ之レカ繁茂スルニ及ヒテ又五寸四方位ニ植込ミ第二回ノ假植ヲ行フ假植ノ第一回ハ十一月中ニ行ヒ第二回ハ三月中或ハ四月上旬ニ至リ行フコトアリ



**本畑ノ整地** 定植凡ソ二週間前畑地ヲ深ク耕シ適宜整地シテ二尺幅ノ畦ヲ作ル

**本畑ノ施肥** 肥料トシテ元肥ヲ用ヒス移植後ニ至リ糠粕五貫目ニ對シ同量ノ木灰ヲ混シ十一月之ヲ一株五匁ノ割合トシテ施シ又二月ヨリ三月ノ間ニ一回右同様ノ割合ニ施ス人糞尿ハ前記ノ期間内ニ於テ生育ノ度合ニヨリ其三十貫ヲ二三回ニ分施スルコトアリ

**定植** 播種後翌年十月ニ至リ苗ノ定植ヲ行フ而シテ苗ノ生育最モ良好ナルモノヲ撰ミ一株ツ、掘リ取り本畑ニ運ビ株間八寸トシテ栽植シ輕ク根元ニ土ヲ寄セ掛ケ兩手ニテ強ク壓ラ加ヘ置クナリ若シ此際土ヲ深ク掛ケ新芽ヲ埋没スルカ如キコトアレハ腐敗シテ活着歩合ヲ減ス

**中耕、除草** 畦間ノ除草ヲ行ヒ後チ鋤ニテ土ヲ起シ且ツ碎キ之ヲ畦上ニ播キ上ケ其後ハ隨時除草ヲ行ヘトモ中耕ハ春秋二回ナリ但シ除草ハ通常三回乃至四回ナリトス

**病蟲害** 從來本植物ニハ何等有害物ナシ

**摘花期** 五月中ニアリ

**收穫** 收穫物ニハ二種アリ其一ハ花ニシテ其二ハ副産物トシテ莖アリ

**土品** (一) 開花ハ一齊ナラス區々ニシテ之ニ早晚アリ然レトモ摘花ハ通常二回ニ行フ摘花スルニハ其時期ニヨリ花ノ効能ヲ異ニスルヲ以テ採收期ニ就テハ殊更注意ヲ要スルナリ是迄採取ノ好時期トシテ行ヒツ、アル方法ニヨレハ花ノ満開期ニ達シタルモノ及ビ蕾ニシテ開綻セサルモノハ其ニ之ヲ避クルナリ要スルニ開花五六分ノ頃ニシテ花癸ノ未タ下垂セザルトキ第一回ノ摘花ヲ行ヒ後チ又前同様ノ方法ニヨリ第二回ノ摘花ヲ行フ

(二) 莖ハ摘花後根元ヨリ刈リ取り之ヲ畑ニ擴ケ乾燥スルモノアリ又根ヨリ掘リ取り乾燥スルモノモアリ然レトモ多クハ前者ニ依ル

**製** 摘花後之ヲ自宅ニ運ビ薄ク蒸シ日乾シ夜間ハ之ヲ屋内ニ取入レ乾燥ニ努ムト雖モ始メ一兩日間ハ蝦リニ花ニ手ヲ觸レサル様注意スルナリ然ラサレハ花癸脱落シテ多少價額ニ影響スルノ恐レアルヘシ然レトモ採收後乾燥ノ度合ニヨリ二日或ハ三日日ニ至レハ一回若シクハ二回日中ノヲ攪拌ス日乾日數ハ通常五日前後ニテ了ハル又副産物ナル莖ハ前記ノ如ク之ヲ畑ニ擴ケ凡ソ五日間日乾シテ後チ之ヲ自宅ニ運ビ納屋ニ納メ隨時販賣ス

**貯藏** 栽培者ハ製品ヲ早ク賣却セス大概十月ヨリ翌年一月又ハ二月頃迄貯藏シテ價額ノ騰貴スルヲ待チ販賣スルモノ多シトス然レトモ貯藏スル間ニ濕氣ヲ帯ヒ黴ヲ生シ品位ヲ損スルノ恐レアリ故ニ近年ハ之レカ貯藏ニ注意シ弒力

**調** 製 摘花後之ヲ自宅ニ運ビ薄ク蒸シ日乾シ夜間ハ之ヲ屋内ニ取入レ乾燥ニ努ムト雖モ始メ一兩日間ハ蝦リニ花ニ手ヲ觸レサル様注意スルナリ然ラサレハ花癸脱落シテ多少價額ニ影響スルノ恐レアルヘシ然レトモ採收後乾燥ノ度合ニヨリ二日或ハ三日日ニ至レハ一回若シクハ二回日中ノヲ攪拌ス日乾日數ハ通常五日前後ニテ了ハル又副産物ナル莖ハ前記ノ如ク之ヲ畑ニ擴ケ凡ソ五日間日乾シテ後チ之ヲ自宅ニ運ビ納屋ニ納メ隨時販賣ス

製ノ箱ヲ用フ箱ハ長方形ニシテ長サ凡ソ二尺五寸横一尺四寸深サ一尺六寸ニシテ之ニ製品ヲ納メルニ箱ノ中央部ニ口ヲ設ケ弒力戸ヲ裝置ス戸ノ大キサ七寸ト一尺ニシテ開閉自在ナラシメ而シテ製品ヲ其口ヨリ詰メ込ミ戸ヲ閉チ目張シテ二重箱トシテ乾燥空氣ノ流通スル所ニ貯フルナリ

**栽培反別** 明治四十三年度調査

郡市別	畑	備考	郡市別	畑	備考
和歌山市	〇・二		伊都郡	〇・九	
海草郡	一・二・九		有田郡	一〇・二・五	内閣作見積反別二十五町歩
那賀郡	四・二		高田郡	一〇・〇	

**産額** (明治四十三年度調査)

郡市別	數	價	格	郡市別	數	價	格
和歌山市	五〇	一七五	伊都郡	一三〇	四五五		
海草郡	一、六七二	二、五六五	有田郡	二二、六一八	五〇、〇八九		
那賀郡	六一〇	一、二三五	高田郡	一、八四五	三、八七五		
總計	一三〇・七	二六、九二五	高	額	五八、三九四		

**販賣先** 栽培者ハ製品ヲ普通仲買人ニ販賣ス然レトモ有田郡ニテハ郡内ニ數ヶ所ノ製粉場アルヲ以テ直接同場ヘ賣込ム其主ナルモノハ左ノ如シ

- 一、上山英一郎製粉場
- 二、上山勤太郎製粉場
- 三、山彦製粉場



四、帝國除蟲園製粉場  
 右ノ外和歌山市及ヒ海草郡内ノ製粉場其他泉州大阪方面へモ販賣セラル  
 用途 乾燥粉末シタルモノハ之ヲ除蟲菊、豊年液、蚤取粉、蚊やり線香等トシテ用ヒ莖ハ混合シテ蚊やり等ニ用ヒラル  
 農家ノ賣拂價額

年別	製品一貫目ニ付平均價格	年別	製品一貫目ニ付平均價格
明治四十一年	貳圓參拾錢	明治四十四年	貳圓五拾錢
同 四十二年	貳圓四拾錢	同 四十五年	貳圓五拾錢
同 四十三年	貳圓參拾錢		

耕作畑ノ價額 畑地ノ栽培ハ主トシテ山畑ノ新開地ニ於テ行ハル然レトモ除蟲菊栽培ノ目的ヲ以テ開キタル土地ニアラスシテ柑橘用トシテ開キタル土地ナレハ除蟲菊用ノ畑トシテ時價ヲ舉クルヲ得ス故ニ柑橘畑トシテ時價ヲ見積レハ左ノ如シ

種別	收入ノ部(自作ノ場合)		總價額	備考
	數量(一反歩當リ)	價(一貫目)		
主產物(生花)	八〇	〇・五〇〇	四〇〇・〇〇	生花ヲ乾燥スレハ二歩止リヲ普通トス
副產物(乾莖)	一六	二・五〇〇	四〇〇・〇〇	乾燥ハ普通ノ狀態
總計	九六	三・〇〇〇	八〇〇・〇〇	

收支計算

收入合計金五拾五圓  
 (乙) 支出ノ部(自作ノ場合)

種別	數量	單價	總價額	備考
種子	二	二・〇〇	四・〇〇	
肥料	一	一・四一	一・四一	人糞尿ノ價額ハ壹荷ノ單價ヲ示ス
勞務	八	九・七五	七八・〇〇	
公課諸掛	二	一・〇〇	二・〇〇	二毛作地ニシテ公課諸掛ハ之ヲ二分ス

支出合計金貳拾參圓四拾六錢

勞銀内譯	人夫數		一日賃金		總賃銀		備考
	男	女	男	女	男	女	
苗畑整地	四分一		五〇〇	二五〇	一二・五	一二・五	食費自辨
播種	四分一		五〇〇	二五〇	一二・五	一二・五	
苗床手入れ	一人	二人	五〇〇	二五〇	五〇〇	五〇〇	
假植畑整地及假植	一人	二人	五〇〇	二五〇	五〇〇	五〇〇	
本畑整地	二人	二人	一〇〇〇	五〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	
移植	一人	二人	五〇〇	二五〇	五〇〇	五〇〇	
施肥	一人半	二人	七五〇	五〇〇	一二・五	一二・五	
中耕、除草	一人	二人	五〇〇	二五〇	五〇〇	五〇〇	
被害、豫防	一人	二人半	五〇〇	二五〇	五〇〇	五〇〇	
收穫	一人	二人半	五〇〇	二五〇	五〇〇	五〇〇	
調製	一人	二人半	五〇〇	二五〇	五〇〇	五〇〇	
總計					六二・五	六二・五	



計金九圓七拾五錢

(丙) 收入總計 五拾五圓  
支出總計 貳拾參圓四拾六錢  
差引損益 純益參拾壹圓五拾四錢

前表ニ對シ説明ヲ要スルモノハ其備考欄内ニ記入セリ但シ右計算ニハ土地其他資本ノ利子、農具ノ損料等ハ便宜上之ヲ省略セリ

右所要ノ勞働者延人數ニ對シ男女一人一日ノ賃金ハ左ノ如シ  
男 一人一日ノ賃金 貳圓拾壹錢七厘  
女 一人一日ノ賃金 壹圓〇五錢九厘

但シ賃金率ハ男ニアリテハ女ノ二倍トシテ勘算セリ

(丁) 該作物ト他作物トノ收支計算比較

稈麥反當一石トシテ計算スレハ左ノ如シ

收入總計 拾七圓五拾錢  
支出總計 拾貳圓參拾壹錢五厘  
差引損益 純益五圓拾八錢五厘

前計算ノ比較ニ據レハ收入ニ於テ除蟲菊栽培ニ於ケル純益金ハ參拾壹圓五拾四錢、稈麥ニ於テハ五圓拾八錢五厘ナリ故ニ其差額貳拾六圓參拾五錢五厘ナルヲ以テ除蟲菊栽培ノ方ハ稈麥ニ比シ遙カニ利益アルヲ見ルナリ

二、田地ニ於ケル栽培

除蟲菊栽培ニ要スル苗床ハ田作、畑作ノ別ナク同一方法ニヨリ床ヲ造リ之ヲ栽培ス其他茲ニ畑作ト異ナルモノ、ミヲ舉クレハ左ノ如シ

地 田地ノ栽培トシテハ先ツ稻刈取後排水ノ最モ宜シキ所ヲ撰ミ麥作同様ニ牛耕シテ荒起ヲナシ後チ尙ホ馬

肥 肥

肥ニテ土ヲ碎キ畦間七寸トシ四尺幅ノ畦ヲ作ルナリ

田地ノ栽培ニハ元肥ヲ施サス栽植一ヶ月後ニ至リ株間ヲ掘リ硫曹二俵或ハ之レト同様ノ肥料ヲ施シ尙ホ一月若クハ二月ニ至リ糠粕十貫目ヲ前記同様ノ方法ニヨリ施スナリ爾後生育ノ狀況ニヨリ人糞尿ヲ施スヲ要ス大概一回二十荷前後ニシテ都合三回之ヲ施ス

移 植方ハ四尺幅ノ畦ニ二條植トナシ株間ハ凡ソ八寸トス

中耕、除草 中耕ハ年三回ヲ普通トス其一二回ハ畦ノ中央部ヲ軟ラケ側面ハ平鋸ニテ打ち或ハ削リ而シテ其落チタル土ヲ糊ヒ上ケ第三回目ハ三月中旬ニシテ前記同様ノ方法ニテ行ヒ且ツ株ノ倒伏セサル様土寄ヲ行ヒ除草ハ隨時ニ行ヒ一定セス

收 穫 摘花回数ハ三回ニ行フ其他ハ畑地ニ於ケルト同一ナリ

耕作田ノ時價

上	田	中	田	下	田
五	百	五	百	四	百
五	拾	五	拾	五	拾
圓	圓	圓	圓	圓	圓

收支計算

甲 收入ノ部 (自作ノ場合)

種別	數量(一反歩當リ)	單價(一貫目ニ付)	總價額	備考
主產物(生花)	一五〇	〇・五〇〇	七五・〇〇〇	以上ハ中位ノ數量ニシテ之ヲ乾燥スルトキハ二歩止リトナル
副產物(乾莖)	五〇〇	二・五〇〇	一五〇〇・〇〇〇	乾燥ハ普通ノ狀態
收入合計金	九拾圓			

乙 支出ノ部 (自作ノ場合)

收入合計金	九拾圓		
支出	七五		



種 子 代	肥 料 代	勞 務 銀	公 課 諸 掛	數	量	單 價	總 價	備 考
人糞	硫酸			男	二〇〇	〇・一〇	二〇・〇〇	資本ノ利子、農具損料等ヲ省略セリ
人糞	硫酸			女	二〇〇	〇・一〇	二〇・〇〇	
人糞	硫酸			男	六〇〇	〇・二五	一五〇・〇〇	
人糞	硫酸			女	二〇〇	〇・二五	五〇・〇〇	
				男	四〇〇	〇・二五	一〇〇・〇〇	
				女	二〇〇	〇・二五	五〇・〇〇	
				男	二〇〇	〇・二五	五〇・〇〇	
				女	二〇〇	〇・二五	五〇・〇〇	
				男	二〇〇	〇・二五	五〇・〇〇	
				女	二〇〇	〇・二五	五〇・〇〇	

支出合計金參拾八圓拾五錢

勞 銀 內 譯	人 夫 數	一 日 賃 銀	總 計	備 考
苗床整地	男 二時間 女 二時間	男 五〇 女 五〇	男 一〇〇 女 一〇〇	食費ハ自辨ニシテ 一日ノ勞働ハ八時 間
播種	男 一人 女 一人	男 五〇 女 五〇	男 一〇〇 女 一〇〇	
假植床整理及假植	男 一人 女 一人	男 五〇 女 五〇	男 一〇〇 女 一〇〇	繭花料一日二十五 錢積リトス 但シ一日七錢積一 餘目ニ付三錢五厘
移地	男 二人 女 二人	男 一〇〇 女 一〇〇	男 二〇〇 女 二〇〇	
施肥	男 四人 女 四人	男 二〇〇 女 二〇〇	男 八〇〇 女 八〇〇	
中耕、除草	男 一人 女 一人	男 五〇 女 五〇	男 一〇〇 女 一〇〇	
收穫	男 一人 女 一人	男 五〇 女 五〇	男 一〇〇 女 一〇〇	
調製	男 一人 女 一人	男 五〇 女 五〇	男 一〇〇 女 一〇〇	

計金貳拾參圓七拾五錢

(丙) 收入 支出 計算

收入總計 九拾圓  
支出總計 參拾八圓拾五錢  
差引損益 純益五拾壹圓八拾五錢

右收支計算ハ最近五ケ年間ノ平均ヲ取リタルモノトス  
前表ニ對シ説明ヲ要スルモノハ備考欄内ニ記入セリ但シ右計算ニハ土地其他資本ノ利子農具ノ損料等ハ便宜上之ヲ省略セリ

右所要ノ勞働者延入數ニ對シ男女一人一日ノ賃金ハ左ノ如シ(賃金率ハ畑地ノ場合ニ等シ)  
男一人一日ノ賃金 壹圓五拾九錢貳厘  
女一人一日ノ賃金 七拾九錢六厘

(丁) 該作物ト他作物トノ收支計算比較  
稈麥反當一石八斗トシテ計算スレハ左ノ如シ

收入總計 貳拾圓八拾錢  
支出總計 拾四圓五拾六錢五厘  
差引損益 純益六圓貳拾參錢五厘

前計算ノ比較ニ據レハ收入ニ於テ除蟲菊栽培ニ於ケル純益金ハ五拾壹圓八拾五錢、稈麥ニ於テハ六圓貳拾參錢五厘ナリ故ニ其差額四拾五圓六拾壹錢五厘ナルヲ以テ除蟲菊栽培ノ方ハ稈麥ニ比シ遙カニ利益アルヲ見ルナリ

(備考)  
田耕作ト畑耕作トノ收支比較  
田耕作純益金 五拾壹圓八拾五錢  
畑耕作純益金 參拾壹圓五拾四錢  
差引 貳拾圓參拾壹錢

右計算ノ示ス所ハ畑作ヨリモ田耕作ニ利アルヲ見ルナリ







播種ノ方法ハ器械ヲ使用スルモノナク手ヲ以テ三四寸ノ播床ニ條播ス南蒲原郡、古志郡産地ニテハ作條シ施肥シ其處へ播下シ覆土スルト同時ニ次ノ作條ヲナシ其作條ニヨリテ得タル土壤ヲ覆土ニ供用シ漸次斯ノ如ク作條、播種、覆土ノ三作業ヲ同時ニ行ヒ進行スルモノトス

施

肥

安母尼亞、智利硝石等モ多少使用セラレ、モ一部一地方ニ過キス、  
施肥量ハ地方ニヨリテ異ナレトモ堆肥、人糞尿、藁灰ノ三者ヲ使用スルモノハ全耕作者ノ九割餘ヲ占メ一反歩用量堆肥百五十貫乃至三百貫人糞尿二百貫乃至四百貫藁灰二十貫乃至百二十貫ナリトス南蒲原郡ノ主産地ニテハ人糞尿三百五十貫乃至堆肥三百貫藁灰百二十貫乃至施用スルモノアリ而シテ堆肥ハ前年收穫シタル大麻ノ葉ヲ夏期中ニ土、藁等ト混シ堆積シ春期之ヲ積ミ替ヘシ木灰又ハ人糞尿ヲ混シ或ハ糞類ヲ混積シ置クモノトス  
販賣肥料ノ施用額ハ地方ニヨリ一様ナラザルモ古志郡主産地ニテハ一反歩約六七圓ヲ施シ近年稍々増加ノ趨勢ナリ  
施肥法ハ從來人糞尿ハ播種前耕地ノ際土壤ヲ反轉スル場合ニ施コシヨク土壤ニ吸收セシメタルモ近年ハ地均ラシラナシ作條ヲ設クル際ニ施スモノ多シ

間引中耕及除草

發芽後嫩苗二寸内外ニ生長セハ一回ノ間引ヲ行ヒ株間ヲ一寸五分内外トス尙ホ生長一尺餘ニ達スレバ第二回ノ間引ヲナシ株間ヲ三寸内外トス其後或ハ三回目ノ間引ヲ行フモノアレトモ之ニ反シテ一回ノ間引ノミニテ止ムルモノアリ  
除草ハ六月中旬ニ一回七月中旬ニ一回之ヲ行フ第二回除草ト同時ニ不良種又ハ風害及ヒ蟲害ノ爲メ毀損セルモノヲ際去シ畑ノ整理ヲナス俗ニ之ヲ「土用グ、リ」ト稱ス  
中耕ハ第二回間引ノ前後一回之ヲ行フ或ハ全ク之ヲ行ハサルモノアリ中耕ハ唐鍬又ハ幅狹ナル普通鍬ヲ用ヒ麻莖ノ損傷セサル様注意シテ之ヲ行フ

病蟲害其他ノ被害防除

種子ハ播種後一二週間ニシテ發芽ス而シテ其發芽前鳥害ノ憂アレバ防除ニ勉ム  
蟲害ニアリテハ夜盜蟲、天牛、蠶蟲等ニシテ十年前南蒲原郡地方ニテハ被害甚ク一時栽培ヲ中止スルニ至リシモ近年著シキ被害ナク從ツテ當業者モ蟲害豫防驅除ニ對シテハ注意ヲ拂ハサルモノ、如シ病害ハ之レトシテ稱スヘキモノナシ  
風害ニ對シテハ堤、家屋、樹林ニ接スル處ニ栽培スルヲ可ナルガ如キモ陽光充分透射セザル爲メ軟弱トナリ風害ニ對シテ抵抗力弱ク寧ロ平潤ナル處ニ強剛ノ生育ヲ遂ケタルモノハ比較的風害ニ強シト云フ而シテ風害ニテ倒レタルモノハ之ヲ樹立セシムルニ十數本ツ、ヲ縛リ二三日間置クモノアリ

收

種

收穫ハ其ノ時期地方ニヨリテ異ナルモ普通八月上旬ヨリ中旬ニシテ古志、南蒲原郡地方ハ早ク西頸城、中頸城郡地方ハ遲シ而シテ收穫ノ微候ハ大麻ノ莖部稍々黃色ヲ帯ヒ梢端ニ上葉(達ヒ葉)ノ發生シタル際トス  
採取法ハ生育良好ナルモノハ男人夫ニテ麻莖七八本宛ヲ小腕ニカ、ヘ引キ拔キ生育ノ不良ナルモノハ女人夫ノ作業トス  
採取リタルモノハ根元ノ土ヲ振ヒ落シ根元ノ變色部ヨリ狭又ハ押切ヲ以テ切り離ス次テ根ヲ剪除シタル部分ヨリ五尺二寸ノ處ヨリ剪除シ五尺二寸ニ充タザルモ四尺五寸以上ノモノハ共ニ一尺乃至一尺五寸廻リノ小把トナシ小繩ニテ中間部ヲ輕ク結束收納シ乾燥ニ着手ス而シテ刈取法ニヨリタル場合モ同様ナル操作ヲナス

調

製

乾燥ハ畑地ニ於テ行フモノアレトモ多クハ居宅庭前ニ於テ之ヲナス普通三反歩ノ麻莖ヲ乾燥スルニ一反歩ノ面積ヲ要ス  
乾燥ノ方法ハ中央ヲ結束セラレタル麻莖ヲ陽乾スルニアリテ普通地上ニ直立セシメ晴天二十日内外ニシテ皮付ノ青莖ハ赤白ニ變スルヲ程度トシテ乾燥ヲ終ルモ東頸城郡地方ニテハ麻莖ヲ地上ニ横ヘタル竹竿又ハ樹幹ニ托シテ乾燥ス  
乾燥中ハ上下ヲ反轉シ或ハ結束點ヲ上下ニ移シ替ヘ十分乾燥ニ勉ム乾燥中雨露ニ遭フトキハ製麻歩上リヲ減スルヲ以テ日中晴天ノ日ハ屋外ニテ乾燥シ雨天又ハ夜間ニハ納屋又ハ乾燥小屋(麻ノ收穫ニ先チ二間乃至三間位ノ藁小屋ヲ作り製



麻當時ノ作業場ヲ兼ネシムル處ニ納入ス但シ乾燥ヲ速カナラシムル爲メ夜露ニ當テシムル方法アリ斯クセバ色澤ヲ良好ナラシムルモ製麻歩上リ著シク減スルヲ以テ收穫期後レタルモノハミニ對シ實行セラル

乾燥ヲ終レハ其儘貯藏シ置クモ差支ナケレトモ當時恰モ水稻耕作方面ニ勞力ヲ要セザル時期ナルヲ以テ直チニ製麻ニ着手ス普通九月中旬ヨリ下旬ニ亘リ運キハ十月上旬ニ及ブ

(イ) 煮麻

乾燥シタル麻莖ハ初メ煮桶ニ入レ煮熟ス煮桶ハ深サ二尺三寸幅二尺八寸長サ五尺二寸内外ノ長方形ヲナシ底部ハ「ト」字ニ張トシ屋外ニ竈ヲ設置シ煮桶ヲ安置ス一回ニ煮得ル量ハ一尺廻リノ束二十把内外ニシテ煮桶中ニ麻莖ヲ横倒シ詰メ込ミ水ヲ入レ山灰(ヤマアケ)木灰ヲ蒸シタルモノニシテ染色家ノ用ユルモノ)一升乃至二升ヲ入レ上面ニハ藁、藁ヲ覆ヒ蓋トナシ煮桶ノ底部「ト」字ニ張リノ處ヨリ藁、薪或ハ麻殼ノ類ヲ燃焼シ煮ルコト約一時間ナリトス

山灰ノ代リニ曹達ヲ用ユル場合ニハ一釜ニ對シテ百匁内外ヲ以テス一釜ヲ煮終レバ取り出シ他ノ麻莖ヲ入ル此ノ際水及ヒ「アケ」減少スルヲ以テ二番釜ニハ山灰ナレバ一升曹達ナレバ五十匁内外ヲ添加ス

(ロ) 浸水

麻莖終レバ麻莖ヲ二三時間水中ニ浸漬ス

(ハ) 剥皮  
漬水セルモノハ幹ノ中央部ヲ指爪ニテ外皮ヲ剝離シ拇指ヲ入レ五六寸位ツ、一時ニ左右ニ手ヲ引キ剥皮ス剥皮セルモノヲ「オ」ト稱シ剥皮ハ多ク男人夫ノ仕事ナリ

(ニ) 金扱

金扱ヲナスニハ扱板及ヒ扱子ト稱スル器具ヲ要ス

扱板ハ木板ニシテ幅二寸八分長サ八寸厚サ五六寸ニシテ樅、銀杏、大楨(羅漢松)等ノ樹種ニテ製ス

扱子ハ「□」ノ如キ形ヲナシ鐵製ニシテ高サ二寸下方幅一寸五分上端ニハ把手ノ木製柄ヲ附ス之ヲ使用スルニハ跪キテ膝元ニ扱板ヲ置き右手ニ扱子ヲ持チ左手ニ「ア」ヲ持チ扱板ノ上ニ載セ扱子ヲ前方四十五度位ニ傾ケツツ皮糟ヲ除去ス扱子ハ時々及先ヲ研キ銳カラシムルヲ要ス

金扱ハ熟練ヲ要スルヲ以テ古志郡産地ニテハ主ニ南蒲原郡産地ノ熟練セル人夫ヲ雇入スルヲ常トス

(ホ) 乾燥

金扱セルモノハ美シキ方ヲ表トナシニタ扱キ分ヲ先端ニ於テ結ビ竹竿ニ掛ケ乾燥セシム乾燥中降雨ニ遇フトキハ品質ヲ損スルヲ以テ屋内ニ入レ先端結末點ノ乾燥ヲ了セバ全ク乾燥ヲ止ム

屑麻製造法

四尺五寸以下二尺以上ノモノ或ハ先梢部並ニ蟲害風折レ等ニテ製苧シ難キモノハ屑麻トシテ製造ス又中頸城郡、南魚沼郡産地ニテハ上麻製造ニ於テモ煮桶ヲ用ヒズシテ床蒸トス

其方法ハ乾燥シタル麻莖ヲ三四時間水中ニ浸シ蒸場(ネセ場)ニ移ス蒸場ハ下ニ藁ヲ敷キ其上ニ麻莖ヲ置キ上部ニ藁ヲ水ニ浸シタルモノヲ二重ニ覆ヒ置キ朝夕一回宛蒸場ヲ水ニ浸シテ覆フ

蒸場ニ置ク時間ハ寒暖ニヨリテ異ナリ八月十五日ヨリ九月上旬頃ナレバ一晝夜、十月上旬ニ至レバ一晝夜半位ニシテ取り出ス

蒸場ヨリ取り出シタルモノハ再び三時間以内水中ニ浸シ手ニテ荒皮ヲ剝グ而シテ後扱板及ヒ扱子ヲ用ヒテ製苧ス此際扱子ハ内方ニ先キヨ向ケ麻扱キヲナスモノトス

製苧スル際出タル屑物ハ麻殼ノ一握リ位ニ束ネタルモノ、上ニ纏結セシメ五日間位ニシテ乾燥セシメ貯藏シ燃料トナス之ヲ「オクソマキ」ト稱ス

後包

乾燥ヲ終リタル製麻ハ二貫匁宛トナシ頭部ヲ細繩ニテ縛リ胴部ヲ二ヶ所藁繩ヲ以テ括リ別ニ包裝セズ

無肥料ニテ栽培セラルスル毎地ニ大根、苧類ニ限ラレ大根、苧類ハ多少施肥スルモ蕎麥ハ全ク定ス併シ年々長年同一ノ作物ノ連作ヲ行ヘハ却ツテ不良ナルヲ以テ四五年連作ヲナシ一ヶ年大豆其他ノ夏作物ヲ栽培シ再ヒ四五年大麻ヲ栽培スルヲ普通トス

栽培反別及産額

本縣勸業統計ニヨリ最近五ヶ年累年大麻栽培反別及ヒ收穫高ヲ舉クレバ左ノ如シ

年次	作付反別	收穫高	年別	作付反別	收穫高
明治四十三年	五七七・二	五九、〇七五	明治四十年	五九四・二	七二、一五五
同四十二年	五八九・四	六二、三三四	同三十九年	七三〇・二	七八、六九九
同四十一年	五九七・四	六六、七九四			



**販賣先、用途農家賣拂價格** 南蒲原、古志兩郡主産地方ニアリテハ南蒲原郡今町及ヒ中ノ島村ニ於ケル雜穀商人之ヲ買ヒ集メテ羽郡荒濱ノ商人ヘ轉賣スルヲ普通トスルモ直接羽郡ヨリ購入ニ來ルモノアリ而シテ農家ハ多ク年内ニ販賣スルモ歳越シヲスルモノ稀レナリ西頸城郡産ノモノハ三分富山縣地方ニ移出セラレ七分直江津高田方面ヘ販賣セラレ斯クテ多クハ本縣沿海漁村ニ於テ漁具ニ使用セラレ其他ハ北海道及ヒ三重縣地方ヘ輸出セラル而シテ三重縣行キノモノハ上等品多ク主トシテ織物ノ原料トナリ北海道行ノモノハ中等品以下ニシテ漁業用網繩ノ原料トナル今最近五ヶ年ニ於ケル農家賣拂價格ヲ舉クレハ左ノ如シ

年次	上 物(二貫匁)	中 物(二貫匁)	下 物(二貫匁)
四十一年	四圓	參圓	貳圓六拾錢
四十二年	四圓貳拾錢	參圓八拾錢	貳圓五拾錢
四十三年	四圓七拾錢	參圓七拾錢	參圓四拾錢
四十四年	五圓參拾錢	四圓六拾錢	四圓貳拾錢
四十五年	五圓七拾錢	四圓八拾錢	四圓貳拾錢
平均	四圓七拾四錢	參圓八拾四錢	參圓參拾八錢

耕作畑ノ時價 (一反歩ノ時價)

畑	上	中	下
畑	一七〇	一三〇	九〇

一反歩收支計算

主産物(麻)	數	量	單	價	總	價	額	備
麻	一三〇〇〇	量	單	價	總	價	額	備
				一・九二〇	二四・九六〇			

(甲) 收入ノ部 (自作ノ場合)

副産物	數	量	單	價	總	價	額	備
梢麻	一〇〇〇	量	單	價	總 <td>價 <td>額 <td>備</td> </td></td>	價 <td>額 <td>備</td> </td>	額 <td>備</td>	備
麻殼	一〇〇〇	量	單	價	總 <td>價</td> <td>額</td> <td>備</td>	價	額	備
				一・〇〇〇	二・〇〇〇			

合計金貳拾九圓貳拾六錢

(乙) 支出ノ部 (自作ノ場合)

種子	數	量	單	價	總	價	額	備
堆肥	二五〇	八升	單	價	總 <td>價 <td>額 <td>備</td> </td></td>	價 <td>額 <td>備</td> </td>	額 <td>備</td>	備
人糞	三五〇	〇〇〇	單	價	總 <td>價 <td>額</td> <td>備</td> </td>	價 <td>額</td> <td>備</td>	額	備
肥料	三五〇	〇〇〇	單	價	總 <td>價 <td>額</td> <td>備</td> </td>	價 <td>額</td> <td>備</td>	額	備
勞銀	三・五〇〇	〇〇〇	單	價	總 <td>價 <td>額</td> <td>備</td> </td>	價 <td>額</td> <td>備</td>	額	備
公課	一・七〇〇	〇〇〇	單	價	總 <td>價 <td>額</td> <td>備</td> </td>	價 <td>額</td> <td>備</td>	額	備
燃料	一・四八六	〇〇〇	單	價	總 <td>價 <td>額</td> <td>備</td> </td>	價 <td>額</td> <td>備</td>	額	備
山灰	二・〇〇〇	四升	單	價	總 <td>價 <td>額</td> <td>備</td> </td>	價 <td>額</td> <td>備</td>	額	備
				〇・四〇〇	一・六〇〇			

合計金貳拾六圓五拾貳錢

勞銀內譯	人夫數	一日賃銀	總計	備考
男	三・五〇	四・〇〇	二・〇〇	
女	二・〇〇	二・八〇	一・二〇	
男	一・五〇	四・〇〇	〇・六〇	
女	一・〇〇	二・八〇	〇・四〇	
合計	八・〇〇	一五・六〇	四・二〇	







優良品ヲ産スルヲ以テ名アル西大蘆村ハ此赤木ヲ貴ビ栽培シ色澤白木ヲ栽培セル他地方ノモノト稍々異ルモ纖維ノ内  
心ニ光澤アル如ク見ヘ永ク變色スルコトナク殊ニ彈力極メテ強シ

**選種** 採收シテ打チ落シ桶ナドノ内ニ入レテ貯ヘタル種子ハ播種ニ先チテ足ニテ踏ミ又ハ芋洗ヒ具ノ如キモノ  
ニテ能ク攪拌シ皮ヲ悉ク脱キ後唐箕ヲ用ヒテ表皮ト共ニ充實セザル種子ヲ除キ更ニ篩ヲ使用シテ小粒種子ヲ除却ス然レ  
トモ集約ナルモノニアリテハ更ニ太目ノ篩ヲ使用シテ大粒ノ種子ヲ除ク即是レ大粒小粒混合スルトキハ生育不齊トナリ  
品位ノ齊一ヲ期スル能ハザルヲ以テナリ斯ク中粒ニ揃ヘンガ爲メニ九厘目、一分一厘目、一分四厘目ノ三種ノ麻種篩ヲ  
準備ス

普通行フ選種法ハ右ノ如クナルモ一般ニ良好ノ種子トシテノ標準ハ色澤鮮カニシテ外皮稍々青味ヲ帶ビ班紋ハ淡ク顯  
ハレ且ツ粒ニ大小不同ナク整齊ナルモノトス

**整地**

前作收穫後早キハ九月ヨリ遅キモ十二月迄ニ犁或ハ踏鋤ヲ用ヒテ耕起ス近時勞力缺乏ノ爲メ漸ク犁ヲ用  
フルモノ増加シタリト雖モ尙ホ踏鋤ハ上下土壤ノ反轉宜シク其耕底一様ニ平定ニシテ且ツ土壤ノ破碎容易ナルヲ以テ今  
日モ尙八割以上ノ踏鋤耕起行ハル其方法先ツ畑ノ地被物ヲ除去ス即或地方ニアリテハ特ニ一反歩三百貫内外ノ厩肥ヲ撒  
布シテ耕起スルモノアレトモ一般ニ前作物ノ根株雜草落葉等ヲ掻キ集メ他ニ運出シ清メラレタル後ヲ踏鋤ニテ畑ノ左  
隅ヨリ耕起ス即チ鋤ヲ持シ鑿部ヲ地ニ當テ足ニテ踏ミ込ミ後柄ニテ之ヲ左側ニ反ス斯クテ次ニ一歩後下リシテ前ノ所ヨ  
リ一尺二三寸ニ當ル所ニ鑿ヲ當テ又左側ヘ轉シ斯ク反覆遂ニ畑ノ他端ニ至ラハ前ニ戻リテ前ノ端ヨリ先回ノ右ニ隣リテ  
始ム斯クノ如クシテ一回ニ鋤ノ巾丈ク耕サレ起サレタル土ハ前回ニ取ラレテ溝トナリタル所ニ覆サル、ナリ斯クシテ一  
日男一人ノ工程漸ク三畝乃至五畝ニ過ギザルナリ

右ノ如ク耕起シタル後ハ暫時其儘ニ放置シテ良ク冬ノ寒氣ニ曝露シ風化作用ヲ受ケシム其後三月上旬ヨリ中旬ニ亘リ土  
塊ノ破碎ト地表ノ均坦ヲ計ル目的ニテ馬把ヲ施シ之ニヨリテ地表ニ顯ハレタル土塊ヲ「ツブテコワシ」ト稱スルモノニ  
テ打チ碎キ更ニ馬把ヲ施シ「ツブテコワシ」ヲ用ユ其方法水田ノ代播ト異ルコトナキモ馬把ヲ畑ノ一隅ヨリ順次長楕圓  
形ヲ畫キテ掛ケ更ニ横ニ搔ク即縱横ニ馬把搔ヲナシ「ツブテコワシ」ニテ土塊ヲ碎クナリ斯クスルコト初メヨリ三回乃  
至四回行フテ止ム更ニ丁寧ナル者ハ此後一回犁ニテ鋤キ起シ土塊ヲ地上ニ顯ハシ「ツブテコワシ」ニテ之ヲ碎クモノト  
ス其後竹ヲ割リタルモノヲ地上ニ當テ左右ニ振り地上ヲ均平ナラシメ以テ整地ヲ終ル

**播種**

播種ハ從來清明(四月五六日頃)ヲ中心トシテ前後四五日間ニ播キ終ルベキモノトナシタルモ今日ハ勞力

ノ分配及風雨ニヨル損傷ヲ輕減セシメンガ爲メ多少播種期早メラレ三月二十五、六日頃ニ始メテ四月五日頃ニ終ルニ至  
レリ然カモ之ガ爲メ收量並ニ品質ニ影響ヲ見ルコトナシト稱ス

播種量及播種ノ方式ハ地方ニヨリテ均カラズ撒播ノ場合ニハ一反歩六升乃至八升ニシテ條播ノ場合ニアリテハ四升ヨリ  
五升ニ至ルヲ常トス種子量少キニ失スルトキハ分枝シテ剝皮不良トナリ厚播ニ過グレハ細莖トナリ生育不充分トナリ  
從テ良品ヲ産スル能ハザルニヨリ一般ニ播種量ハ各自ノ注意スル所ナリトス

既ニ整地終ラハ直チニ作畦播種ヲ作畦ニハ普通畦引ト稱スル農具ヲ用ユルモ近時ハ多ク播種器ヲ使用シ畦立ト共ニ播種  
ヲ行フ何レノ場合ニ於テモ畦幅ハ六寸乃至八寸普通七寸幅ナリトス此畦幅ニテ一寸位ノ深サニ溝ヲ作り此内ヘ播種ス此  
作業ハ普通婦女ノ行フ所ニシテ播種器ヲ用フル時ハ一日優ニ四、五反ヨリ七、八反歩ノ播種ヲ行ヒ得ルモ然ラザルモノ  
ニアリテハ一反歩一日一人ヲ要ス殊ニ此播種器ノ内中枝武雄ノ發明シタル中枝式播種器專ラ賞揚使用セラレ場所ニヨリ  
六、七戸共同ニテ使用セルモノアリ斯クシテ播種レバ施肥シテ被土ス

右ハ條播ノ場合ナレトモ撒播ノ場合ニアリテハ畦幅一尺八寸乃至二尺トナシ畦間ヲ五、六寸トシテ先ヅ畦ノ土ヲ畦間ノ  
所ヘ五、六分ノ深サニ上ケ即畦間ヲ高クシ畦ノ所ヲ低クナシ播種ハ普通手ニテ畦ノ播幅ヘ厚薄ナク撒播シ其後直チニ其  
上ニ施肥シ鐵ニテ其畦間ノ土ヲ浚ヒテ被土ス其被土ハ乾燥セザル様畦立シテヨリ手早ク被土ニ至ルノ操作ヲ執ルベク且  
ツ被土ハ厚薄ナキ様ニ注意スルヲ普通トス



第三大 麻(楊木縣)



施 肥 大麻栽培ノ支出中勞銀ニ次ギテ大ナルハ肥料費ニシテ然カモ肥料ハ其種類ト用量ノ適否トニヨリ生産物ノ收量ト品質トニ大ナル影響ヲ及ボスモノナレハ栽培者ハ最モ肥料ニ就キテ思慮スルヲ常トス

優良ナル製麻ヲ得ントスルニハ麻植質極メテ少ナク地方消耗シテ無肥料ニテハ何作モ出來ザル如キ地ヲ選定シ之ニ肥料ヲ適宜施シテ栽培ス即チ地方ニヨラズシテ専ラ肥料ノ力ヲ以テ生育セシムルニアラズンバ能ハザルナリ

而シテ之ニ用フル肥料ノ種類ニヨリテ或ハ纖維ハ強韌トナリ又脆弱トナリ或ハ麻ノ伸長ヲ良クスルモノト不良ナラシムルモノト又光澤ヲ増スモノト然ラザルモノトアリ或ハ肥料ニヨリテ節(葉ノ附着スル部分)ヲ高メテ剥皮ヲ不良ナラシムルモノトアルトニヨリ栽培業者各説ヲ異ニシ其種類用量自ラ異ルモ普通肥料、人糞尿、荏油粕、鱈油粕、草木灰、菜種油粕等、用ヒラレ殊ニ荏油粕ハ品質良キ製麻ヲウルニ於テ最モ適當ナリト云フ者多シ近時尙肥料費節減ノ目的ニテ大豆粕、過磷酸石灰、硫酸アンモニヤ、智利硝石其他配合肥料ヲモ使用スルニ至レリ乍去品質本位ノ地方ニアリテハ尙ホ在來ノ肥料ヲ使用スルモノ多シ今參考ノ爲メ二三肥料ノ配合ヲ記セハ次ノ如シ(各一反歩當ヲ示ス)

其 一

人 木 厩	數	量	備	考
糞 灰 肥	二八〇	〇〇〇		
尿	一六〇	〇〇〇		
	一九〇	〇〇〇		
荏 油 粕	三二〇	〇〇〇		
鱈 油 粕	一一〇	〇〇〇		

其 二

堆 肥	數	量	備	考
荏 油 粕	二五〇	〇〇〇		
人 糞 尿	四八〇	〇〇〇		
大 豆 粕	七〇〇	〇〇〇		
人 糞 尿	四〇〇	〇〇〇		

其 三

厩 肥	數	量	備	考
硫酸アンモニヤ	一五〇	〇〇〇		
人 糞 尿	七〇〇	〇〇〇		
	八〇〇	〇〇〇		
	二〇〇	〇〇〇		
過 磷酸 石灰	二四〇	〇〇〇		
大 豆 粕	一〇〇	〇〇〇		

其 四

厩 肥	數	量	備	考
人 糞 尿	三〇〇	〇〇〇		
	二〇〇	〇〇〇		
	一〇〇	〇〇〇		
過 磷酸 石灰	一〇〇	〇〇〇		
米 糠 粕	三〇〇	〇〇〇		
大 豆 粕	三五〇	〇〇〇		

其 五

厩 肥	數	量	備	考
人 糞 尿	二五〇	〇〇〇		
	一二〇	〇〇〇		
	一〇〇	〇〇〇		
過 磷酸 石灰	六〇〇	〇〇〇		
硫酸アンモニヤ	七五〇	〇〇〇		

以上列記セシ肥料中醱酵熱ノタメ發芽ヲ害スル恐アルモノハ豫メ腐熟セシメ置キテ用ユル場合モアレトモ多クハ其儘厩肥中ニ混合シテ施スヲ常トス而シテ肥料ハ其一部ヲ補肥トナス場合モ存スレトモ是極メテ稀ニシテ多クハ皆原肥トシテ用ユ

肥料ノ混合ニハ種々ノ式アリテ地方ニヨリ人ニヨリテ一様ナラザルモ多ク行ハル、ハ先ヅ厩肥ヲ圃場若シクハ庭先キニ運ビ中央ヲ凹形ニ圓形ニ堆積シ直徑ハ適宜ニシ高サ二尺五六寸ヨリ三尺ノ間ヲ普通トシ堆積終ラハ上部ヲ踏ミ固メテ凹



部一面ニ平等ニ灰ヲ敷キ次ニ所要ノ人糞尿ヲ注ギ更ニ他ノ肥料ヲ混ジテ一樣ニ撒布シ萬能又ハ「ホーク」ノ類ヲ用ヒテヨク切り返シ攪拌混和ス

斯クノ如クシテ肥料ノ調合終ラハ之ヲ肥積俟又ハ「テゴ」(糞製ニシテ一種ノ籠)ニ詰メテ左脇ニ抱ヘ右手ヲ以テ播種シタル上ニ撒布ス(播幅一面ニ平等ニ撒布ス)施シ終レハ撒播ノ場合ニハ畦間ノ上ヲ鍬ニテ又條播ノ場合ニハ畦間ノ土ヲ足ニテ踏ミ付ケ乍ラ厚薄ナキ樣一樣ニ覆土スルヲ常トス此覆フベキ土壤ハ濕分ノ蒸發成ル可ク少キ内ニ被土スルヲ肝要トス

此肥料ヲ種子ノ上ニ施スコトハ大麻栽培地一樣ニ行フモノニシテ其理由トスル所ハ發芽ヲ良クスルニアリト即チ若シ肥料ノ上ヘ播種スル時ハ油粕類ノ漸ク酸酵セントスルトキ發芽シ始メ其幼根ハ酸酵熱ノタメ腐敗シテ發芽ヲ害スルモ肥料ヲ上ニ被フトキハ根ノ損傷ナク芽ハ害セラレ、コト無シト又肥料ノ上ニ土ヲ被フテ播種セハ發芽最モ良好ナルモ其後ノ生育劣ルト稱ス又大麻肥料トシテ人糞尿ヲ混用スルハ是レ肥料ト稱スルヨリモ他ノ有機質物ノ酸酵ヲ促進セシムル目的ヲ有スルコト多シト稱セラル即人糞尿ヲ混セザル肥料ヲ用フルトキハ種子ノ發芽ニ際シ肥料ノ酸酵盛ニシテ發芽ヲ損スルコト多キモ人糞尿ヲ以テ潤シタル肥料ハ種子ノ發芽ノ頃ハ既ニ酸酵ノ終ラントスル頃ナレハ發芽ヲ害スルコトナシト

而シテ肥料ノ配合ハ多ク播種當日ノ朝又前日ノ夕方トス而シテ其以前ニ配合スルトキハ天候ノ關係上播種シ能ハズシテ遂ニ幾日モ堆積繼續スルトキハ肥料分ノ損失大ナリトノ意味ニテ當日又ハ翌日ノ天候ヲ見定メテ其前日夕景ニ配合スルヲ常トス

間

合ニ十日以上ヲ要スルコトアリ

間引ハ普通四回ニ行フヲ常トスレトモ時ニ三回ニテ終ルコトアリ或ハ又五回ニ巨ルコトアリ要スルニ隨時幾回トナク行フヲ宜シトス初回ハ發芽後十三四日ヲ經テ二寸内外ニ生長シタルトキ主トシテ短キニ失スルモノヲ間引キ草丈ヲ揃ハシメンガ爲メニ行フモノニシテ異種類ノ混在シタルモノ若クハ雜草等ヲモ除去スルコト勿論ナリ

第二回ハ其後一週間遅クモ二週間以内ニ行ヒ長短共ニ度ヲ失スルモノ及密生ニ過ギタルモノヲ除去シ

第三回第四回ハ各一週日ヲ隔テ行ヒ尙餘暇アル場合ニハ隨時幾回トモナク異種類及蟲害ニ侵サレタルモノ其他生育ノ過キタルモノ及雜草等ヲ除去スルヲ普通トス

中耕及除草

中耕ハ普通一回行ヒ第一回間引ノ直後又ハ二三日ヲ經テ行フ用具ハ「カツサビ」ト稱スルモノニシテ之ヲ兩手ニ持シ株間(畦間ノ義)ヲ後退シツ、耕スモノニシテ作業極メテ簡單ナリ中耕ニ際シテハ良ク土塊ヲ以テ幼莖ヲ倒歴スルコトアリ又曲ゲラル、モノヲ生ズルコトアルヲ以テ中耕ノ終リ次第直チニ手入ヲ爲スカ又ハ麻稈ノ如キモノヲ手ニシ中耕シツ、倒曲セルモノヲ直スヲ常トス然ラザルトキハ曲リ麻ヲ生ジ局部ハ固定シテ途ニ恢復シ能ハザルニ至ル

除草ハ通常間引ニ併セ行フ

病蟲害其他ノ被害防除 本縣大麻ノ病害ハ主トシテ立枯病ナレトモ其發生割合ニ少ク濕地ニ於テ幾分ノ發生ヲ見其害ノ劇甚ナル場合ニハ發生局部ノ被害植物ヲ拔キ取り燒却シテ蔓延ヲ防グモ普通ニハ畑ニ入り麻ノ根際ヲ踏ミ固ムルコトニヨリテ蔓延ヲ豫防シ得ルト爲シ此作業ヲナス

蟲害ニハ夜盜蟲(蠶)ノ發生アリ夜盜蟲ノ如キ大發生ヲナストキハ全圃綠ヲ斷ツコトアルモ斯ル被害ハ稀ナリ

普通夜盜蟲ニ對シテハ拾ヒ捕リヲナシ又鐵葉板ニテ巾一尺長サ一尺五寸乃至二尺位ニシテ深サ三四寸ノ箱ヲ作リ紐ニテ腰部ニ下ケ畦間ヲ歩キツ、兩手ヲ以テ左右ヨリ麻莖ヲ拂ヒツ、前進シ前ニ吊セル箱ニ蟲ヲ拂ヒ落ス斯クセハ二三箇中ノ未タ綠色ヲ呈スルモノハ勿論壯齡ニ達シタルモノト雖モ大麻圃ノ鬱閉スルニ至ラハ日中モ尙ホ莖ニ上リ居ルヲ以テ集メ殺スコトヲ得

大麻ノ蠶蟲(蠶)ハ大麻作ノ強敵ニシテ之ニ侵サレタルモノハ遂ニ製麻スルコト能ハサルニ至ルコトアリ且ツ被害植物ハ之ヲ放置スルトキハ喰入シ居タル蟲ハ他ノ莖ニ移轉シ喰害スルモノナルヲ以テ被害麻ハ成ル可ク早キ内ニ根際ヨリ切リ取ルヲ普通トス此切り取りノ外蠶蟲ニ對シテハ何等ノ手段ヲ講スルモノナキモ點火誘殺ノ如キハ亦効アルヘシ

右ノ外有生のノ害トシテ種子發芽ノ當時種皮ヲ被レル稚植物ニ對シテ雀ノ加害スルコトアリ然レトモ是レ僅カニ二三日間ノ注意ニヨリ害ヲ免ル、コトヲ得ルモノナレハ發芽ノ時期ニ於テ子供ノ日課トシテ地方ニヨリテハ鳥逐ヒテ行ハシム其他播種遅レタル時種蠅ノ害ヲ被ルコトアリ

右ハ何レモ有生のノ被害ナレトモ大麻作ニ對シテハ無生のニシテ最モ恐ルヘキ害アリ即チ雹害ト風害是レナリ前者ハ多ク山間地ニ於テ甚タシク後者ノ加害ハ平坦地ニ於テ大ナリ強キ降雹ニ當リタルモノハ殆ント救フヘカラサルニ至リ甚シキハ直チニ刈リ倒シテ他ノ夏作ヲ仕付クヘキ場合モ存スレトモ害ノ輕微ナル場合ニ於テハ折レタル麻ハ其根際ヨリ刈リ取り倒レタルモノハ起スコトニヨリテ恢復セラレ雹害ハ大麻作ニ最モ恐レラル、モノニシテ大低新曆五月ヲ越ユレハ此害ナシトス是ヲ以テ雹害ノ累年頻々至ル地方ニテハ五月中苗床ニアリテ五月ヲ過キテ本圃ニ移ス所ノ煙草作ニ勢力ヲ



奪レタル傾向アリ  
 風害モ甚シキ時ハ大麻ノ收量ト品質トニ大ナル損失ヲ來サシム風ノ爲メニ「折レ麻」ヲ生スルコトハ比較的ニ少キモ其  
 後ノ手入ヲ怠ルトキハ「曲リ麻」ヲ生シ又左右ノ畦ノ麻莖交叉シ互ニ風ノ爲メニ搖ラレテ摩リ傷ヲ作ル等ノコト少カラ  
 ス故ニ風ノ小ナル場合ニハ畦間ニ入り左右ノ畦ノ麻ノ畦ノ間ニ隙ヲ留メテ左右ニ押シ別ケ開キテ通り歩キ又左右ノ畦ノ  
 麻莖一本ノ交叉セル爲メ其交叉ノ下ニナリテ起キ上リ得ヌ曲麻ヲ生スル如キ場合アルヲ以テ斯ル場合ニハ鋭刀ヲ用ヒ交  
 又セル麻ヲ切り一本ヲ犠牲トシテ數本ヲ助クル様ノ手段ヲ講ス  
 其他風害ニテ倒レタルモノハ十數本ヲ一纏メトナシ山野ニ自生スル「ヤマカンゾー」ノ葉ヲ以テ其先端ヲ緩ク縛シ置キ  
 漸ク癖ノ直リタルトキ解束ス此縛ヲ永ク解カサルトキハ又幾分ノ曲リヲ生スルコトアリ或ハ又風ナト續キ至リテ折角起  
 シタル「ヤマカンゾー」ノ葉ニ擦レテ麻莖ニ傷ヲ生スルコトアルヲ以テ縛リタルモノモ起癖ノ付ク頃ニハ縛ヲ解クナリ  
 或ハ莖ノ摩擦傷ヲ恐レ糊ヲ多ク用ヒタル和紙ヲ以テ數本ノ曲莖ヲ起シ結ヒ置クモノアリ斯クシタルモノハ朝露ノタメ紙  
 ノ潤ヒタル頃莖ノ上向性ニテ切レ莖ハ上直シ紙ハ切レテ摩擦ノ害ヲ免ル、ノ利アリ近來之ヲ行フモノ幾分アリ  
 此他若シ莖ノ伸長度ニ過クルカ如キ恐レアルトキハ早朝畑ニ入り朝露ヲ拂ヒ落シ且ツ根際ノ土ヲ踏ミ固メテ之ヲ豫防ス  
 ルコトアリ

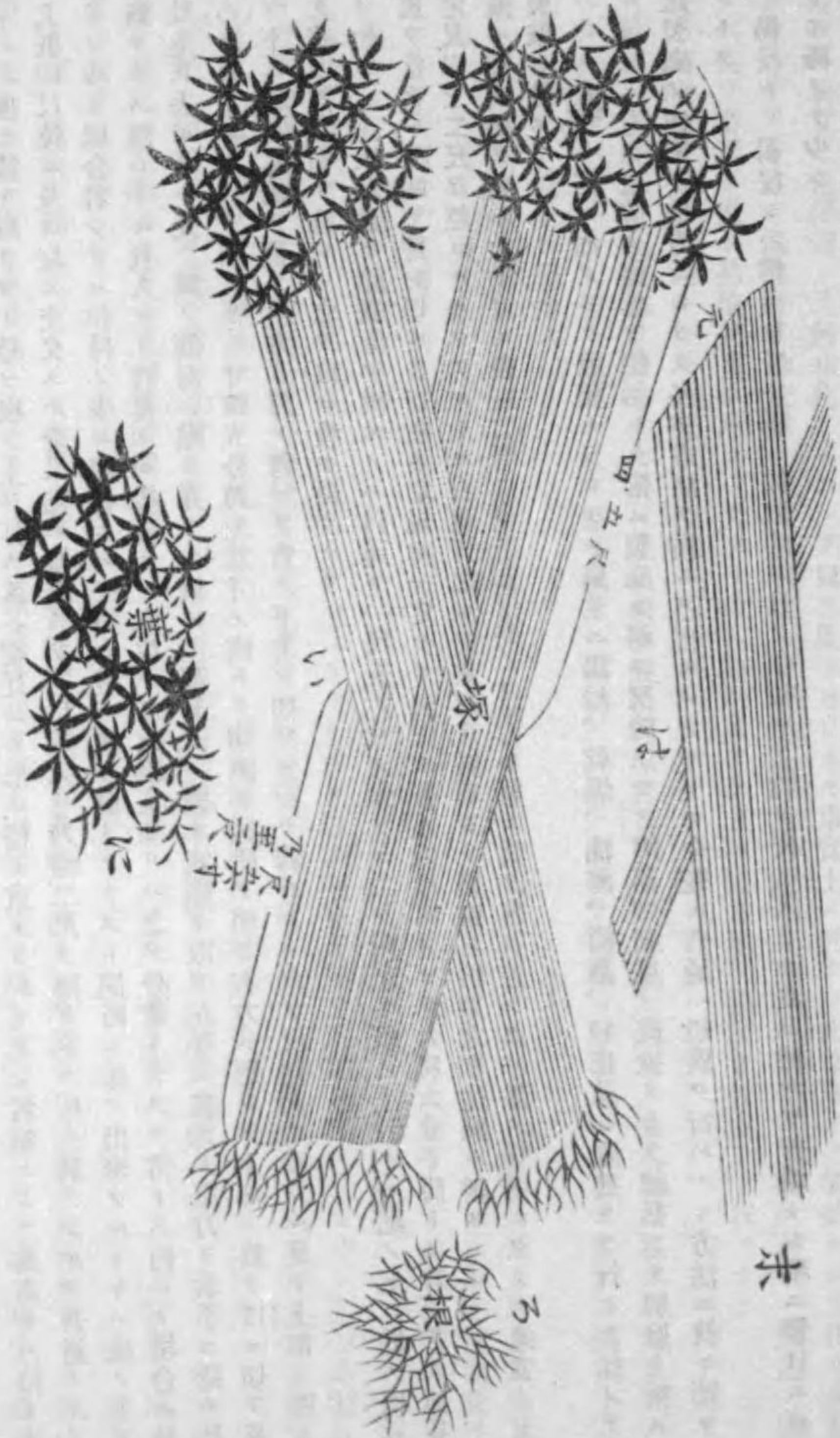
收穫期

多クハ夏土用一、二日頃ヨリ始メテ五、六日間ニ終ルヲ普通トスレトモ天候ノ如何ニヨリテハ土用中頃ニ  
 亘ルコトアリ播種シテヨリ凡ソ百十日前後ニ相當ス普通ノ場合ニ於テハ多少收穫ヲ早ムルトモ成ル可ク遅レサル様注意  
 ス即早キニ失スレハ收量ヲ減シ且ツ強靱力モ乏シケレトモ遅キニ過レハ光澤ヲ失シ質細剛トナリ品質ヲ損スルコト甚シ  
 收穫ノ適期ニ達セハ下葉凋落シテ梢端ノ葉互生シ止葉ヲ生シ莖ハ稍々黃味ヲ帶ヒ外側ヨリ畑ノ内部ヲ窺フトキハ著シク  
 明カナルヲ覺ユルニ至ルヲ以テ之ヲ度トシテ收穫スルモノトス  
 收穫ニ就テ尙注意スルハ天候ニシテ乾麻ニ差支ナキ様ナルヘク刈取後三四日間モ晴天續クヘシト認メタル時ニ刈取ルヲ  
 要スルナリ然レトモ一方ニ於テハ收穫ノ遅ル、ハ製麻ノ品質ニ大ニ關係スルカ故ニ刈取ノ日ハ栽培者ノ大ニ注意スル所  
 ナリトス

收穫

收穫ハ晴天ヲ選ヒ早朝ヨリ多クハ數人ニテ行フ即チ一人ハ葉ノ附着セル上部ヲ左右ヨリ凡ソ十五、六本  
 乃至二十本ヲ集メテ握リ直チニ引キ抜クカ或ハ後側ニ居ル他ノ一人ト協力シテ引キ抜ク此場合ニハ前方ノモノヲ「根取  
 リ」ト稱シ後側ノ人ヲ「ウラ取り」ト稱ス根取り先ツ引抜クヘキ丈ノ本數ヲ集ムレハ稍々根際ノ方ヲ握リ之ヲ左側腰

邊ニ横へ同時ニ「ウラ取り」ハ稍々端ヲ握リテ其ニ力ヲ協セ稍前方ニ押シ勢ヲ付ケテ引抜ク引抜ケハ「ウラ取り」之ヲ  
 受取りテ根部ニ附着スル土ヲ足ニ打チ付ケ落シテ塚ニ重ヌ此間ニ根取りハ又次ニ抜クヘキモノヲ集ムルナリ  
 右ノ如クシテ根取り集ムルモノハ長莖ノ虫害等ノナキモノナレハ抜き取りタル後ニハ尙多少ノ短キモノ殘ルヲ以テ中麻  
 取又ハ根麻取ト稱シテ別ニ又此殘レルモノヲ抜き取り前ノ如ク土ヲ拂ヒ落シ別塚ニ之ヲ堆積ス但シ此根麻又ハ中麻取リ  
 ト稱スルモノハ先廻リシテ先ニ屑麻ヲ抜き取ル場合モ存ス





塚トハ一度ニ抜キ取りタル分ヲ根ノ土ヲ打チ落シ交互ニ×形ニ積ミ重ネタルモノ、名稱ニシテ其高サハ積ミ得ルヲ度トシ大低四尺位ニ及フ塚ニ交叉スル交叉點ハ根際ヨリ一尺五六寸乃至二尺ヲ隔テタル所ニ於テスルヲ普通トス  
人手ノ少キ場合若シクハ作付ノ少キ場合ニハ一方ニ於テ抜キ取りヲナスト同時ニ塚ノ出來タルトキハ麻ノ莖葉及根部ノ切斷ヲナス然レトモ數人ニテ收穫スル場合ニハ麻拔キト此根葉切りハ之ヲ分業トナスヲ常トス何レノ場合ニ於テモ麻ノ根及葉ヲ去ルニハ先ツ塚ノ側面ニ立テテ塚ノ上部ヨリ一握リ宛麻ヲ取り左手ニ握リテ庖刀ヲ右手ニ持テ始メハ根部ヲ(ノ)ニ落下スル様土際ヨリ一寸四五分乃至二寸ノ處ニテ切斷シ後體ヲ稍々右方ニ廻シテ上部ノ葉ヲ(ニ)ニ切り落シ更ニ庖刀ヲ下ニ廻シ丸味ヲ帶フル方(刀ノ背)ヲ當テ下葉ヲ切り去ルカ若シクハ莖ヲ反轉シテ殘レル葉ヲ上部ニ顯シ前ノ如クシテ葉ヲ落ス切り終レハ之ヲ(ハ)ニ投ケ置クナリ

右ノ如クシテ根及葉ヲ除去シタルモノハ目通り一尺五六寸ノ太サニ二ヶ所束ネ板ノ上若クハ筵ノ上ニ於テ根元ヲ揃ヘ後定規ヲ當テ、先端ヲ押シ切ニテ切斷ス定規ハ一定セザレトモ普通六尺四寸ヨリ六尺六寸ノ間トス若シ莖ノ伸長佳良ニシテ定尺以上二尺ヲ超ユルモノアルトキハ更ニ之レヲ集メテ區別シテ製麻ニ供ス之ヲ生麻ト稱ス  
中麻モ亦同様ノ束トナセドモ根麻(最モ短カキ屑麻ノコト)ハ單ニ葉ヲ落シ若シクハ落スコトナクシテ適當ノ束トナシ置キ製麻ニ供ス

調

製

右ノ如クシテ收穫セラレタル麻莖ニ湯浸、乾燥、洗滌、醃蒸、剥皮及ビ麻挽キヲ行ヒテ始メテ把麻ヲ製スルモノニシテ之等ノ操作ヲ總括シテ俗ニ製麻ト稱ス又時トシテ醃蒸、剥皮、麻挽ノミヲ總括シテ製麻ト稱スルコトアリ此製麻ノ作業ハ地方ニヨリテ多少方法ヲ異ニスルモノナレドモ今茲ニ普通一般廣ク行ハル、方法ニ就キ順ヲ逐フテ記サントス

(イ) 湯浸シ 湯浸シハ俗ニむすト稱シ拔取りシ日ノ午後ヨリ始メ夜ニ入りテ之ヲ終ルヲ普通トシ稀ニ翌日ニ亘ルコトアレドモ極メテ少シ

其方法ハ家屋ノ近傍又ハ畑地ニ麻風呂ヲ掘ヘ湯ヲ充分ニ沸騰セシメテ後先ヅ一把ヲ根元ヲ下ニシテ浸シ後引上ケテ倒ニシ上部ヲ浸スト同時ニ他ノ一束ヲ根元ヨリ先ニ浸漬ス斯クシテ同時ニ二把ヅ、(一方ハ根元ノ方一把ハ先端ノ方ト互違ニ)少キハ十五束多キハ三十束ヲ一回トシテ行ヒ浸漬ノ時間ハ最初能ク沸騰セル内ハ一分間前後若シクハ湯ノ中ヲ二三回少シ許ノ高サニ上下シタルノミニテ充分ナレトモ漸次度數ヲ重ヌルニ從ヒ幾分温度下降スルヲ以テ稍々長ク湯浸スルノ必要ヲ生ス但シ麻風呂ハ常ニ薪炭ヲ燃燒シツ、アルナリ斯クテ一回分ノ湯浸終リ湯温下降シ湯量減少シタルトキハ口

風呂ノ湯ヲ槽内ニ移シ更ニ口風呂ニ水ヲ滿タシ沸騰セシメテ次回ノ補足ノ用ニ供ス斯ク口風呂ノ沸騰シタル湯ヲ以テ補足シタル後ハ第二回ノ(即十五把又ハ三十把ヲ以テ一回ト定メ湯ノ補足ヲナスニヨリ補足後始ムル分ハ二回又ハ三回ト稱ス)湯浸シテ繼續ス

此麻風呂ニ口風呂ノナキモノヲ使用スル地方アレトモ浸漬時間七分ヨリ十分位迄モ要シ却テ薪炭ヲ要スルコト多ク近來ハ大低口風呂ノアルモノヲ使用スルニ至レリ

湯浸シハ表皮ノ色澤變シテ鮮綠色ヲ呈スルヲ以テ度トスレトモ事實上ニ於テハ此際極メテ繁忙ニシテ往々夜間十二時後ニ亘ルコトアリ且ツ湯温降り湯量減シテ不知不識ノ内ニ浸漬時間ノ短キニ失スルコトアリ斯ルモノハ製造ノ際剥皮容易ナラス且ツ光澤ヲ損シ品位ヲ害スルコト大ナリ故ニ斯ルモノアラハ翌日早ク湯浸ノ仕直シヲ行フナリ

湯浸ハ其時間ノ長キニ過キタルハ毫モ品位等ニ影響スルコトナシト云フ

(ロ) 乾燥 湯浸終レハ夜露ヲ受ケサル所ニ立テ掛ケ翌朝河原若シクハ畑ニ運ヒ適宜ノ臺木ヲ(多クハ丸太又ハ太キ竹)横ヘタル上ニ中央ヨリモ稍々根元ニ近キ點ヲ載セ一本並ヘニ薄ク擴ケテ乾燥シ午前十一時後ニ於テ一同上下ノ反轉ト共ニ先端ト根元ノ位置ヲ變換ス

夕刻ニ至テハ取纏メテ適宜ノ束トナシ一ヶ所丈束ネテ雨露ヲ避クル爲メ覆蓋ヲ施シ置キ翌朝ニ至リ再ヒ乾燥スルコト前日ノ如クシテ三日ヲ以テ終ルモノトス之ヲ乾麻ト云フ地方ニヨリテハ初日ハ單ニ擴ケタルノミニシテ其儘夜ヲ越シ翌日ノ正午ニ至リ初メテ反轉シ其日ノ夕刻取リ纏メテ一ヶ所結ヒ更ニ湯浸ヲ行ヒ翌日再ヒ地干シト稱シ乾燥スルモノ少カラ

ス此場合ニ行フ湯浸ヲ二番湯ト稱ス

普通湯浸ヲ行ヒタルモノハ其後直チニ乾燥セサルヘカラサルヲ以テ充分天候ヲ見定メ行ヘトモ若シ途中降雨ニ遭遇スルコトアラハ雨ニ濡レサル様軒下又ハ納屋等ニ入レテ立テ掛ケ置キ翌日尙ホ止マサル場合ハ束ノ上方又ハ下方ヲ擴ケテ内

部ニ通氣ヲ圖ルヘシ若シ醃蒸ヲ來スカ如キ憂アルトキハ更ニ湯浸ヲ行ヒ晴天ヲ待タサルヘカラス不幸ニシテ降雨永ク連續セハ數次湯浸スルヲ要ス若シ湯浸ヲ怠ルトキハ白露ヲ生シ製麻ニ汚點ヲ止メ品質ヲ損スルコト大ナリ但シ此際ニ行フ湯浸ノ湯温ハ左程高カラス又湯浸時間モ僅カニテ足ルナリ然ラサレハ薪炭ヲ多ク要スルノミナラス收量ヲ減少スルコト

アリト云フ

(ハ) 洗滌 乾燥ヲ終リタルモノハ仕事ノ都合上暫時貯ヘ置キテ後或ハ直チニ水洗ヲナス多クハ流水中ニテ行ヘトモ水利ノ便ナキ所ニテハ箱ニ水ヲ汲ミ入レテ行フナリ又何レニスルモ朝食ニ先テ浸シ食後引上クルカ或ハ水中ノ儘足ニテ踏ミ



付ケ水分ノ皮部ニ浸透スルヲ待テ引上ケ束ヲ解キテ前同様臺木ノ上ニ並ヘ乾燥ス一日乾燥スレハ充分ナルヲ以テ目通り四五尺ニテケ所結束シ乾燥セル屋根裏又ハ二階等ニ貯藏シ置キ秋期ニ至リ剥皮ニ着手ス之ヲ洗麻ト稱ス

又人ニヨリテ乾燥ノ節ニ述ヘタル如ク乾燥ノ第二日目ニ二番湯ト稱シ湯浸スルモノアリ麻挽ニ際シテ表皮(粕)ノ離脱ヲ容易ナラシメ光澤ヲ變セサラシムル爲メナリト云フ此場合ニ於テモ洗滌ハ行フナリ

(二) 醱蒸 貯藏シタル洗麻ヲ剥皮精製スルニハ先ツ麻莖ヲ醱蒸セサルヘカラス多クハ秋季ニ於テ行ヘトモ幾分翌春ニ殘ルコトアリ

醱蒸ハ俗ニ「ネカス」ト稱シ蒸床ニ於テ之ヲ行フ蒸床ハ納屋若クハ臺所ノ一隅ニ設クルモノニシテ其構造地方ニヨリテ多少相違アレトモ主ナルモノ一、二ヲ示セハ次ノ如シ

一、臺所若クハ納屋ノ一隅ニ長サ六尺五寸巾適宜(普通三四尺)ニ麥ノ荒糠ヲ二三寸ノ厚サニ敷キ詰メ長邊一方ヲ殘シテ他ノ三方ニ高サ凡ソ三尺ノ麥稈圍ヲ作り更ニ内部ニ青キ杉葉ノ細斷シタルモノヲ三寸厚サニ入レ上ニ丸太三四本ヲ並フルヲ普通トスレトモ熱ノ充分ニ起ラサル場合ニハ青草ヲ少シク杉葉ノ上ニ敷キ尙温度充分ナラサル場合ニハ麻挽ノ際ニ生スル「あか」表皮ヲ少量ツ、點々撒布シ其上ニ麥稈ヲ敷キ醱蒸熱ヲ適度ナラシム但シ氣候温暖ノ節ニアリテハ醱蒸熱物ヲ用ユルコトナシ

二、床ハ單ニ臺木丸太ヲ横フルノミニシテ多クハ發熱物ヲ用ユルコトナク寒冷ノ場合ニハ上部ニ覆フ藁ノ數ヲ増加スルノミ然レトモ温度益々寒冷ノ節トナリテ容易ニ醱蒸シ得サルニ至ルトキハ青草又ハ挽あか等ヲ下敷ニ用ユルコト普通ノ如シ斯クシテ醱蒸ニ要スル温度ハ加減セラルルモ若シ温度高キニ失セザル場合ニハ地面ニ水ヲ撒布シ若ハ覆蓋スヘキ藁ノ數ヲ減スルナリ臺木ハ長サ四五尺ノ丸太ヲ用ヒテ三本又ハ四本ヲ敷クヲ普通トス

以上ノ如クシテ蒸床ヲ構造セハ發熱ノ調節充分ナラサルヲ以テ中麻、根麻等ノ下等ノモノヨリ醱蒸シ始メ後上麻ニ及ホスナリ

ねかすニハ先ツ貯ヘ置キタル麻束ヲ取り出し之レヲ目通り稍々下部ニ於テ片手ノ拇指ト食指トニテ廻ル丈ケノ太サニ改束シ根元ヲ揃ヘテ後押切ニテ先端凡ソ一寸前後ヲ切斷シ(然ラサルハ此部分褐色ニ變シテ品質ヲ損スルニ因ル)麻舟中ニ水ヲ湛ヘテ之ニ浸シ水分ノ滴下スル間暫ク立テ掛ケ置キ元ノ方ヲ揃ヘテ床ニ入レルナリ

床ニ入レル時刻ハ隨時差支ナシト雖モ挽方ヲ夜業トスル場合ニハ朝時ヲ以テ便利トス而シテ床ニ入レル一回ノ分量ハ一度ニ挽キ得ル程度即挽キ手ノ人數及ヒ技術ノ巧拙等ニヨルモノニシテ朝ねかせハ直チニ藁ヲ以テ覆ヒ夕刻ニ至ラハ又麻舟ニ浸シテ水濕ヲ給シ水滴ノ去ルヲ待テ舊ノ如クねかす翌朝ニ至ラハ之ヲ取り出し新ニ醱蒸セントスルモノニ水濕ヲ與ヘテねかせ次ニ前日ねかしタル分ニ水濕ヲ與ヘ水濕ヲ去リテ當日ねかせタルモノト混合セサル様細繩一本ヲ敷キテ積ミ重ネ覆蓋ヲナス

斯ク朝夕水濕ヲ與ヘ新タニ入レタルモノハ最下層ニ漸次古キモノ程上積トナシテ積ミ重ネ置クトキハ時ノ氣温ト醱蒸床ノ構造トニヨリテ様ナラサルモ普通三日目ニ至ラハ適度ニ醱蒸シ剥皮シ得ルニ至ル三日目ニ至リ適度ニ醱蒸スルヲ以テ最適温トナシ普通之ヲ標準トシテ温度ノ加減ヲナス即夏季ハ高温ニテ醱蒸急激ニ進行シ冬季ハ低温ニテ三日間ニテハ尙醱蒸適度ナラサルヲ以テ此季節ヲ除キ若シ秋九、十月頃ニ終ラサル時ハ翌春四月頃ニ至ルヲ待ツ

若シ醱蒸熱不足ノタメ醱蒸適度ニ達セザルトキハ尙數時間ヲ要スルヲ以テ他ノ莖ヲ積ミタル上ニ更ニ藁ヲ敷キテ其上ニ並フルカ或ハ側面ニ於テスルカ何レニシテモ尙上ニ藁ヲ覆ヒ置クナリ此際若シ直接他ノモノト同様ニ積ミ重ネ置クトキハ往々度ニ過ギテ纖維脆弱トナリ光澤ヲ損スルコト少カラズ又醱蒸促進ノ方法トシテ温湯又ハ風呂水ヲ以テ潤シねかすコトアリ

麻舟ノ水ハ初メ川水ヲ用ユルモ以後古クナリテ水ヲ取り替ヘ又ハ補給スル場合ニハ麻舟ノ水ヲ三分ノ一位殘シ置キテ他ヲ新シキ水ニテ補足ス即チ悉ク更新スルハ宜シカラザルナリ時トシテ誤リ悉ク水ヲ捨テタルトキハ新シク水ヲ入レテ之レニ挽あかヲ少シク入レ置クナリ是レ或ハ其麻舟中ノ水ニハ麻ノ醱蒸(表皮下ノ膠質物ヲ)ヲ司ル酵母ノ多ク存在スルニヨルモノナルベシ斯ク水浸シテ水滴ヲ去ル間立テ掛ケ置クニ特ニ麻立臺ヲ使用スルモノアレドモ單ニ麻舟ノ長邊ノ一邊ニ丸太ヲ以テ組立テ置ク場合ヲ多シトス

醱蒸ノ程度ハ外皮の色ニ變ジ粘氣ヲ生ジテ滑カトナリ外皮容易ニ剝離シ得ルニ至リタルノ時ナリ

右ハ最モ普通ノ方法ナレドモ丁寧ニ行フモノアリテハ床ニ入レ給濕ノ度毎ニ一回分ノ小束ヲ更ラニ一々上下ヲ反轉スルモノアリ麻舟ハ作業ノ便宜上蒸床ニ接近シテ据付クルヲ普通トス

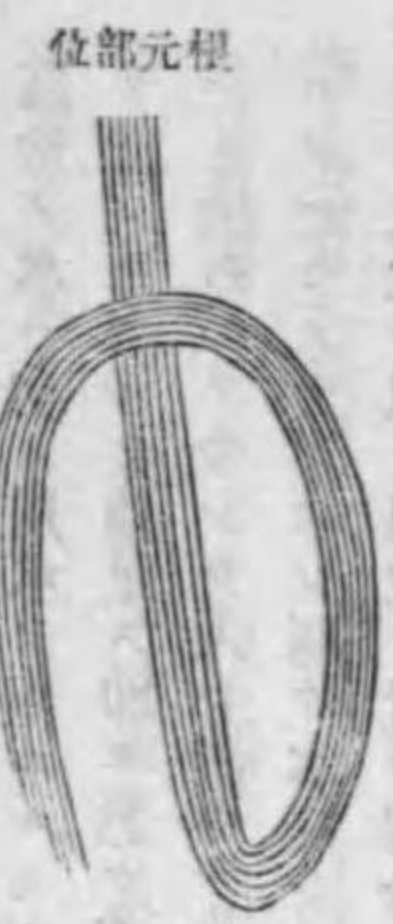
(水) 剥皮 既ニ蒸床ニ於テ適度ニ醱蒸セバ取り出しテ川水若シクハ舟ニテ浸シ揚ゲテ水滴ヲ去リ長サ六尺五六寸幅二尺位ニ竹又ハ麻稈ニテ編ミタル簀ノ上ニ二把程宛載セ根ノ方ノ結束ノミヲ解キ其右側ニ藁ヲ敷キテ之ニ座シ左手ニ二本乃至三四本ヲ握リ根元ヲ揃ヘテ凡ソ根元ヨリ一握リ分程ノ所ニテ右ノ手ヲ下方ニ折り莖身ヲ去リ剝離サレタル皮部ヲ皆下部ニ直シ麻莖ヲ左手ノ食指ト中指トノ間ニ挟ミ右手ヲ以テ皮ヲ引クトキハ莖身ハ皮ト分離シツ、前方ニ突出スベシ此際最初剝キタル元ノ部ノ皮ハ可成丸マラザル様右手ニテ持ツコト最モ肝要ナリ



又最初口出シノ爲メ右手ニテ折りタル後人ニヨリテハ二三寸上ニ於テ再ビ上方ニ折り曲ゲテ周圍ト莖身トヲ可成分離セシメテ剥皮ニ便ナラシムルモノアリ

而シテ一回ニ剥皮スベキ本數ハ地方ニヨリ用途並ニ麻莖ノ細太ニヨリテ一様ナラズ即チ一回ニ剥皮セラレタルモノハ俗ニ一さばト稱シ一枚ノ製麻ヲ構成スルモノナレハ細キ莖ハ數多ク太莖ハ數少ク剥皮スベキナリ

又産地ニヨリテ「サツバ」ノ巾ヲ一寸位トナス習慣ノ所アリ又岡地ナド稱スル産地ニテハ一本半ヲ合セテ「サツバ」トナシ其幅四分位トナルヲ以テ良トス斯ク一本半ヲ合セタルトキハ一本ノ場合ト異リ其節ノ部位一所ナラズ即甲麻ノ節ハ乙麻ノ節ニアラザル所ニ向フ故ニ強靱力ヲ増スト稱ス此一本半ヲ合ハセルニハ先ヅ始メニ一本ヲ剥ギ次ニ一本ヲ半分丈ケ口出シヲナシ前ノ一本ニ併合セシメツ、剥皮シテ遂ニ一枚半ヲ以テ「サツバ」トナスナリ

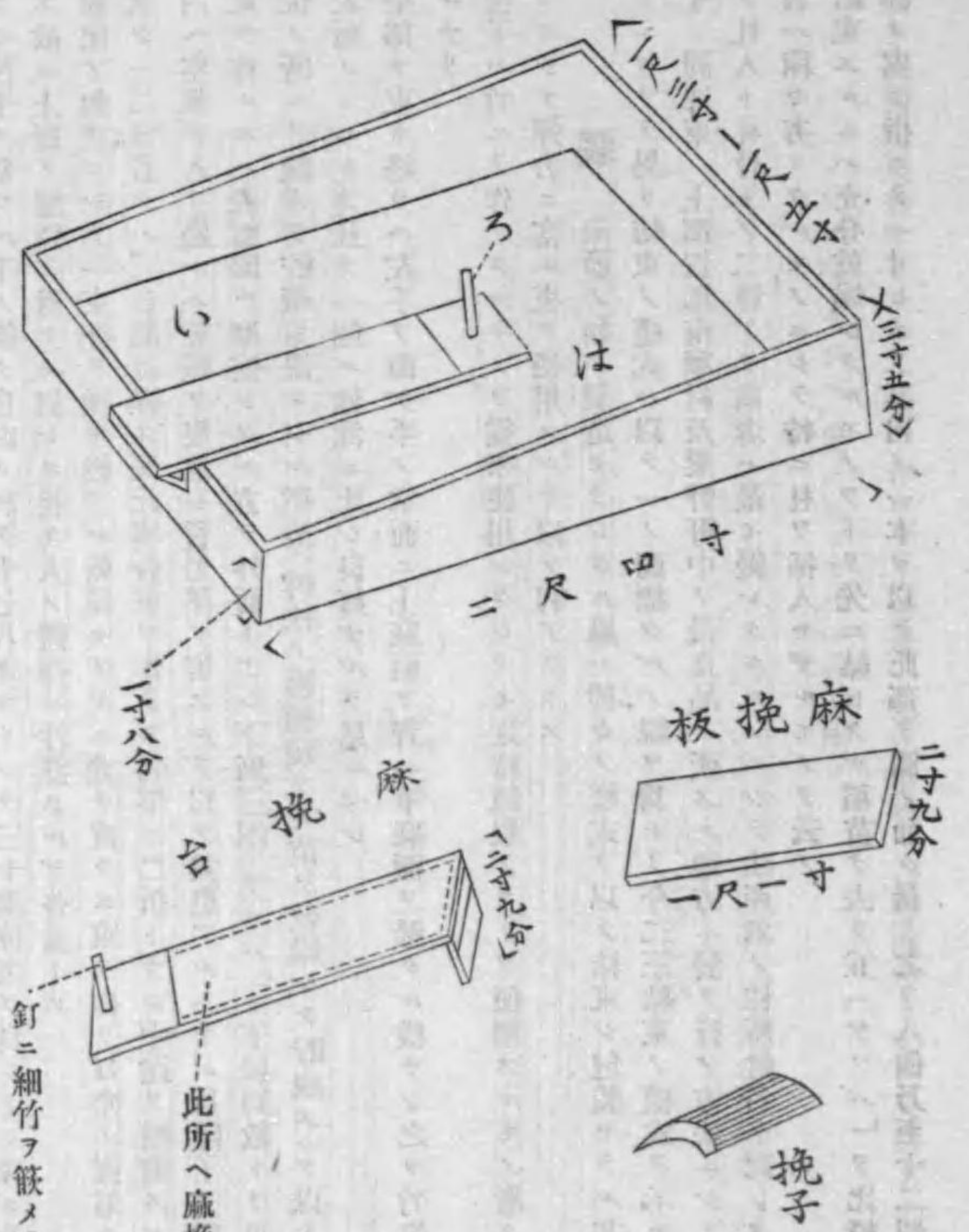


剥皮ノ堆積狀態

先端ノ處

斯クシテ剥ギタルモノハ上圖ノ如クニ並べ順次上へ堆積シテ一束分ヲ終ラハ上ヨリ手ニテ壓テ付ケ置キ直チニ麻挽ニ着手スベキモ若シ都合上直チニ行フ能ハザル場合ニハ竹ニ懸ケテ陰乾スルカ或ハ夜露ニ曝シテ腐敗ヲ防ガザルベカラス

(ハ) 麻挽 剥皮セシモノヲ流水若シクハ鹽ニ入レ全部潤ヒタルヲ待チ引上ゲテ水ヲ切り麻挽箱ニ入レテ挽キ始ム麻挽ニ要スル諸器具圖ノ如シ



釘ニ細竹ヲ箆メ或ハ烟草管ノ吸口等ヲ箆メ込ム

此所へ麻挽板ヲ置ク

先ヅ皮麻ヲ初メ剥キタル際ノ形ヲ其儘裏返シ箱ノ一側(イ)ノ部ニ置キ挽キ人ハ箱ヲ右ニシテ稍々後方ニ斜ニ座シ挽ク際ニ充分力ヲ出ヅル様臀ニ座布團ノ類ヲ丸メ當テ臺トナシ左足ヲ立膝トシ左手ニ皮麻ノ根元ノ方ヲ堅ク持チテ表面ヲ上向ニ先ヲ(ろ)ノ棒ニ廻シテ麻挽板ニ載セ右手ニ挽子ヲ持チテ四五寸宛數回摩擦シテ外皮ヲ去リ漸次左手ヲ後方ニ引キ遂ニ手ヲ伸シキリタル際更ラニ前方適當ノ場所ニ持チ替へ先端七、八寸ニ至ラハ殊ニ力ヲ添へテ他ノ部ヨリモ數回多ク挽キ(是レ此部ノ多少撚曲スルヲ貴ブ故)後前後ヲ變へテ初メニ持チタル根部ノ外皮ヲ去ル



挽キ終リタルモノハ品質ニヨリ之レヲ上下二種若シクハ上中下ノ三種ニ分チテ左前方ニ前方ヲ上品挽キ手ニ近キ方ヲ下品トシテ區別シ置キ挽キ粕あかハハノ部ニ集メ置クナリ

麻挽ハ製法中最モ技術ノ熟練ヲ要シ此レガ巧拙ハ直接品質ニ至大ノ關係ヲ有シ圓熟シタル技術者ニアリテハ其當ツル挽子良ク光澤ヲ顯シ強韌性ヲ増サシムルモ拙劣ナルモノバ却テ光澤ヲ損ス要ハ唯左手ノ引キ具合ト右手ノ挽子ノ當テ具合即挽子ヲ當テ、前方へ摩リ行キ摩リ返ス呼吸ニアルナリ此技良ク婦女ニ適シ且ツ賃銀低廉ナレハ多クハ婦人ノ業タリ然カモ挽子ヲ當ツル手ノ能ク自由ノ利ク十七八才ヨリシテ三十歳位迄ヲ良シトシ殊ニ廿三四歳ヲ以テ最モ技神妙ナリト稱ス故ニ上麻ノ製造ニ就テハ何レモ挽キ人ノ選擇ニ注意スルヲ普通トス

前記ノ如クニシテ一束分ヲ挽キ終ラハ乾燥セザルニ先チ直チニ束ヲ作り日光ノ直射セザル室内ニ於テ竹竿ニ長ク其儘懸垂シ一二日若クハ三日間乾燥ス又此場合束ヲ作ラズ竹竿ニ二折トナシ中途ヲ懸垂スルノ地方モアリ何レニシテモ此際室内へ空氣ノ入り過ルハ乾燥ヲ促進シ質光澤ヲ害スルヲ以テ其患アルトキハ戸障子ヲ閉テ之ヲ遮ルヲ常トス束ヲ作ルニハ表面即チ摩擦シタル方ヲ外面トナシ下麻三四「サツバ」ト下麻同數トヲ裏合セニシ此レヲ根元ヨリ凡ソ二寸位ノ所ニテ豫ネテ貯藏シ置キタル稲苗(種秧ノ節植殘リノ苗ヲ乾燥シテ貯藏ス)ヲ以テ結ブナリ故ニ一束ノ兩面ハ何レモ表面ノミニシテ且ツ一側ハ他側ニ比シ良好ナルヲ見ルベシ

全部ヲ束ネ終ラハ左手ヲ曲グテ手ノ掌面ニ上麻面ヲ背ニ下麻面ヲ懸クル様ナシ之ヲ竹竿ノ一端ヨリシテ竿ニ移シ擴ケ懸クルナリ

挽子ハ竹ニテ作りタルモノヲ從來使用シタレドモ近時鐵製ノモノヲ使用スルモノ漸ク増加シタリ又麻挽板ハ質餘リ堅カラズシテ彈力ニ富ム板ヲ使用スルヲ以テ利アリトス

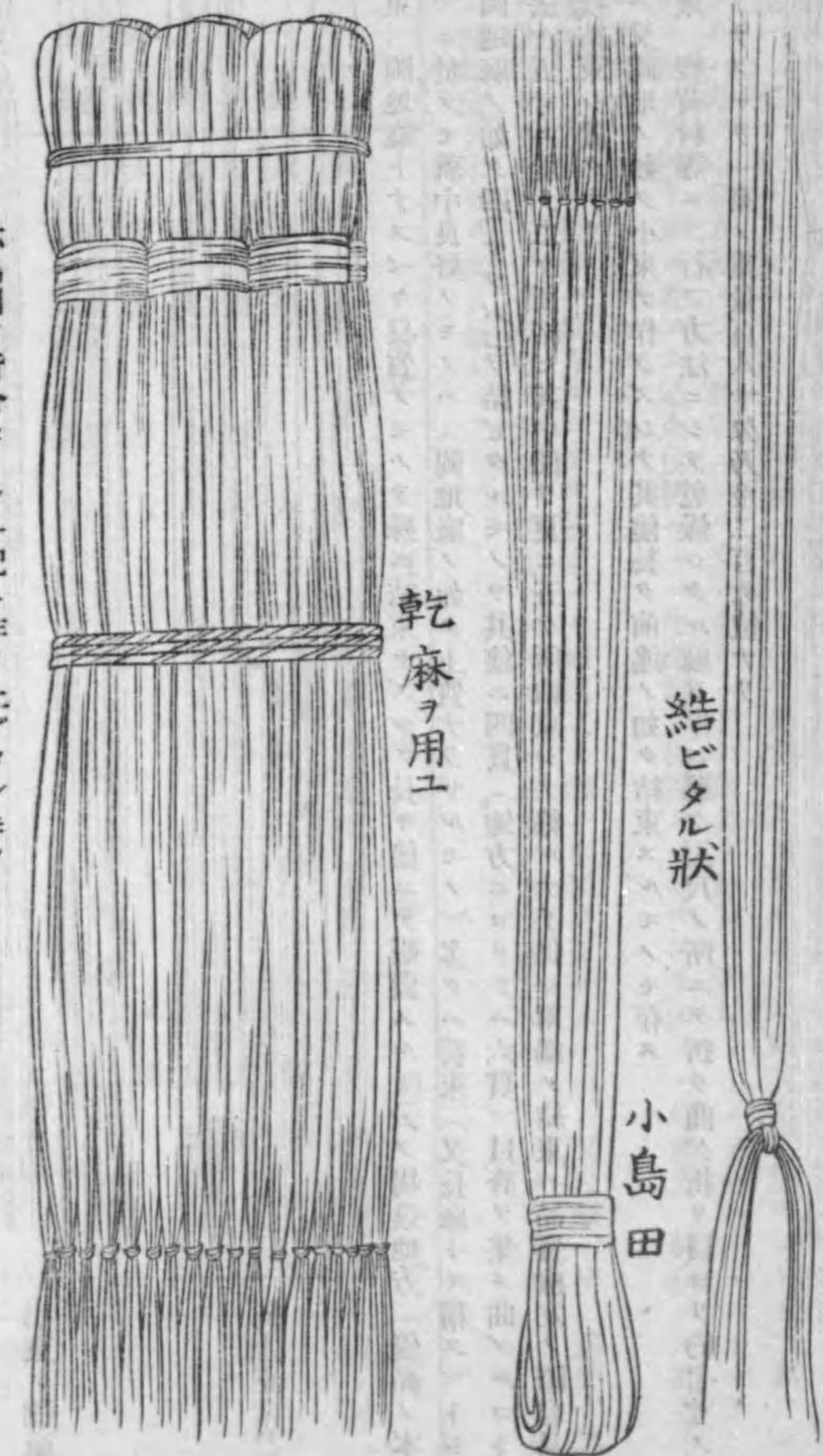
包

トニヨリテ異リ結束ノ様式ハ以テ一ノ商標タルノ觀ヲ爲セリ今二三結束ノ様式ヲ示セハ次ノ如シ

(1) 岡地東 上都賀郡南摩村及栗野町中ノ最良品ヲ産スル地方ニ於テ行フ方法ニシテ且ツ良質ノモノヲ以テ結束ス之レニ札入ト札付トノ二種アリ前者ハ最モ優レタルモノニシテ生産者ノ住所姓名ヲ記シタル紙札ヲ挿入シタルモノヲ云ヒ後者ハ稍々劣リタルモノニシテ特ニ札ヲ挿入セザルモノヲ云フ

結束スルニハ充分乾燥シタルモノヲトリ先ニ結ビタル稲苗ヲ去リ五「サツバ」ヲ比較的良品ヲ表ニシテ合セ元ヨリ六寸許ノ處ヲ指ニテ一寸ヒネリ其内ノ一本ヲ以テ此部ヲ圖ノ如ク括リ之ヲ八個乃至十二個集メテ小島田ヲ作り更ニ小島田六

個ヲ三個宛裏合セトシテ一把ニ作ルナリ普通一把ノ重量ハ百匁内外トシ百匁以下ナルモノヲ以テ良シトス  
四「サツバ」集メ元ヨリ六寸許ノ所ヲ



六島田ヲ背合セトシ一把ニ作り上ゲタルモノ

小島田ニ製スルニ小束ヲ八ケ集ムルヲ普通トシ十個ヨリ成レルヲ優品トシ十二個ニ至リテハ最優品トナス  
小島田ヲ製スルニハ小束トナシタルモノヲ棒ニ懸ケ置キテ之ヲ定規(三尺長サノ篠竹若クハ麻桿ニ其一端ニ竹釘ヲ打チ之ニテ麻ヲ吊ス竿ニ懸垂ス)ニヨリテ三尺ノ處ヨリ折り曲ゲテ外ヅシ下ニ敷キ置キタル糸ヲ以テ折返シ點ヨリ四寸ヲ隔テ、結ブナリ







**栽培反別産額** 大麻ノ栽培反別ハ年ニヨリテ一伸一縮アリ價格騰貴ノ翌年ニ増加シテ下落ノ翌年ニ縮小スルノ傾向アリ殊ニ明治三十七八年戰役當時ニ於テハ陸海軍ノ需要多ク價格上騰シテ栽培ヲ促進セシメタリシモ其後幾分減少ノ氣味アリ大麻作ハ他ノ對抗作物ニヨリテ栽培ヲ支配セラルルコト少キモ反當粗收入ニヨリテ作付反別ヲ支配ス今最近五ヶ年間ニ於ケル大麻作付反別收量及價格ヲ表示セハ次ノ如シ

年次別	作付反別	收量	價格
明治四十年	三、〇四五・三〇	五二七、〇〇五	八八六、三四四・〇〇
同 四十一年	三、一三七・三〇	五三四、六三四・〇〇	七七三、三四五・〇〇
同 四十二年	二、七五〇・六〇	五二七、四三四・〇〇	九三八、九一四・〇〇
同 四十三年	二、八〇八・一〇	四四四、六四一・〇〇	九七〇、六五一・〇〇
同 四十四年	二、五三二・九〇	六六一、三〇三・〇〇	一、五五四、〇六二・〇〇
平均	二、八五四・八四	五三九、〇〇三・四	一、〇二四、六六三・二〇

**販賣先用途及農家ノ賣拂價格**

販賣先ハ縣下ノ各集散地ニヨリテ異リ又用途モ生産地並ニ製品ノ品質種類ニヨリテ一様ナラス今縣下ノ重ナル集散地ニ就キ集散數量並ニ販賣先及用途ヲ略記セントス

**1 栃木町** 集散高約三十五萬貫 其價格約七拾萬圓  
 用 途 販 出 歩 合  
 主トシテ砲兵工廠用 二〇%  
 主トシテ製網會社用 一〇%  
 下駄鼻緒ノ心繩用 四〇%  
 織物其他用 一五%  
 漁具其他用 一五%  
 栃木町ノ皮麻ニ就テハ後節別ニ記載スヘシ(集散高約十五萬貫 其價格約十萬圓也)

廣 島 縣 同 疊 糸 其 他 三〇%  
 富 山 縣 同 同 同 一〇%  
 滋 賀 縣 同 同 同 一〇%  
 石 川 縣 同 同 同 一〇%  
 山 梨 縣 同 同 同 一〇%  
 其 他 各 地 同 同 同 一〇%  
 鹿 沼 集 散 高 約 二 十 一 萬 貫 其 價 格 約 四 拾 貳 萬 餘 圓  
 主トシテ製網會社用 約六萬貫  
 主トシテ砲兵工廠用 約五萬五千貫  
 漁具其他用 約八萬一千貫  
 下駄緒心繩用 六千貫  
 織物其他一般用 約一萬貫

東 京 市 同 鋼 及 鋸ノ釣糸用 八%  
 東 京 市 同 網 及 織 物 二五%  
 東 京 市 同 砲 兵 工 廠 用 其 他 三〇%  
 東 京 市 同 釣 糸、網、網 織 物 用 一五%  
 其 他 各 地 同 網 道 具 糸 等 一五%  
 (備考) 右ノ内約一萬五千貫ハ栃木町ノ市場ヲ經由ス

八栗野 集散高約二萬五千貫 價格約拾五萬圓  
 同 鋼 及 鋸ノ釣糸用 八%  
 同 網 及 織 物 二五%  
 同 砲 兵 工 廠 用 其 他 三〇%  
 同 釣 糸、網、網 織 物 用 一五%  
 其 他 各 地 同 網 道 具 糸 等 一五%  
 (備考) 右ノ内約一萬五千貫ハ栃木町ノ市場ヲ經由ス  
 其他二三ノ集散地存スレトモ多クハ栃木町ニ轉送セラルルモノニシテ且用途並ニ販賣先ハ前記ニ準スヘキモノナリ  
 次ニ農家ノ賣拂價格ハ地方ト各個人トニヨリテ一様ナラス殊ニ時價ハ時ニヨリテ甚シキ相違アリテ其標準ヲ示スコト極  
 メテ難キモ今最近五ヶ年ニ於ケル一反歩收穫高及一貫及價格ヲ示セハ次ノ如シ



年次區別	一反歩收穫高	一貫夕價格	年次區別	一反歩收穫高	一貫夕價格
明治四十年	一三・六三二	二・〇二〇	明治四十三年	一三・二四〇	二・六七一
同四十二年	一二・七〇四	一・八〇五	同四十四年	一八・〇七〇	二・七九〇
同四十二年	一九・一七五	二・〇七一			

(備考) 右ハ製麻ノミニシテ皮麻ヲ除キタルモノナリ  
且總收量ヲ作付反別ニテ除シ且尙總收量ヲ以テ金額ヲ除シタルモノニシテ一貫目ノ價格ハ上中下混合ノモノナリ

耕作畑ノ時價

耕作畑ノ時價ハ地方ニヨリテ大ナル差異アリテ一様ニ述ブルコト難キモ大麻生産地ノ畑ノ相場ヲ各地斟酌シテ其ノ標準ヲ示セハ次ノ如シ(一反歩當)

上 畑 百七八拾圓ニシテ稀ニ貳百圓アリ  
中 畑 百五拾圓  
下 畑 百貳拾圓ニシテ中ニ百圓ノモノアリ

(備考) 右ノ上畑下畑ハ大麻作ノ上ヨリ區別シタルニアラズシテ縣下各地ニ於ケル大麻栽培地ノ畑ヲ交通便否地味其他ノ上ヨリ見テ區別シタルモノナリ貳百圓トアルハ特ニ宅地近傍等其他ノ嗜好ニヨル場合ノミ

一反歩收支計算

自作ニシテ中等ノ場合ヲ假想シ最近五ヶ年平均ヲ標準トシテ一反歩ノ收支計算ヲ示セハ左ノ如シ

甲 收入ノ部 (自作ノ場合)		乙 支出ノ部 (自作ノ場合)	
主産物	數量	單位	價格
上物	一五・五〇〇	一貫	三・八七五
中物	二・五〇〇	一貫	三・五七〇
下物	一・〇〇〇	一貫	五・〇〇〇
副産物	九・〇〇〇	把	一・五〇〇
麻葉	二・〇〇〇	把	一・〇八〇
麻根	一五・〇〇〇	把	四・〇〇〇
粗皮等(あか)			一・二〇〇
總價額			一・五〇〇

種肥料子	數量	單位	價格
代	四五合	合	一・八〇〇
代	四五合	合	一・三〇七二
代	四五合	合	二・二九五〇
代	四五合	合	二・三二二五
代	四五合	合	二・八〇〇
代	四五合	合	一・五〇〇

收入合計金四拾七圓也

乙 支出ノ部 (自作ノ場合)

種肥料子	數量	單位	價格
代	四五合	合	一・八〇〇
代	四五合	合	一・三〇七二
代	四五合	合	二・二九五〇
代	四五合	合	二・三二二五
代	四五合	合	二・八〇〇
代	四五合	合	一・五〇〇

支出合計金四拾壹圓〇九錢七厘也

勞銀內譯	人數	日賃	馬賃	總計
人	男 一五	三・五〇	一・七五	三・〇〇〇
夫	女 二	三・五〇	一・七五	三・〇〇〇
數	馬 一	五・〇〇	一・七五	三・〇〇〇
男	一	三・五〇	一・七五	三・〇〇〇
女	一	三・五〇	一・七五	三・〇〇〇
馬	一	五・〇〇	一・七五	三・〇〇〇
總計				三・〇〇〇







山間地方ニテハ水田ノ少キトハ水田ノ麻作ニ不適當ナル即排水不良ニシテ濕潤ナルト麻作ヲ水稻ノ前作トシテハ水田ノ登熟ヲ一層遅レシムル等ノ原因ニヨリ且ツ場邊地方ニテハ又畑ノ割合ニ少キニ由リテナルヘシ  
播種期ハ跡作水稻ノ移植期ヲ可成遅延セシメサル目的ヲ以テ畑地ニ於ケルヨリモ約十五日乃至二十日前即チ三月十五、六日頃ニ播種シ夏土用前十四、五日目ニ至ラハ之ヲ收穫ス成育並ニ伸長敢テ異ルコトナク收量色澤亦場邊地方ニ於ケル普通ノモノヲ得レドモ唯光澤ヲ變シ易キト彈力ノ弱キ傾向アルトヲ缺點トス  
此場合ニハ葉根ハ水田ニ鋤キ込マレ重要ナル肥料トシテ貴ハル麻ヲ水稻ノ前作トセル場合ニハ播種期遅延スルモ其爲メ收量ニハ大ナル影響ナシ然レドモ青米等ヲ混シ往々品質ヲ害スルコトアリ

**皮** 普通煮割(ニハキ)ト稱スルモノニシテ織物用ニモ供セラルレトモ多クハ疊絲類及索繩用等ニ使用セラレ下都賀郡ニ於テ多ク栽培セラレ

**栽培法** 皮麻ヲ製スル目的ニテ栽培スルニハ定尺六尺八寸以上ノモノヲラサルヘカラス故ニ普通大麻ニ比シ一層ノ伸長ヲ計ランガ爲メ種子量ヲ約一割乃至二割ヲ増シ下種期ヲ稍々早メ且ツ施肥量ヲ稍々多ク用ユルノ差アレトモ他ハ悉ク同一法ヲ以テ之ヲ栽培ス

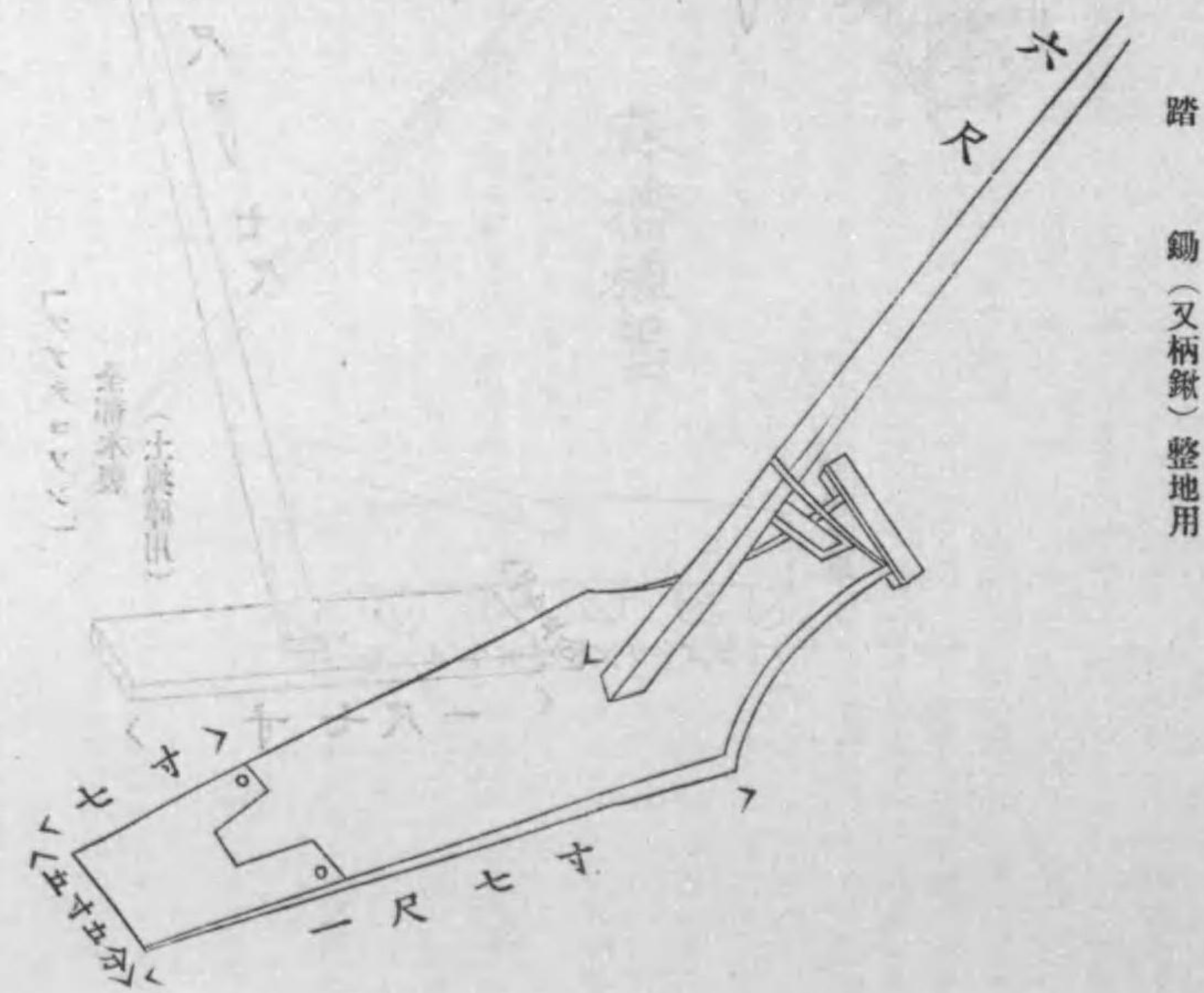
**收穫** 收穫ノ際定尺ニ滿タサル中麻若クハ根麻ハ普通ノ如ク收穫シテ之レヲ束ネ多クハ湯浸シテ普通ニ製麻ス是レ定尺ニ滿タサル皮麻ハ價格極メテ廉ニシテ却テ普通麻ニ製スルヲ利アリトスレハナリ  
拔キ取リタルモノハ根ト葉枝ヲ切り拂ヒ目通り凡ソ五尺ノ太サニ二ヶ所結束シ宅地内ニ運ヒ直チニ湯浸ヲ行フ  
湯浸 麻風呂ニハ湯ヲ充分沸騰セシメ置キ束ネタル麻莖ヲ半ヨリ折リ曲ケ若シ餘リ伸長シ居ルトキハ圖ノ如ク梢端ヲ折リ曲ケタル上中途ヨリ折リ以テ全部風呂中ニ浸シ蓋ヲナシ上ニ重ミヲ載セ置クナリ是レ麻莖ヲ入ル、爲メ一時湯ノ冷ユル事アルヲ以テ盛ニ火力ヲ強ムル故次第ニ沸騰シ遂ニ蓋ヲ動かスニ至ルヲ以テナリ斯クノ如クシテ凡ソ三十分



時ヲ經過シタル頃取出シ直チニ井戸水ヲ注クカ或ハ川水中ニ浸シ剥皮スルナリ  
剥皮 湯浸ノ後水ニ浸シ終レハ直チニ剥皮ス其ノ方法先ツ束ヲ解キテ右側ニ置キ根部ヲ右梢端ヲ左ニシテ二三本ヲ握リ先ニ折リ曲シ所ヨリ根元ノ方ヲ先ツ剥皮シ麻程ヲ前方ニ投ケ後左方ヨリ剝ギテ皮ヲ左手ノ拇指ト食指トニテ保持シ置キ

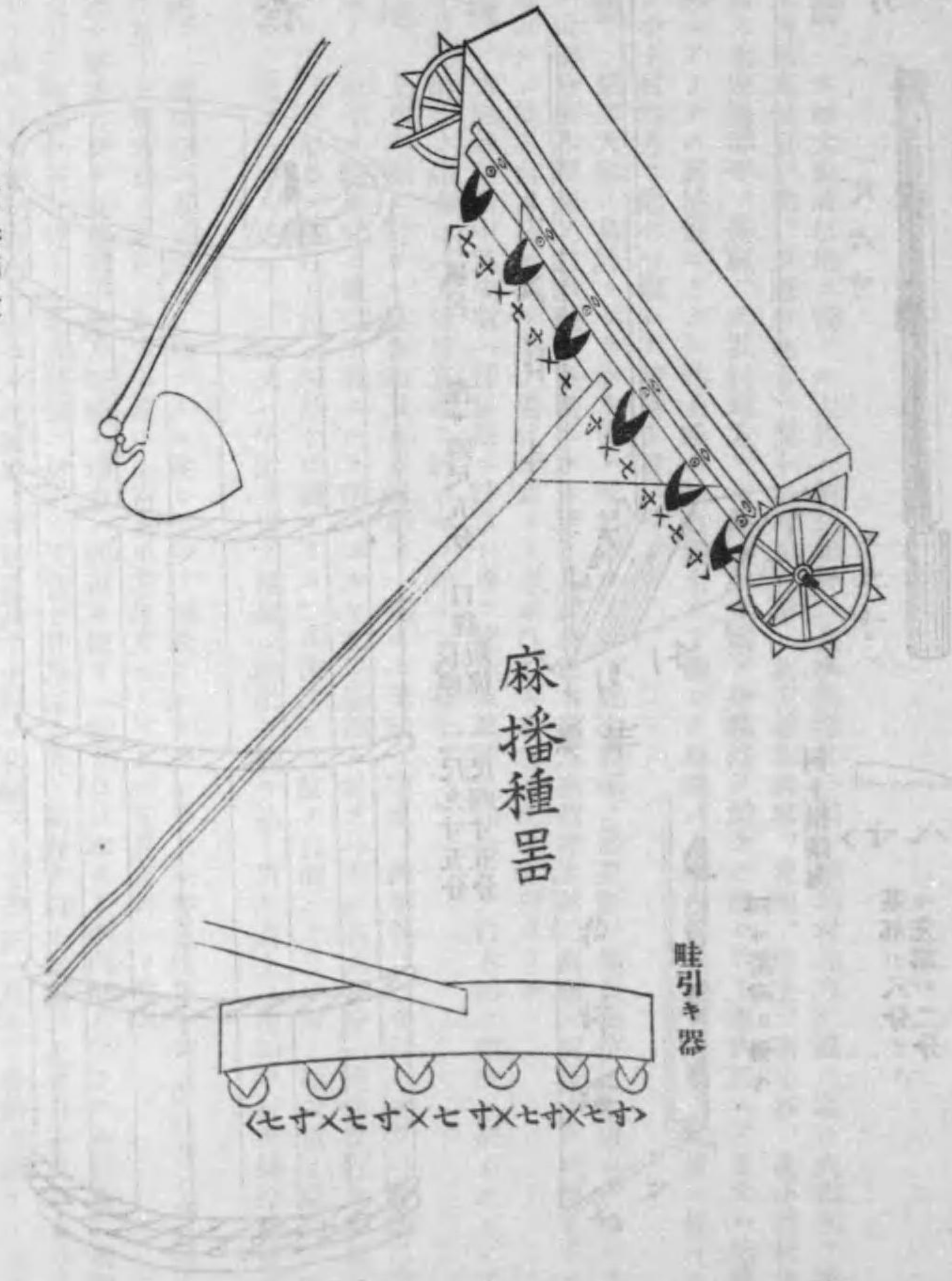
數回剥皮シテ遂ニ皮ヲ手ニテ保持シ能ハサルニ至ラハ凡ソ中央ノ所ヲ捻リテ側ラニ置キ更ニ前同様剥皮スルナリ  
乾燥 剥皮シタルモノハ庭先等ニテ干瓢乾燥ノ如ク(但シ一本ニ懸垂ス)乾燥棚ヲ作リ之レニ懸リタル部ヲ掛ケ陽乾ス午前八九時頃ヨリ着手シタルモノハ午後二三時頃ニ至リ乾燥シテ恰カモ棒ノ如ク堅クナリタルトキ竿ニ懸ケタル儘根元ノ方ヲ左手ニ持チ右手ヲ延シテ手ノ届ク所迄ヲ集メ根元ニ近ク皮麻ヲ以テ束ネ更ニ地乾シテ貯藏ス  
荷造 乾燥貯藏シタルモノヲ農閑ニ至リテ取り出シ一束ヲ七ヶ所束結シ之ヲ六十七八把乃至七十把ヲ合シテ普通七貫匁ノ大束ヲ作り更ニ之ヲ七ヶ所ニテ結束シ販賣用ニ供ス

大 麻 耕 作 用 具





カツサビ(中耕用具)

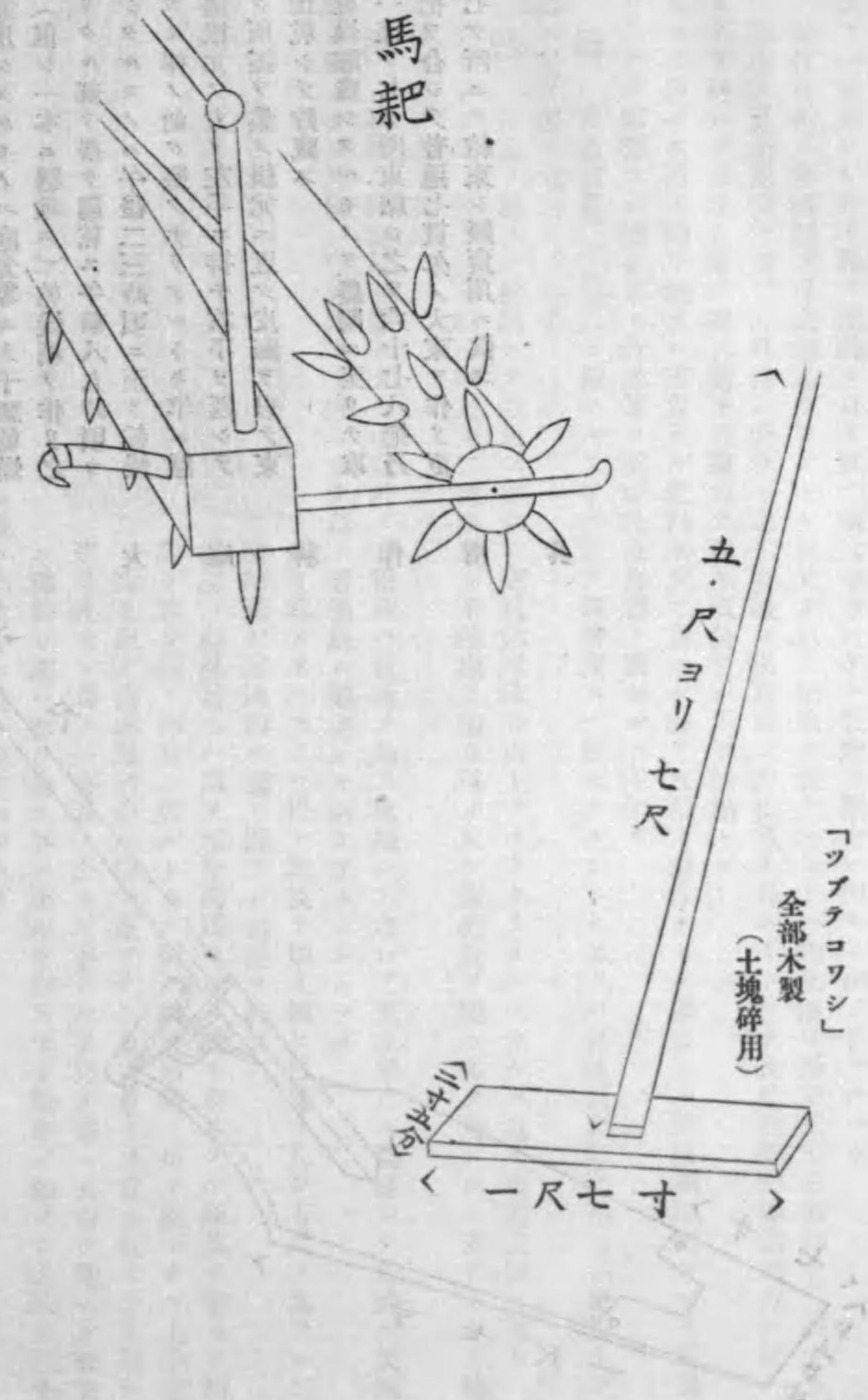


麻播種器

畦引き器

$\langle 七寸 \times 七寸 \times 七寸 \times 七寸 \times 七寸 \rangle$

馬耙

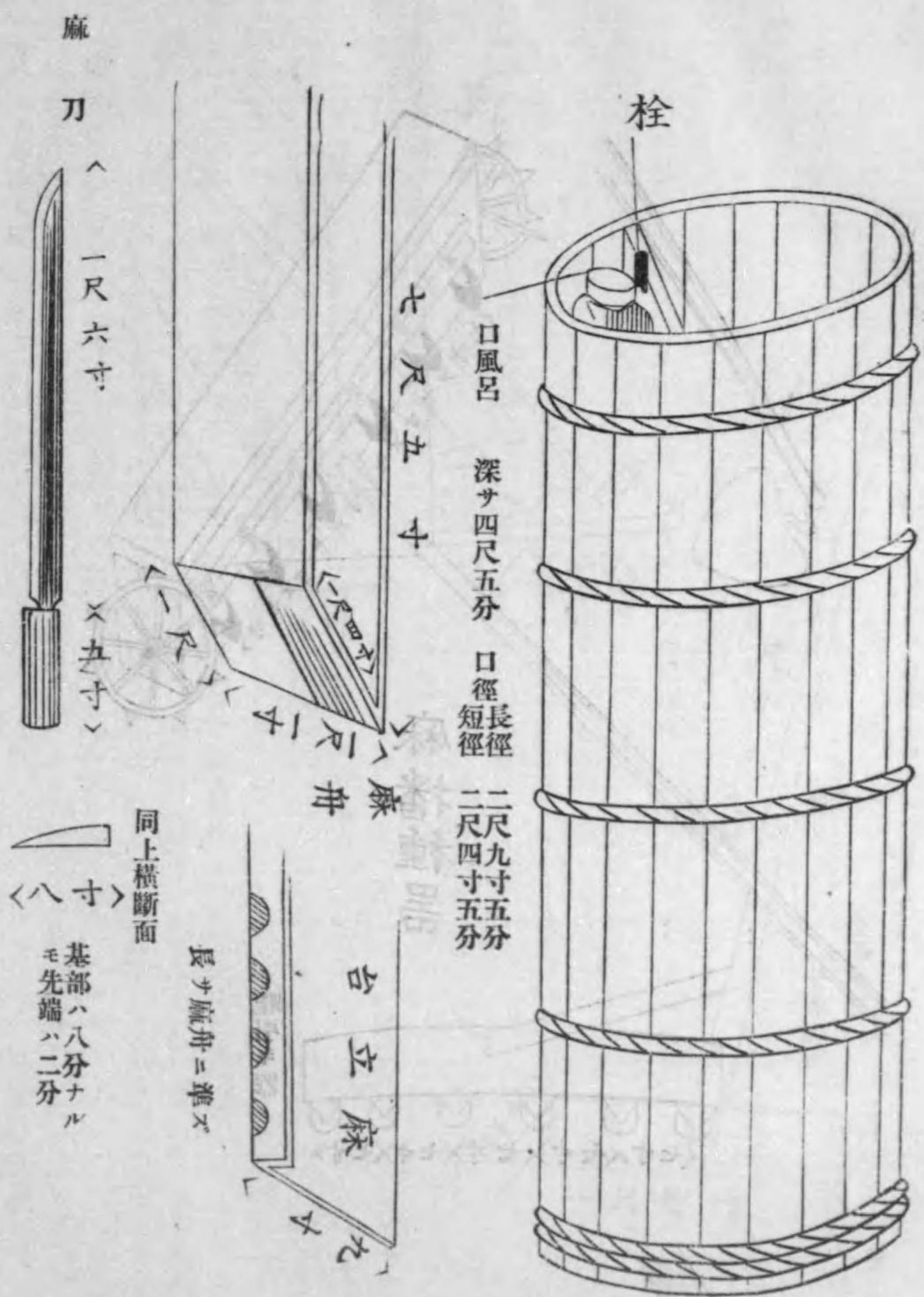


五尺ヨリ七尺

「ツブテコワシ」  
全部木製  
(土塊碎用)

$\langle 一尺七寸 \rangle$





長野縣

土質

本縣大麻栽培地ニ於ケル土質ハ第三紀層(上水内郡北小川、津和村地方)或ハ之ニ火山灰ヲ覆蓋シタルモノ(上水内郡鬼無里、柵、戸隠村地方)又ハ第四紀古層(北安曇郡神城、北城、中土、南小谷、北小谷村地方)或ハ第四紀新層(北安曇郡平、美麻、八坂村地方)ニ屬シ又土壤ノ分類法ニ於テハ概シテ上水内郡ニアリテハ粘質壤土ニシテ北安曇郡ニアリテハ腐植質ニトメル粘土或ハ粘質壤土タリ而シテ地味ハ上水内郡ニ於ケル第三紀層ニ係ルモノ及北安曇郡ニ於テ中土村地方ヲ除ケヘ概シテ瘠薄ト稱スヘシ

品種

從來大麻ノ品種トシテ赤木種ノ栽培多カリシモ近來製麻ノ需要漸ク優良品位ヲ要求セルニヨリ現今ノ狀態ニ於テハ大部分栃木縣產ノ白木種ヲ栽培スルニ至リ其割合白木種ハ割強赤木種ニ割弱ノ割合ナラン然レトモ採種ヲ比較的等閑視スルノ結果白木種モ今ヤ漸ク退化シ爲メニ赤木白木ノ雜種セルモノ尠カラス

選種

大麻栽培者中其少數ハ採種法ニ注意シ専ラ變種及雜種ヲ除去シテ白木種ノ撰擇ニ努ムルモノアルモ撰擇ハ單ニ浮皮及混濁物ヲ除去スルノ外唐箕撰ヲ行フモノ殆ント全部ナリ

整地

上水内郡ニ於ケル麻作地及北安曇郡ノ一部タル美麻、中土、南小谷ノ三ヶ村ニ於テハ普通二毛作ヲ行ヒ前作ヲ大麻トシ後作ヲ蕎麥又ハ葉菜ヲ栽ユルヲ例トスルモ北安曇郡ニ於テハ尙ホ其大部分一毛作ヲ行フ耕起ハ第一回ヲ春融雪期即チ三月下旬乃至四月上旬(四月十日頃マデニ)ニ深サ七寸位ノ目的ニテ三ツ鍬ノ類ヲ以テ荒起シ中旬ニ至リ塊打器ヲ以テ土塊ヲ粉碎シ更ニ三ツ鍬又ハ平鍬ヲ以テ耕起シ堆肥ヲ糶キ込ミ再ヒ表土ノ地均ヲ行ヒ播種後尙ホ一回整地ヲ行フ

播種

播種期ハ氣候風土ノ異ナルニ從ヒ多少ノ遲速アルヲ免レサルモ普通四月下旬(四月廿七日乃至三十日頃)ヲ以テ播種期トシ解雪期ノ遅ル、北安曇郡中土南北小谷地方ニアリテハ五月上旬ニ下種ス  
播種法ハ總テ條播ニシテ反當種子量及畦幅ハ地方ノ狀況ニ依リ一様ナラス即チ上水内郡ニアリテハ普通反當種子量ヲ六升五合乃至七升畦幅ヲ六寸位トシ北安曇郡ニ於テハ反當七升乃至八升ノ割合ヲ以テ畦幅ヲ七寸五分乃至八寸トシテ行フヲ普通トセリ然レトモ北安曇ノ一部タル北城村ノ青鬼區及中土村ハ畦幅ヲ九寸乃至一尺トシ株間亦疎ナルモノアリ

施肥

大麻ニ用フル肥料ハ地方ノ狀況ニ依リ區々ナリト雖モ上水内郡地方ニアリテハ耕耨ノ際堆肥ヲ一反歩ニ



付凡ソ三百貫(二十荷一荷ヲ十五貫ト見積レリ)鋤キ込ミ播種ノ時大豆ヲ煮タルモノノ麻種ト共ニ一反歩四斗五升位薄込  
ミ尚ホ整地一面ニ堆肥ヲ一反歩三百貫位ヲ撒布ス而シテ麻ノ發芽スルヲ待テ水肥(大豆五升ヲ水ニ浸シ石臼ニテ引キ割  
タルモノト人糞尿半荷ト汚水十荷ヲ混和セルモノヲ)一面ニ施シ又同郡柵村鬼無里村地方ニテハ大豆六斗堆肥六百貫位  
ヲ施用シ其他人造肥料ヲ配合スルモノアリ又北安曇郡地方ニ於テハ普通最モ廣ク施用セララル、ハ厩肥及人糞尿ニシテ堆  
肥之ニ次ギ其他偶々秋蒔綠肥豌豆、大豆粕、過磷酸石灰、米糠、木灰等ヲ加用スルモノ漸次其數ヲ増シツ、アリ而シテ  
同郡普通一反歩ノ施用量左ノ如シ

厩肥 六〇〇貫—八〇〇貫  
人糞尿 六〇貫—一二〇貫  
過磷酸石灰 七貫—一四貫

間

引 最初一反歩ニ七升内外播キシモノヲ發芽後(七八日ニシテ發芽ス)凡ソ二週間ヲ經テ草丈三四寸ニ伸長  
セシ時其中耕前ニ於テ第一回間引ヲ行ヒ疎密ナキ適宜ノ間隔ヲ與ヘ其後早キハ七日乃至十日普通十四、五日ヲ經テ即チ  
麻ノ七、八寸乃至一尺ニ達セシ頃第二回ノ間引ヲ行ヒ株間ヲ一寸五分ヨリ二寸位トナス而シテ株間ノ距離ハ縱線ヲナサ  
ス努メテ互ノ目(千鳥形)形ヲラシム

中耕及除草

普通二回ニシテ第一回ハ麻ノ三、四寸ニ達セシ頃耕土ヲ反覆膨軟ナラシムベク五月中下旬之ヲ行ヒ第二  
回ハ麻ノ四尺位ニ長セシ頃表土ヲ株際ニ押寄スヘキ意味ニテ除草ヲ兼ネ六月下旬之ヲ行フ又上水内郡ノ一部ニ於テハ第  
一回ハ發芽後凡ソ二十日頃第一回間引ヲ行ヒ時畦ノ中間ヲ約一寸位ノ深サニ耕勸シ第二回ハ凡ソ十日位頃第二  
回間引ヲ行ヒ時畦ノ根元ニ土寄ヲ行ヒ除草ハ普通一回六月下旬頃之ヲ行フモノアリ

病蟲害

病害トシテハ未ダ殆ント認メサルモ蟲害殊ニ大麻ノさんしよう蟲ハ北安曇郡内ノ如キ到ル所ノ栽培地ニ  
殆ント發生セサルナク特ニ美麻村二重、新行大鹽ノ三區共被害甚大ナリ驅除法ハ六月中下旬ノ候夕方又ハ朝露ノ未タ乾  
カサルトキニ除蟲菊加用木灰及風化石灰ヲ撒布ス又麻ハ成長最モ迅速ナルヲ以テ其莖幹殊ニ軟弱ニシテ強雨暴風アル毎  
ニ倒伏アルヲ免レヌ故ニカ、ハ場合ニハ之ヲ引キ起シ七、八本乃至十二本位宛束ネテ其被害ヲ避ケ一兩日ヲ經テ之ヲ解  
除スルコトアリ

成熟期

播種期ヨリ起算シテ凡ソ九十日ヲ經テ早キハ大暑ノ候即チ七月下旬普通八月上旬乃至中旬頃ニ成熟スル  
モノ多シ

收

穫 收穫ハ八月中下旬ノ候ニ至リ大麻ノ外皮綠黄色ヲ呈シ大麻畑ノ全圃ヲ透視シ得ル時期ヲ適期トシテ採收  
ニ着手ス其方法ハ上麻トスヘキ伸長六尺以上ノモノ數本ノ梢端ヲ握リ根付ノ儘抜キ採リ之ヲ根ハ同一方向ニナシタル儘  
二尺五寸乃至三尺ニ積ミ重ネ漸次全圃ニ及ブ六尺以下ノモノ、採收亦同シ如斯採收セル後根部ヲ押切リニテ除去シ丈ケ  
六尺ヲ標準トシテ梢端及枝葉ヲ鎌ニテ去リ直ニ大麻畑ニ於テ陽乾ス其乾燥セルモノヲ稈麻ト云ヒ充分乾燥シタル後兩端  
ヲ結束シテ貯藏シ製麻ス一反歩ノ收量左ノ如シ

種別	生			計	同			計
	上	中	下		上	中	下	
上	三四八	四三三	一一〇	九〇〇	七二〇〇	九六〇〇	三三九〇〇	二〇七〇〇
中	二九〇	三六〇	一〇〇	七五〇	六〇〇〇	八〇〇〇	三二五〇〇	一七二五〇
下	一一二	二八八	八〇	六〇〇	四八〇〇	六四〇〇	二六〇〇〇	一三三八〇

調

製 秋收後五六日間日光ニテ乾燥シタル稈麻ハ九月下旬又ハ十二月上旬ヨリ翌年三月下旬迄ノ農閑ノ期ニ際  
シ製麻ニ着手ス製造者ハ豫メ麻糞小屋ヲ設ケ湯桶(高サ五六尺徑二尺—三尺)ノ底ニ釜ヲ据ヘ竈ニ仕掛ケ上縁ノ下  
尺二三寸位迄水ヲ入レ沸騰シタルトキハ灰汁(麻殼灰又ハ麥稈灰)三升位ヲ入レ而シテ乾上ケ置キタル麻ヲ結束セル儘  
縱ニ麻煮釜ニテ蒸煮ヲ凡ソ三十分乃至一時間以内ヲ程度トシテ之ヲ行フ既ニ蒸煮セルモノハ之ヲ揚ケ隨時全幹ヲ溜池又  
ハ流水ニ浸水シ皮ヲ剥キ取り小桶ニテ洗水シ之ヲ屋内ニ於テ麻搥臺ニ麻皮ヲ載セ鐵製麻搥丁ヲ以テ粗皮ヲ搥キ製麻シ  
順次竹竿ニ懸ケ室内ニテ乾燥ス製麻ノ工程トシテハ一日ニ付煮揚ケ男一人二十貫位割キ取り男一人十二貫位搥キ女一  
人二百貫位ヲ普通トス又上水内郡ノ或ル地方ニアリテハ乾燥シタルモノヲ春秋冬ノ三期ニ製ス其製麻法ハ凡ソ八月下旬  
ヨリ着手シ下物ヲ先キニ製シ終リニハ上物ヲ製ス下物ハ先ツ乾燥セルモノヲ約二晝夜浸水シテ製ス上中物ノ製造方法ハ  
乾燥セル麻束ヲ沸騰セル湯ノ中ニ灰汁(麻殼灰又ハ麥殼灰)ヲ混シ其中ニ入レ約二時間程煮タルモノヲ水中ニ浸シテ皮  
部ヲ剥キ取り是ヲ厚サ約一分幅三寸長サ一尺五寸程ノ板ノ上ニ載セ麻搥丁ニテ外皮及内皮ヲ去リ製ス此方法ハ鹿ノ子  
麻ト稱シ該地方ニ於テ精製ノモノニ屬ス

包

裝 既ニ製麻セルモノヲ結束スルノ方法ハ產地ニ依リ多少區々ナルモ普通其製スル都度五六筋ヲ結ヒ一掛ケ  
トシ其乾燥セルモノ十二掛ヲ結ヒ合セテ一折トシ更ニ之ヲ六十乃至七十折ヲ重ネテ一束二貫目トシ順次三通リニ重ネ麻



栽培反別及産額

郡名	栽培反別	産額
上水内郡	七〇〇・九〇〇	七四、〇二〇
北安曇郡	二七七・二〇〇	三七、〇〇七
更級郡	三五三・三〇〇	四、八一五
西筑摩郡	四一・一〇〇	一、九六五
南佐久郡	一四・八〇〇	〇、四七四
其他	七・八〇〇	〇、七六二
計	一、〇七七・〇〇〇	一一九、〇四三

(備考) 本表中北安曇及上水内ノ二郡生産高ハ大正元年度ノ調査ニシテ其他ハ明治四十四年度本縣農商統計ニ據ル  
販賣先、用途、及農家賣拂價格 從來北越地方漁業網絲原料トシテ供給シツ、アリシモ近時綿絲ヲ之ニ代用スルニ  
至レルノ結果供給殆ント其跡ヲ絶チ現今ハ主トシテ名古屋京阪地方及東海道沿海地方ニテ網絲、帷子又ハ鹿ノ子絞等  
ニ用ヒ地方ニ於テハ低度ノ加工即チ疊絲及一部麻織物ノ原料トシテ賣却スルモノアリ農家賣却價額ハ一ケ年一戸ノ平均  
最多五百圓最少拾圓内外ニシテ平均七拾五圓乃至九拾圓位ナラン而シテ上水内郡ニ於ケル農家ノ賣拂總價額三拾四萬六  
千七百餘圓ナリト云フ  
耕作畑ノ時價

種別	上水内郡	北安曇郡	平均
上畑	二五〇・〇〇〇	三〇〇・〇〇〇	二七五・〇〇〇
中畑	一九五・〇〇〇	二四〇・〇〇〇	二一八・〇〇〇
下畑	一四〇・〇〇〇	一五〇・〇〇〇	一四五・〇〇〇

一反歩ノ收支計算 (自作ニシテ中等ノ場合五ヶ年平均)

區別	數	單量	單價	總價	總價
主產物	上	六、五〇〇	四、七五〇	三〇、八八〇	
中	八、〇〇〇	三、二五〇	二六、〇〇〇		
下	三、二五〇	一、七〇〇	五、五二〇		
副產物	麻	一五、〇〇〇	〇、二二五	三、三七五	
剝	屑	一、五〇〇	〇、四〇〇	六〇〇	
計				三九、一六〇	六四、九〇〇

收入合計金六拾四圓九拾錢  
乙支出ノ部

種目	數	單量	單價	總價	備考
種子	七	〇・三五〇	二、四五〇	一五、七五〇	種子ハ精選ノ程度ニヨリ最高一 升五拾錢最低貳拾錢ノ差アルモ 其中庸ヲ求メタリ
肥料	九	〇・一〇〇	三、六〇〇	三二、四〇〇	肥料中所ニコリ大豆ノ一反歩四 斗五升乃至六斗ヲ人糞尿ノ代リ ニ用フルモノアリ
堆肥	〇	〇	〇	〇	
人糞	〇	〇	〇	〇	
過磷酸石灰	〇	〇	〇	〇	
其他	〇	〇	〇	〇	
勞銀	男 一三四 女 一三二 最少 二四〇 最多 四二五	〇・三二〇	四三、三二〇	一、六八〇	單價ハ男女平均シ冬季農閑ノ際 製麻ノ分ヲ含ム 地方ノ地價等級ニ依リ多少課稅 率ニ差アリ 土地其他ノ資本利子、農具損料 等ハ調査ヲ簡便ニスル爲メ之ヲ 省略セリ
公課諸掛	〇	〇	〇	〇	
計				六二、六二〇	



支出計金六拾貳圓六拾貳錢

勞銀內譯	人		一日賃銀	總計		合計
	男	女		男	女	
撰種	一〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
播種	八〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
整地	三〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
施肥	三〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
中間除草	三〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
被除	三〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
收豫	三〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
調製	六〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
剝皮煮沸等	四〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
製麻	四〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
結東	三〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
荷造販賣	三〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	三二二七	一〇一	〇三八〇	〇三八〇	一三二一四	四三三二〇

計金四拾參圓參拾貳錢

收入總計	六拾四圓九拾錢
支出總計	六拾貳圓六拾貳錢
差引損益	貳圓貳拾八錢

以上ノ計算ハ土地其他資本利子農具損料等ハ之ヲ省略シタリ而シテ今支出總額ヨリ勞銀ヲ控除シタル殘額ヲ支出トシテ

收入總額ヨリ差引キ之ヲ所要勞働日數男女別ニ一日一人ノ勞銀ニ充ツレハ左ノ如シ

男一人ニ付 金四拾錢二厘  
女一人ニ付 金貳拾九錢弱

大麻ハ大部分畑ニ毛作ニシテ後ニ蕎麥又ハ野菜ヲ栽スルヲ例トシ今之ヲ本縣ニ於テハ該作物ト同一期節ニ收納スヘキ適當ノ作物少キヲ以テ假リニ一般ニ作付セラル、大麥及桑園トノ比較ヲ爲セハ左ノ如シ

作物名	收入	支出	差引損益	備考
大麥	六四・九〇〇	六二・六二〇	二・二八〇	跡作ニ蕎麥ヲ作付反當八斗位ヲ産シ一石八圓トセバ六圓四拾錢ヲ得ヘシ
大桑園	二七・〇〇〇	二六・二八〇	〇・七二〇	跡作ノ關係大桑園ト同シ
桑園	六四・五〇〇	四五・四〇〇	一九・一〇〇	一毛作ニシテ跡作ノ見込ナシ

岩手縣

土質 本縣大麻ノ產地ハ主トシテ第四紀新層ニ屬スル沖積土ニシテ第四紀古層及第三紀層之ニ亞ク就中優品ヲ産出スルハ第四紀新層ト爲ス而シテ多クハ表土深ク排水良好ナル土壤若クハ砂質壤土ナレトモ中央山脈ニ接近セル地方ニアリテハ往々爐土ニモ栽培セラル

種 本縣ニ於テ栽培セラル、大麻ハ從來地種ト稱シ各自採收ノ在來種ナリシカ近來栃木縣地方ヨリ輸入セラレタル白種及赤種ノ栽培スルモノ漸ク多キヲ加フルニ至レリ  
本縣大麻ノ主產地タル東西磐井兩郡ハ輸入種中白種ヲ主トシテ栽培セラレ優品ヲ産出スルニ至レリ然ルニ九戸郡ニアリテハ在來種ニ比シ輸入種ハ纖維長ク且ツ收量多キモ品質稍劣ルノ傾アリ而シテ各品種ノ栽培セラル、割合ハ概ネ次ノ如シ

- 一 在來種
- 六
- 一 白種
- 四
- 一 赤種
- 僅少



**選** 種子ハ採收シタル程ヨリ打落シ表皮ヲ悉ク去リ唐箕ヲ用ヒテ表皮ト共ニ充實セサル種子ヲ除キ去リ之ヲ貯藏シテ翌年ノ種子トナス

**整地** 前作物ハ九戸、和賀、江刺郡地方ハ主トシテ大根ナルモ多クハ大豆ニシテ稀ニ蕎麥ヲ作ルモノアリ

前作物收穫後早キハ十月中旬遅キモ十一月下旬迄ニ圃地一面ニ厩肥若クハ堆肥ヲ撒布シ直チニ鍬ヲ用ヒテ深ク翻キ起シ土壤ヲ寒氣ニ曝シ冬期積雪上ヨリ人糞等ヲ施シ翌春融雪後土壤ノ乾クヲ待チテ第二回ノ耕翻ヲ行ヒ土壤ヲ粉碎シ四月播種ノ際ハ只土壤粉碎ノ目的ニテ淺ク耕翻整地ヲナス

**播種** 播種期ハ早キハ四月上旬遅キハ五月上旬ニシテ其ノ播種量ハ地方ニ依リ等シカラサルモ一反歩六升乃至一斗二升ヲ普通トス而シテ下種量少キニ失スル時ハ分枝シテ麻莖不良トナリ厚播ニ過クレハ細莖トナリ生育惡シク從テ良品ヲ産スル能ハサルヨリ一般ニ播種量ハ當業者ノ最モ注意スル所ナリ

既ニ整地終ラハ直チニ作畦播種ス作畦ニハ普通鍬ヲ用ヒ六寸乃至一尺巾ノ淺キ作條ヲ設ケテ條播シ五六分覆土ヲナスモノトス

右ハ本縣一般ニ行ハル、方法ナルモ北部九戸郡地方ニアリテハ二尺五寸乃至三尺ノ平畦トナシ畦間ヲ五六寸トシテ先ツ畦ノ土ヲ畦間ニ一寸位ノ高サニ盛り畦ヲ低クナシ播種ニハ普通手ニテ厚薄ナク撒播シ畦間ニ盛りタル土ヲ薄ク被土ス此ノ場合ニハ播種量ハ一斗乃至一斗四升ヲ要ス

**施肥** 大麻ハ極メテ多量ノ肥料ヲ要スルモノニシテ其ノ肥料ノ種類及用量ニ依リ收量ノ多少ハ勿論纖維ノ強弱光澤ノ如何剥皮ノ難易等ニ甚タシク影響ヲ及ホスモノナレハ當業者ハ爰ニ最モ意ヲ用フル所ナルガ各地其ノ種類用量ヲ異ニスルモ普通厩肥、人糞尿、草木灰、鶏糞、荳油粕等用ヒラル今參考ノタメニ二三肥料ノ用量ヲ示セハ次ノ如シ

其	一	其	二	其	三
厩肥	九〇〇、〇〇〇	厩肥	二八〇、〇〇〇	厩肥	三五〇、〇〇〇
人糞尿	七四、〇〇〇	人糞尿	六〇、〇〇〇	人糞尿	一〇〇、〇〇〇
		荳油粕	一〇、〇〇〇	草木灰	二〇、〇〇〇

其	四	其	五	其	六
厩肥	三〇〇、〇〇〇	堆肥	二五〇、〇〇〇	厩肥	二五〇、〇〇〇
人糞尿	三〇、〇〇〇	人糞尿	六〇、〇〇〇	人糞尿	五〇、〇〇〇
草木灰	一五、〇〇〇	草木灰	六〇、〇〇〇	鶏糞	一〇、〇〇〇

用量及種類ハ概ネ右ノ如クニシテ其ノ施肥期ハ肥料ノ種類ニ依リテ異ナリ即チ厩肥ノ如キハ前年第一回耕翻ノ際鋤キ込ミ或ハ播種覆土セシ上ニ撒布シ人糞尿ハ寒肥ト稱シテ積雪上ヨリ施シ融雪後モ一二回施スコトアリ又東磐井郡及江刺郡地方ニアリテハ發芽後五六寸ニ伸長スル迄ニ一二回追肥ヲ行フ草木灰、鶏糞、油粕人糞尿等ハ播種ノ際作條或ハ圃地一面ニ施スラ普通トス

**中耕及除草** 中耕ハ東西磐井膽澤ノ三郡ノ外之ヲ行フモノナク其ノ時期ハ大麻ノ四五寸ニ伸長シタル頃除草間引ヲ行ヒ追肥シタル後直チニ鍬ヲ用ヒテ土壤ヲ碎キ幼麻ヲ倒壓セシメサル様一回行フノミナリ而シテ除草及間引ハ一般ニ此ノ頃(六月上旬)一回行ヒ稀ニ二回位行フモノアリ

**病蟲害其他被害防除** 本縣大麻ノ病害ハ殆ト之ヲ見ス害虫ニアリテハ夜盜蟲、螟蟲(體蟲)等ノ發生被害ヲ見ルモ其害甚タシカラス從テ驅除豫防ヲ施行セス此ノ外大麻ニ對シテ最モ恐ルヘキ被害アリ即チ風害之ナリ之レカタメ「折レ麻」「曲麻」等ヲ生シ收量品質ニ大ナル損失ヲ來スモノナレハ被害後折レタルモノヲ刈リ取り倒レタルモノハ十數本ヲ一纏ニナシ其ノ曲ヲ矯ムルヲ常トス

**成熟期** 本縣大麻ノ成熟期ハ早キハ土用ノ半ナルカ大暑前後ヲ以テ普通トシ何レモ下葉黃變シ止葉ノ生セル頃ナリトス

**收穫** 收穫早キニ失スレハ收量ヲ減シ且ツ強靱力ヲ失ヒ遲キニ過クレハ光澤ヲ害シ絲質粗剛トナリ品質ヲ損スルコト甚シ故ニ其ノ適當ニ成熟セルヲ見計ヒ晴天ヲ撰ミテ行フ即チ數本ツ、捆ミテ拔キ取リ×形ニ積ミ置キ後押切りニテ根ヲ切斷シ葉ハ鎌其他ノ刃物ニテ切り落スラ普通トス九戸、下閉伊、氣仙郡地方ニテハ木製ノモノニテ葉ヲ打落ス斯クテ病蟲害其他ノ害ノタメニ折レタルモノハ除去シ長短ニ依リ三段ニ分チ直チニ蒸釜ニテ蒸シ皮ノ剝離スルヲ度トシテ之ヲ取揚ケ適宜ノ臺木ノ上ニ一本並ニ廣ク擴ケテ乾燥シ夜間ハ雨露ニ會ハシメサル様纏メテ軒下ニ置クコト數日



ニシテ全ク乾燥セル場所ニ貯藏ス右ハ白麻ヲ製スル場合ニ行フモノニテ皮麻ヲ製スル時ハ根部ヲ切斷セスシテ直チニ前記ノ方法ヲ行ヒ乾燥貯藏スルモノトス

調製

豫メ乾燥貯藏シ置キタルモノハ九月、十月頃ニ至リ(翌年四月頃ニ至ルモアリ)取出シテ一二日間再ヒ乾燥シ池溝等ニ薄ク並ヘテ浸漬ス浸漬ノ時間ハ水温ノ高低ニヨリテ差アレトモ九月十月頃ニアリテハ一週日乃至十日間位ナリトス斯ク浸漬シテ麻皮ノ容易ニ剝脱スルニ至ラハ取上ケテ根元一二寸ヲ折リテ二三本(太サニ依リテ一條トナス本數一定セス)ヲ一條トシテ剝皮モ各條混セサル様折曲ケテ積ミ之ヲ東ネテ水ニ浸漬ス此場合ニ於ケル浸水時間ハ前回ノ如ク水ノ冷温ニ依リ相違アレトモ一日乃至一晝夜間浸漬スルヲ普通トス斯クテ充分浸漬シタルモノハ水ヲ切り麻塊臺ニ上ケ一條ツ、「ヒキコ」ト稱スル鐵製ノ櫛形ノ具ニテ粗皮ヲ剝ク十條計リツ、元ヲ結ヒ合セ竿ニ掛ケテ陰乾ス

包

皮麻ハ水ニ浸漬シ麻莖ヲ剝キ取り直チニ粗皮ヲ僅ニ去リテ乾燥スルノミナリ

栽培反別及産額

本縣大麻ノ栽培反別ハ九百六十八町五反歩ニシテ其ノ産額ハ八萬四千二百八十五貫ナリトス(但シ明治四十二年統計ニ依ル)

販賣先用途及農家ノ賣拂價格

本縣ニ於テハ東西磐井ノ兩郡ヲ除キテハ單ニ自家用トシテ栽培スルニ過キス從テ其ノ用途ハ麻布ノ原料ト爲ス外馬具ノ製造修理其他ニ供用ス膽澤、江刺ノ兩郡ニアリテハ之ニ加工シテ網トナシ本縣海岸及北海道ニ輸出セラレ下駄鼻緒用トシテ東京方面ニ販出シ又馬具用トシテハ多ク仙臺市ニ移出ヒラル

明治四十一年	壹圓八拾參錢	明治四十四年	壹圓拾貳錢
同 四十二年	壹圓〇壹錢	大正元年	壹圓五拾錢
同 四十三年	九拾七錢		

耕作畑ノ時價

上	畑	中	畑	下	畑
百貳拾貳圓	八拾七圓	四拾九圓			

一反歩收支計算

但シ右ハ大正二年二月縣内十一ヶ郡平均價格ナリトス  
自作ニシテ中等ノ收穫アリト假想シ最近五ヶ年平均ヲ標準トシテ一反歩ノ收支計算ヲ示セハ左ノ如シ

主産物	上物	九〇〇〇	一・九三〇	一七・三七〇	
	中物	三〇〇〇	一・一一五	三・三四五	
下物	二〇〇〇	〇・八一〇	一・六二〇		
副産物	麻稈	三・八〇〇	〇・〇四〇	一・五二〇	一把ハ三尺メトス
	麻粕	三・八〇〇	〇・〇五〇	〇・一九〇	麻粕ハ打晒ノモノトス

收入計金貳拾四圓四錢五厘

種子	代	數	量	單	價	總	價	格	備	考
肥料	代	數	量	單	價	總	價	格	備	考
勞	銀	數	量	單	價	總	價	格	備	考







富山縣

右ノ如ク大豆ハ大麻ニ比シ利益多キノミナラズ大豆ハ大小麥トノ二毛作ヲナスコトヲ得而モ大麻ハ大豆ニ比シ肥培耕助  
其他ニ手數ヲ要スルコト多キヲ以テ逐年其ノ栽培反別減少シツ、アリ

土質

東西兩端波郡ノ山地ヲ主トシ其他畑地ノ多キ町村ニ於テ少量ニ栽培セラルル土質ハ壤土及粘質壤土ヲ普通  
トシ稀ニ砂質壤土ニモ栽培セラル

選用品種

地方在來種ニシテ白木ニ屬シ特ニ名稱ヲ有セス  
一般ニ選種ヲ行ハス節等ヲ用ユルモノアレトモ極メテ稀ナリ

整地

三月中下旬三ツ畝ニテ耕起シ土塊ヲ粉碎シ平畝ニテ地均ヲナシ條播スルモノニアリテハ二尺内外ニ砂質  
地ハ足ニテ其他ハ畝ニテ溝溝ヲ作り撒播スルモノニアリテハ三四尺ノ平畦トナス山地ニアリテハ播種期遅ル、ヲ以テ從  
ツテ整地ノ時期モ四月中下旬ニ行ハル

播種

方法 條播又ハ撒播  
時期 平地ハ三月下旬山地ハ四月中下旬

施肥

肥料トシテハ人糞尿ノ残り三分ノ一ニ糞ヲ混入シ第一回開引之際追肥トシテ施用ス又山地ニアリテハ堆肥厩肥並ニ人糞尿  
ヲ主トシ追肥トシテ人糞尿ヲ施用スレトモ其量僅少ナリ基肥ノ分量ハ堆肥、厩肥三四百貫、人糞尿四十荷内外トス而  
シテ土地ニヨリテハ堆肥厩肥ノ如キハ前年内ニ施シ鋤込ミ置クモノアリ

間引中耕除草

條播セルモノニアリテハ二寸内外ニ成長セル時第一回ノ間引ヲ行ヒ一間ノ距離ニ百本前後ヲ殘シ更ニ  
五寸内外ニ成長セルトキ第二回ノ間引ヲ行ヒ七寸内外ニ成長セル時生育セシム撒播セルモノニアリテハ適宜一回乃至二回ノ間  
引ヲ行ヒ疎密ヲ均等ナラシム尙第二回ノ間引迄ノ期間ニ於テ任意中耕除草ヲ行フ

被害防除

柱々鳥害風害ヲ被ル外體虫ノ被害ヲ受クルコトアリ該蟲ハ六月下旬頃ヨリ發生シ地上二三尺ノ莖中ニ蝨  
入シ之ヲ傾倒セシム、驅除法トシテハ専ラ捕殺ニヨル

收穫

時期 七月下旬乃至八月上旬

イ

方法 鋸鎌ニテ刈取り長短ニヨリ選別シ葉ヲ去リ五日間前後日ニ晒シテ乾燥シ百本内外ヲ一束トシテ收納ス地方ニ  
ヨリテハ乾燥スル前ニ當リ約五分間熱湯ニ浸スモノアリ又充分乾燥セル後更ニ朝夕二回水ニ浸シテハ乾燥スル  
コト凡ソ二三日に至レハ其色漸次赤白色トナル此ノ所ニテ收納スルモノアリ

ハ

收量 一反歩ノ收量ハ乾莖ニテ貳百貫内外ニシテ之ヨリ調製セル粗苧ハ約三十六貫ナリ又床製法ニヨル場合八十貫  
前後ヲ普通トス

調製

調製法トシテハ扱製法及床製法共ニ行ハル而シテ扱製法ニヨルモノハ乾燥セシ麻ヲ束ノ儘河水ニ浸シ暫  
時ニシテ取上ケ直ニ蒸シ桶ニ入ル蒸桶ハ高サ一丈上部徑二尺ニシテ蓋ヲ有シ下部二尺五寸ノ口徑ヲ有スルモノトス、此  
ノ蒸桶ニ三十束ヲ入レ平釜ノ上ニ立テ蒸熱ス蒸スコト一時間半乃至二時間ニシテ手ヲ桶ノ外側ニ觸レシ儘桶ノ周圍ニ湯  
ヲ動かシ丁度半周シ手ノ耐ヘサル程桶ノ蒸セル時ヲ適度トシテ取出シ直ニ根本ヲ打破リ皮ヲ一部ヲ分離シ之ヲ持テ  
五六本宛一度ニ剥脫ス一束ヲ剥キ終レハ直ニ皮ノミヲ一束トシ之ヲ竿ニ折掛ケテ日乾ス、乾スコト一日間ニシテ充分乾  
燥セハ六七百匁内外(長サ三間ノ竿ニ掛ケシモノ)ヲ以テ一束トシ更ニ之ヲ十束集メテ一行ナト稱シ販賣ニ供ス之ヲ俗  
ニ「カイソ」ト呼フ

後作

大根ヲ主トシ蕪菁人參等之ニ次キ種レニ蕎麥ヲ栽培スルモノアリ

栽培反別及産額

縣下ニ於ケル栽培反別ハ四十五町歩内外其産額五千五百貫内外ナリ

販賣先及用途

販賣先キハ主トシテ縣内ニ止マリ移出スルコト少シ  
用途ハ疊表ノ立糸トナシ又ハ自家用ノ繩ヲ製シ僅少ニハ織物用トシテ使用セラレ

農家ノ販賣價格ハ素ヨリ一定セスト雖モ百匁ニ付キ上苧貳拾七八錢中苧貳拾壹錢下苧拾五、六錢ヲ普通トシ「カイソ」  
ニアリテハ平均上等品七錢五厘下等品五錢ナリトス



耕作畑ノ時價

耕作地ノ賣買價格ハ上、貳百圓、中、百五十六拾圓、下、百貳拾圓位ナリ又土地ニヨリ上、四百五拾圓、中、參百圓下、貳百五拾圓ノ時價ヲ有スルモノアリ

一反歩收支計算

(自作スル場合)

種別	數量	單價	總價		備考
			甲 收入	乙 支出	
主産物					
上	粗苧	二七	〇・七五	二〇・二五	
下		九	〇・四〇	三・六〇	
麻		一五〇	〇・五〇	七・五〇	

合計 參拾壹圓參拾五錢

乙 支出 部

種別	數量	單價	總價	備考
種子	四升五合	二五	一・一二五	
肥料	代	一七・五	四・七〇	
勞務	男	一〇	七・八七五	
女	一〇	二・七五	二・七五	
公課諸費			二・五〇	
雜費			五・〇〇	

合計 貳拾九圓四拾五錢

勞力内 譯(食費ハ勞働者ノ負擔トス)

種別	人夫數	一日賃金	總賃		備考
			男	女	
種地	三	四・五〇	一・三五〇	一・三五〇	
播種	一	四・五〇	〇・四五〇	〇・四五〇	
施肥	四	四・五〇	一・八〇〇	一・八〇〇	
管理	一	四・五〇	〇・四五〇	〇・四五〇	
被害防除	一	四・五〇	〇・四五〇	〇・四五〇	
收穫	一	四・五〇	〇・四五〇	〇・四五〇	
調製	一	四・五〇	〇・四五〇	〇・四五〇	
其他	一	四・五〇	〇・四五〇	〇・四五〇	
荷造販賣等	一	四・五〇	〇・四五〇	〇・四五〇	
計	一七・五	四・五〇	七・八七五	二・七五〇	

收入總計 參拾壹圓參拾五錢  
支出總計 貳拾九圓四拾五錢  
差引益金 壹圓九拾錢

右益金ヲ勞力賃金ニ加テ按分スレバ男一人一日ノ賃金ハ五拾參錢壹厘ニ當リ女一人ハ貳拾九錢五厘ニ相當ス

(備考) 以上ハ扱製法ニヨル場合ノ收支計算ナルモ床製ニアリテハ收入ノ部ニ於テ製品ノ販賣價格高キ爲メ七圓貳拾貳錢ヲ増加スルモ支出ノ部ニ於テ乾燥調製ニ多數ノ人夫ヲ要スル爲メ人夫賃八圓ヲ増加ス依テ其收支計算ハ左ノ如シ

收入總額 參拾八圓五拾七錢  
支出總額 參拾七圓四拾五錢  
差引益金 壹圓拾貳錢



(丁) 該作物ト他作物トノ收支計算比較  
馬鈴薯作一反歩收支計算

種別	一 收入ノ部		二 支出ノ部	
	數量	價	數量	價
馬鈴薯	三五〇	〇七〇	二四五〇	〇〇
備考				

種別	數量	價	勞力内譯	
			男	女
種薯代	三〇	〇七〇		
肥料代	一五	〇四五〇		
勞銀	一五	二五〇		
公課諸掛				
備考				

種別	勞力内譯		一日賃金	總賃	備考
	男	女			
整地	六		四五〇	二七〇〇	
施肥	三		四五〇	一三五〇	
管理	四		四五〇	一八〇〇	
備考					

收種	三 收支計算	
	收入總額	支出總額
計	一五二	五二
種	四五〇	四五〇
備考		

右益金ヲ勞銀ニ加算シ按分スレバ男六拾六錢九厘女參拾七錢貳厘ニ相當ス  
大馬鈴薯ニ作ノ收支計算比較  
參圓九拾錢  
貳拾圓六拾錢  
貳拾四圓五拾錢

種別	收入總額	支出總額	純益	純益ニ勞銀ヲ加算シタルモ		備考
				男	女	
大馬鈴薯	三一・三五〇	二九・四五〇	一・九〇〇	一一・五二五	〇・五三一	
馬鈴薯	二四・〇〇〇	二〇・一〇〇	三・九〇〇	一一・九〇〇	〇・六六九	
備考						

本縣ニ於ケル大麻ノ主産地ハ邑智郡ニシテ縣内總産額ノ過半ヲ占メ年々縣外ニ輸出スル額少ナカラズ其他ノ諸郡ニ於テハ箆川運摩ノ二郡ヲ除クノ外概ネ多少ノ栽培ヲ見サルナキモ多クハ自家用若クハ其地方ノ需要ヲ滿スニ止リ其産額多クラス今明治四十三年ニ於ケル大麻栽培反別并ニ荒芋産額及價格ヲ舉グレバ左ノ如シ

郡名	作付反別	産額	價	格
八東郡	四〇	八三四	五・一六	
能義郡	一・七	二・二九八	一・六〇九	
備考				



郡	仁多郡	大原郡	飯石郡	安濃郡	邑智郡	那賀郡	美濃郡	鹿足郡	周吉郡	海士郡	知夫郡	計
五五・九	六・五	三七・二	五・〇	三七・二	八・九	八・四	三・八	五・四	一・三	七・三	五・〇	六五・七
一四、四〇四	六一〇	一一、二五二	七五〇	八一、六六九	六、二七二	一、二二〇	一、二二〇	一、六三〇	八七六	六〇〇	四四四	一三五、〇八八
八、四六一	三〇七	三、七〇〇	二四五	四二、八八七	五、六四五	九、七八二	九七六	四八九	二六三	一八六	一四二	七五、二〇八

右ノ如キ狀況ナルヲ以テ本調査ハ本縣主産地タル邑智郡ニ於ケル大麻栽培ニ就キ調査シタルモノナリ

土質

大麻ハ土質ヲ選ブト基シク花崗岩ヲ母岩トセル粗ナル砂質壤土ニシテ排水可良ナル熟畑ヲ以テ最適ノ地トス

目下栽培セラル、品種ハ在來種及栃木縣種ノ二種ニシテ在來種ハ纖維密ニシテ彈力強キモ赤味ヲ帶ヒ草丈短ク從ツテ收量少ナシ栃木縣種ハ品種改良ノ爲、近年ニ至リ輸入シタルモノニシテ纖維稍々粗ナルモ白ク且ツ長クシテ收量多シ

播種期ハ三月下旬ヨリ四月上旬ニシテ一反歩當種子三升ノ割合ヲ以テ作條中ニ連播ス

整地及施肥 三月下旬一反歩對堆肥三百貫乃至四百貫ト畑地一面ニ撒布シテ之ヲ打チ起シ土塊ノ燥キタルヲ見計ラヒ再ヒ細耕シ後均平シ一問七條ノ割合ニ畦溝ヲ切リ人糞尿約百貫、干糞七貫ヲ施シタル後下種ス

施肥ハ以上基肥ノ外追肥トシテ四月中旬第一回間引中耕後人糞尿約六十貫ヲ施シ四月下旬第二回間引後人糞尿五十貫ヲ施ス

五月中旬第三回追肥トシテ同シク人糞尿五十貫ヲ施スヲ普通トスルモ時トシテ五月下旬頃更ニ第四回追肥ヲ行フモノアリ

間引中耕及除草 四月中旬第一回間引ヲ行ヒ之ト同時ニ中耕ヲ行フ

四月下旬除草ヲ兼テ各個本ノ距離ヲ三寸位ノ千鳥掛ニナス様第二回間引ヲ行フ五月下旬第二回除草ヲ行ヒ爾後六月上旬ニ亘リ二回小麻拔ト稱シ生育不良ニシテ普通麻ノ半以上ニ達セザルモノヲ拔除ス

病蟲害 害蟲ハ夜盜蟲ノ被害最モ甚シク之レカ驅除法トシテハ板ノ裏面ニ夥多ノ釘ヲ打チ出シ恰モ稻作除草器ノ日履倒ニ似タルモノヲ造リ之ヲ畑地ノ一隅ヨリ土中ニ打チ込ムニアリ又平坦ナル畑地ニアリテハ畑地ノ周圍ニ溝ヲ掘リ水ヲ溝ヘ或ハ採卵スル等ノ外特ニ良法ト認ムヘキモノナシ其ノ他「のみ蟲」から蟲」等ノ被害アレドモ未タ適當ナル驅除法ナク又病害トシテハ特ニ被害ノ大ナルモノナシ

收穫 收穫ハ通常七月下旬即チ播種ヨリ約百二十日頃ニ拔キ採ル收量ハ地味ノ良否ニヨリ一定セサレトモ主産地方ノ沃地ニシテ草丈一丈餘ニ及フカ如キ處ニ於テハ一反歩ノ荒苧收量六十貫ヲ越ユルコトアルモ生育不良ニシテ草丈漸ク五六尺ニ伸長スル地方ニ於テハ三十貫ニ達セザルコトアリ平均一反歩收量四十貫ヲ普通トス

製 拔キ採リタル生麻ハ葉ヲ拔キ落シ約二尺繩位ノ大サニ束ネ蒸桶ニ入レ「コシキ」ナレハ一釜七八十把約百五十貫「角セイロウ」ナレハ一釜百三十把約二百五十貫ヲ普通トス

三時間乃至五時間蒸シタル後取出シ約一時間清水ニ浸シ置キ直ニ皮ヲ剝キ一握ヲ一把トシテ干場ニ掛ケテ日干ス此際小把ナレハ乾燥可良ニシテ製品ノ品質モ優良ナレトモ把大ナルニ從ヒ扱方粗ニ流レ製品亦不良トナルト云フ生麻十貫ニ對シ荒苧五百匁ヲ製スルヲ普通トス

又晒ト稱シ前記蒸桶ニテ蒸シタル後取出シ剝皮セシテ一二晝夜間畑ニ列ヘテ夜露ニ遇ハシメ干燥シテ貯藏シ置キ冬期農閑ノ期ニ至リ約四時間許リ清水ニ浸漬シタル後剝皮シテ荒苧ヲ製スルモノアリ此場合ニ於テ浸水ハ稍々長キヲ可トシ凡ソ半日間位浸漬スルモノアリ此法ニヨリテ製シタル荒苧ハ前法ニ比シ製品ノ色白シト雖モ纖維ノ緊張力弱シト稱セラレ只疊表製造用材料トシテ調製スル場合稀ニ行ハル、ニ過キス

荒苧ヨリ扱苧ヲ製スルニハ荒苧一貫ニ對シ木灰七升ノ割合ヲ以テ先木灰ニ少量ノ熱湯ヲ注キ灰汁ヲ出シ之ニ温湯ヲ加ヘテ木灰汁ヲ作り釜ニ入レ煮沸スルコト三十分ノ後一釜ニ對シ荒苧二貫五百匁乃至三貫ヲ入レ再ヒ三十分間煮沸シ取出シテ之ヲ清水ニ浸漬シ竹箬ヲ以テ上皮ヲ扱去リ竹ニ掛ケテ乾燥ス而シテ荒苧一貫ニ對シ扱苧四百五十匁ヲ得ルヲ普通ト扱ス



苧ヨリ更ニ績苧ヲ製スルニハ扱苧ヲ「ノシ」ニ入ル、ト稱シ菜種油又ハ椿ノ油ノ如キ植物性ノ油ニ浸シ纖維ノ固結セルモノヲ採ミ解キ清水ニテ能ク洗ヒ乾燥シ置キ必要ニ應ジテ纖維ヲ細ク引キ裂キ撚ヲ掛ケツツ接キ合セ糸トナシ小桶ノ内ニ漬ケ込ミ干シテ其儘商家ニ販賣ス而シテ扱苧一貫外ヨリ績苧九百外ヲ得ルヲ普通トス

**後作** 扱苧ハ六貫ヲ一把トシ之ヲ一九ト稱シ其根部及苧尻ヲ中ニ入レ外部ヲ三個所繩ニテ緊縛スルニアリ

**販賣先及用途**

主ナル販路ハ大阪、岡山、廣島、馬關及縣内ニシテ毎年八月上旬頃需要地ノ取引商人入込ムヲ以テ主産地ニ於ケル仲買商ハ當業者ニ就キ之ヲ買收シテ取引商人ノ手ニ引渡スヲ普通トス但シ對島方面ニ販出スルモノハ専ラ魚網材料ニシテ漁夫自ラ主産地ニ入り込ミ買集スルノ習慣アリ

荒苧其儘ノ用途ハ専ラ疊表縫糸ニシテ通常扱苧ニ調製シ之ヨリ諸種ノ用途ニ使用セラル縣内ニ於ケル主ナル用途ハ疊表ノ縫糸、糸苧、網苧、魚網等ナリトス

**栽培反別及産額** 最近五ヶ年ニ於ケル栽培反別及荒苧産額ヲ舉クレハ左ノ如シ

年 度	作 付	反 別	産 額	年 度	作 付	反 別	産 額
明治四十年	四二七・一	一一七、七七〇	同	四十四年	三七二・二	八一、六六九	
同 四十一年	四五五・四	一二八、一三二	同	四十四年	四四六・〇	一一三、〇九八	
同 四十二年	三六八・五	七九、二四〇					

**價 格** 最近五ヶ年ニ於ケル一貫外ニ對スル賣買相場左ノ如シ

年 次	荒 苧		扱 苧		績 苧	
	高	低	高	低	高	低
明治四十年	七二〇	四五〇	二七五〇	一、一五〇	三、八〇〇	三、四〇〇
同 四十一年	四〇〇	三五〇	二、〇〇〇	一、三〇〇	三、五〇〇	二、七〇〇
同 四十二年	五〇〇	三〇〇	二、二〇〇	一、五〇〇	三、八〇〇	二、八〇〇
同 四十三年	六〇〇	三四〇	二、五〇〇	一、六〇〇	四、一〇〇	三、二〇〇

**耕作畑ノ時價** 最近ニ於ケル大鹿栽培畑地一反歩價格左ノ如シ

同 四十四年	同 四十四年	同 四十四年	同 四十四年
平均	八〇〇	四五〇	二、八〇〇
上	六〇四	三八七	二、三〇〇
中			五、〇〇〇
下			三、五〇〇

上	中	下
貳百圓乃至貳百五拾圓	百五拾圓乃至貳百圓	百參拾圓乃至百五拾圓

**一反歩收支計算** (自作ノ場合)

主産物 荒苧		副産物 苧殼		收入合計 金貳拾七圓六拾五錢	
數	量	數	量	支 出	之 部
一	五〇	七〇	七〇		
價	四九〇	一〇	一〇		
小計	二六、九五〇				
種 料					
肥 料					
勞 銀					
公 課					
薪 掛					
支 出					
總 價					
格					



支出合計 金貳拾五圓五拾五錢

勞銀內譯	人夫數		一日賃金		總賃金		備考
	男	女	男	女	男	女	
整地	五〇		三〇〇		一五〇		食費ハ凡テ雇人ノ負擔トス
地塊均打	一五		三〇〇		四五〇		
播種	三〇		三〇〇		九〇〇		二回畦上ヲ行フ
施肥	二〇		三〇〇		六〇〇		
中耕	〇		三〇〇		一五〇		
除草	二〇		三〇〇		六〇〇		
間引	四〇		三〇〇		一六〇〇		
收穫	三〇		三〇〇		九〇〇		
製乾	二〇		三〇〇		六〇〇		
合計	二三〇	一四〇	六九〇〇	二八〇〇	九七〇〇	一五〇〇	

計 金九圓七拾錢

收入總計 金貳拾七圓六拾五錢

支出總計 金貳拾五圓五拾五錢

差引益 金貳圓拾錢

收入ハ中等作物トシテ荒苧産額五拾五貫荒苧一貫ノ價格最近五ヶ年ノ平均四拾九錢トスレハ此價格貳拾六圓九拾五錢トナリ尙苧殼七十貫一貫壹錢ト見積レハ七拾錢トナル依ツテ收入總額貳拾七圓六拾五錢トナル

又支出ニ於テハ種子代壹圓五拾錢、肥料代拾壹圓六拾錢、勞銀男女合計九圓七拾錢、其他公課諸掛薪等總額貳拾五圓五

拾五錢トナル

即チ差引利益金貳圓拾錢ナリ但シ以上ノ計算ハ土地其他資本ノ利子農具損料等ハ便宜上省略シタルモノトス

又支出總額ヨリ勞銀ヲ控除シタル殘額ヲ收入總計ヨリ差引キ其殘額ヲ全部勞銀ト見做シ之ヲ所要勞働者男女別延人員數ニ對シ按分ニ分配スレハ一人一日ノ賃金男參拾六錢五厘女貳拾四錢四厘トナル

(丁) 大麻ト他作物トノ收支計算比較

大麻ト同一ノ期節ニ作付スヘキ主作物トシテ比較スヘキ適當ノモノナキヲ以テ栽培ノ期節少シク異レトモ便宜ノ爲メ麥作ノ收支計算ヲ以テ比較參考ニ供スルコトトス

一反歩收支計算 (自作ノ場合)

(一) 收入ノ部

子實(稈麥)	數	量	單	價	總	價	格	備	考
麥	一	一石	二付	一〇〇〇	一六〇〇				
子實	一	六〇〇	十貫二付	〇〇五〇	六〇〇				
收入合計					二二〇〇				

(二) 支出ノ部

種子	數	量	單	價	總	額	備	考
肥料	六	升		二二〇	一三二〇			
勞銀	一	〇		三〇〇	六八〇〇			
公課諸掛	一	九		二〇〇	二〇〇〇			
支出合計					一〇〇〇			

支出合計 金拾參圓貳錢







尺四五寸位ニ至ル迄ニ時々畑ニ入り風虫害ノ爲メニ挫折倒伏セシモノ或ハ庭弱ナル苗ヲ拔キ取り一步ニ付キ約百五六十本トナス

病蟲害其他ノ被害防除

大麻ノ種子ハ雀ノ最モ喜フ所ノモノナレハ播種後嫩苗ノ一寸位生長スル迄ハ案山子、鴨子等ヲ圃場ノ周圍ニ縱横ニ張り一隅ニ小屋ヲ設ケ其中ニ老人、婦女子監視スルコトヲ常トズ苗ノ發育シテ十分青色ヲ呈スルニ至リテ初メテ撤去ス害蟲トシテハ夜盜蟲ノ害最モ激甚ニシテ一夜ニシテ青葉ナキニ至ラシムル場合アリ此蟲ノ最モ被害ヲナスハ六月上旬及ヒ中旬ニシテ收穫前四十五日目ナルヲ以テ生育上極メテ大切ナル際ニシテ收量及品質ニ影響ヲ及ホスコト甚大ナリコレカ驅除法トシテハ一般ニ成蟲ノ晝間大麻ノ根際ノ土中ニ潜伏セルモノヲ捕殺スル位ニシテ採卵法幼蟲捕殺、溝渠遮斷法ノ如キハ其害極メテ猛烈ナル場合ニ行フニ止マル

成熟期

一般ニハ成熟ノ適否ニ不均土用入ヲ標準トシテ收穫ヲ始ム篤農家ノ實驗ニヨレハ土用入ニ收穫シタルモノヨリ土用半ハニ收穫シタルハ品質ニ於テ大差ナケレトモ收量ニ於テ荒草十貫ニツキ五百匁乃至八百匁多量ナリト云フ然ルニ一般ニ收穫期早キハ一ハ後作業ノ播種ヲ急クニヨルモノナラン蓋シ大麻成熟ノ適期ハ莖幹稍黃褐色ヲ帶ヒ梢端ニ異様ノ葉ヲ生スルニ至ラハ採收ヲ始ムヘキモノニシテ之レヲ過クル時ハ麻皮強硬ニ過キ之ニ反スル時ハ軟弱ニ失スルノ憂アルモノナリ

收穫

山縣郡地方ニテハ土用入前ハ一般休業ヲナシ體力ノ休養ニ勉メ土用入早朝ヨリ採收ニ着手ス其方法ハ先ツ二三本宛引キ抜キ竹片ヲ以テ枝葉ヲ打チ莖幹ノミトナシ隨所ニ之レヲ堆積シ置キ根部ノ上部一寸位ノ所ヨリ以下ヲ押切リニテ切斷シ約三貫目ヲ一束トナシ莖ノ類ヲ被ヒ調製ノ準備ヲナス

安佐郡地方ニテハ上記ノ場合ト大差ナキモ根ハ拔取ノママ附着セシム

双三郡地方ニテハ採取ニ際シテハ鉞ニテ土際ヨリ切り倒シ一方ヨリ一握リ宛根元ヲ揃ヘ麻丈ノ七分處ヲ握リ左右ニ振りテ以テ長短二種ニ分ツナリ

以上採收セシモノハ蒸ス前ニ當リ日光ニ當テ乾枯スルトキハ製造ニ際シ青色ヲ失フコト難クマタ降雨ニ遇ヘハ光澤ヲ失ヒ彈力ヲ減スル憂アルカ故ニ最モ注意ヲナシ前夜若クハ早朝ニ採收ニ從事シ刈上クルト共ニ蒸シ終ルモノトス

調製

桶蒸シ法

山縣郡及安佐郡地方ニテ最モ普通ニ行ハルル方法ニシテ蒸場ハ豫メ野外ニ設ケテ以テ作業ニ便ニス蒸釜ハ直徑三尺位

ニシテ土面ヲ掘リ下ケ設ケタル竈ニ豫メ其上ニ厚サ三寸長サ中五尺ニシテ湯氣ノ上ル爲メ五個ノ穴ヲ穿チタル板ヲ覆ヒ其上ニ藁ニテ製シタル邊引(邊輪トモ云フ)ヲ置キ蒸桶ノ下緣ト板トノ間ニ蒸氣ノ噴出セサル準備ヲナシ前述ノ約三貫束ヲ十束乃至廿束ヲ立テ繩ヲ以テ堅ク縮メ桔槔ニ裝置セシ直徑五尺高サ一丈一尺強ノ蒸シ桶ヲ覆ヒテ蒸スナリ其間ノ時間ハ約四時間ニシテ麻皮ヲ指頭ニテ摩擦シ容易ニ剥去スルヲ適度トス

而シテ其度ニ達スルノ微候ハ外部ヨリ直接窺ヒ知ルコトヲ得サレトモ一、時間ニヨリテ略察知スルト一、桶ノ外面溫熱ヲ感スルコト上部ヨリ漸次下部ニ及フカ故ニ上下共殆ント同一溫度ニ達シ暫時經過セハ邊引ハ著シク露ヲ帶ヒ且微細ナル蜘蛛糸狀ノ粘線ヲ顯ハシ且空隙ヨリ噴出スル蒸氣ノ爲メ微音ヲ發ス然ルトキハ麻ノ蒸熱ヲ終リタルモノト知ルヘシ

以上蒸シ終リタル時ハ直チニ河水中ニ投入シ三十分時ヲ經テ冷却スルヲ待チ直チニ剥皮ニ從事ス剥キ了リタルモノハ竿ニカケ日光ニ乾ス之レヲ荒麻又ハ黑粗苧トイフ

箱蒸シ法

コレモ安佐、山縣郡地方ニ普通ニ使用スルモノニシテ長サ一丈二尺巾二尺五寸深サ二尺八寸位ノ箱トシ蓋ヲ有シ底ナキ長持形ノモノニシテ右方側面ノ底部中央ニ戸ヲ裝置セル小窓ヲ附シ麻蒸シ加減ヲ檢スル爲メ麻蒸ヲ引キ出スノ用ニ供ス

該箱ヲ蒸シ釜ノ上ニ載セ箱底部ノ兩側ニアル材木ニ一尺五寸乃至二尺ノ距離ニ横木ヲ渡シ麻ヲ此ノ内ニ入レ底及ヒ蓋緣ニハ粘土ヲ塗抹シ蒸氣ノ逸散ヲ防ク此箱ヲ用フル時ハ一回ニツキ五貫目位ノ粗苧ヲ蒸シ終ル但シ箱ハ大小一定セス麻丈ノ如何耕作反別ノ廣狹ニヨリテ差アルモノトス

石蒸シ法

双三郡ニ最モ多ク行ハルル方法ニシテ蒸シ竈ハ前方ノ巾六尺長サ二丈四尺後方八尺ノ廣サニ前方ヨリ斜面ニ掘リ下ケ最後方ノ部分ハ竈トナス爲メ巾二尺乃至三尺深サ一尺乃至二尺ノ凹所ヲ設ケ全部ノ高サヲ六七尺ニ及ハシメ竈ノ側壁ハ悉ク石堤ヲ以テ積ミ上ケ地面ニ達セシム

麻蒸シヲナサンニハ先ス竈ノ後方最深部ニハ薪ノ地面ニ密接セサル爲メ二個ノ石ヲ渡シ其上ニ麻殼又ハ松薪等ヲ二尺











荷計	〇・五	〇・五〇〇	〇・二五〇	〇・二五〇	一九〇五〇
----	-----	-------	-------	-------	-------

合計 拾九圓〇五錢

收入總計

支出總計

差引

益

金拾七圓六拾五錢

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

金拾參圓

以上ハ自家生産ノ肥料並ニ自家勞力ヲ共ニ支出ノ中ニ計算シタルモノナレトモ實際ニ於テハ收益ハ尙多キコトヲ知ルヘシ尙以上ノ計算ニハ土地其他ノ資本利子農具損料等ヲ省略セリ且ツ支出總額ヨリ勞銀ヲ控除シタル殘額ヲ支出トシテ收入總額ヨリ差引キ其殘額ヲ全部勞銀ト見做シ之レヲ所要勞働者男女別延人數ニ對シテ按分ニ分配スル時ハ男一人一日ノ賃銀ハ壹圓貳拾錢女一人一日ノ賃銀ハ四拾參錢トナル割合ナリ但小供ハ女ニ換算ス

(丁) 麻ト他作物トノ收支計算  
麻ニ對抗スヘキ作物ハ麥ナリ今コレカ收支計算ヲ舉ケレハ

收入總計

支出總計

差引

金拾參圓

### 大分縣

土質 本縣下大分ノ產地ハ地質學上主トシテ第四紀新層壤質粘土ニ屬シ其他ハ第四紀古層粘土ナレトモ優品ヲ産スルノ地ハ殆ント第四紀新層ニシテ何レモ排水佳良ナリ

種 本縣ニ栽培セル品種ハ一定ノ名稱ナリ生産地ニヨリ其名稱ヲ異ニセリ即チ縣下日田郡大山村ニ産スルモノ

ノハ大山麻ト稱シ同日田附近ニ産スルモノハ日田麻ト稱スルカ如シ然レトモ品種ノ大部分ハ赤木種ノ如シシ乾燥貯藏ス

種 採收シテ三、四日間陽乾シ種子ト表皮ト脫離スルヲ見計ヒ叮嚀ニ打落シ後唐箕選ヲ行ヒ更ニ篩ニテ選別ス

整地 前作物收穫後早キハ九月ヨリ遅キハ十二月迄ニ犁又ハ鍬ニテ叮嚀ニ耕起シ置キ(三月下旬ヨリ四月上旬ノ頃)再ヒ耕鋤ヲ行ヒ土塊ヲ碎キ施肥ヲ行ヒ播種ノ準備ヲナス條播ノ場合ニハ畦幅一尺五寸乃至二尺トス

播種 播種ハ三月下旬ヨリ四月上旬ノ間ニ之レヲ行ヒ播種量ハ撒播一段歩ニツキ六升乃至八升條播ナレハ四升乃至五升ヲ常トス而シテ種子量少キニ失スル時ハ分枝シテ剥皮不良トナリ又厚播ニ過クル時ハ細莖トナリ生育不揃從ツテ優品ヲ産スル能ハサルニヨリ一般ニ播種量ハ各自注意スル所ナリトス

施肥 大麻栽培ノ支出中勞銀ニ次キテ大ナルハ肥料ニシテ然カモ肥料ハ其種類ト用量トノ適否ニヨリテ生産物ノ收量、品種等ニ大ナル影響ヲ及ホスモノナレハ栽培ハ最モ肥料ニ就キテ思慮スルヲ要ス而シテ種類、用量等ニ就キテハ當業者各説ヲ異ニスレトモ普通ハ左ノ如ク使用セリ

#### 一段歩當

堆肥 三百貫

人糞 二百貫

木灰 十五貫

過磷酸石灰 七貫

但シ堆肥、木灰ノ全量ハ整地ノ際ニ、人糞尿ノ半量ハ下種ノ際ニ、殘餘ノ肥料ハ追肥トシテ四回ニ分施ス

間引、中耕除草 播種後發芽ハ天候、土地ノ乾濕等ニヨリ多少遲速ナレトモ六七日ヲ普通ナリトス

開引キハ普通四回行フヲ常トスルモ時ニハ三回ニテ終ルコトアリ即チ初回ハ發芽後十日ヲ經テ二寸内外ニ生長シタル時

主トシテ草丈ヲ揃ハシムルタメ短キニ失スルモノヲ除キ又之ト同時ニ異種ノ混合セルモノ其他雜草等ヲ除キ第二回開引

キ以後ハ一週間乃至二週間毎ニ之レヲ行ヒ又同時ニ中耕除草ヲ行ヒ専ラ莖ノ發育ニ勉ム株間ハ三寸乃至四寸ヲ普通トス

病蟲害 本縣ニ於ケル大麻ノ病害ハ主トシテ立枯病ナレトモ其發生割合極メテ少ク而シテ之レカ豫防トシテハ若



シ發生ヲ見認メタルトキハ早朝露ノ落チサル以前ニ一段歩當六、七貫位ノ草木灰ヲ莖葉一面ニ散布シテ之レヲ豫防スル  
 カ若シクハ麻ノ根際ヲ踏ミ固ムルトキハ之レヲ豫防スルコトヲ得ルモノトシテ此ノ作業ヲ行フモノアリ  
 蟲害ニハ夜盜蟲、髓蟲ノ發生スルコトアレトモ大害ヲ蒙リシ事少シ然レトモ若シ之レカ發生ヲ見タル時ハ小竹ヲモチテ  
 麻莖ヲ打ツトキハ蟲ハ落下スルヲ以テ之レヲ捕殺ス

**收穫期** 夏土用一、二日頃ニ達セハ下葉凋落シテ梢端ノ葉互生シ止莖ヲ生シ莖ハ稍、黃味ヲ帶ヒ外側ヨリ畑ノ内  
 部ヲ窺フトキハ著シク明ナルヲ覺ユルニ至ルヲ以テ之レヲ度トシテ收穫ス

**收穫** 收穫ハ晴天ヲ選ミ普通薄鎌ヲ以テ根元ヨリ刈取り直チニ「しもく」ヲ以テ莖葉ヲ別チ製麻ニ供ス之レヲ生  
 麻ト稱ス

**製** 右ノ如クシテ收穫セラレタルモノハ草丈ノ長短ヲ區別シ湯浸(俗ニ蒸ス)ヲ行フ此方法ハ家屋ノ近傍又  
 ハ畑地ニ麻風呂ヲ掘ヘ五尺把若シクハ六尺把トナシ其内ニ容レ湯ヲ充分沸騰セシメ後二十分位ニシテ取出シ剝皮ヲ行フ  
 剝皮シテ直チニ製麻スルカ又ハ勞力ノ分配上製麻スル能ハサルモノハ日乾貯藏シ農閑ヲ見計ヒ製麻ス

煮沸ハ普通自家ノ大釜ヲ用ヒ之レニ剝皮ヲ容レ灰汁ヲ灌キ六、七時間煮沸シ纖維ノ分離スルヲ度トシテ釜ヨリ取出シ清  
 水ニテ挽麻ヲ行フ(麻挽キハ麻製中最モ技術ノ熟練ヲ要シ之カ巧拙ハ直接品質ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナレハ注意ヲ  
 肝要トス)麻挽(川流ニ於テ製麻ノ場合ヲ示ス)トハ煮沸シタルモノヲ挽子(俗ニしもく)ヲ右手ニ持チ左手ニ製麻少  
 量ヲ持チ下流ニ向テ流シ左ノ手元ヨリ水ニ漬ケツツ挽キ初メ精選シタルモノハ漸次左手ニ卷キツツ挽キ仕舞ヘハ左  
 手ニ卷キツツアルモノヲ再ヒ下流ニ向テ麻元ヨリ握リシ儘流シ仕上ケト稱シテ「しもく」ヲ以テ平扁ニ薄ク帯ノ如クナ  
 シ日乾ス

**包装** 前節ノ如ク製造セラレタル麻ハ結束シテ市場ニ販賣スルモノハ一貫内外ノモノヲ作り之ヲ三把乃至六把集  
 結束スルニハ充分乾燥シタルモノヲ二ツ折(大低長サ三尺内外)トナシ一把一貫内外ノモノヲ作り之ヲ三把乃至六把集  
 メテ一個トナシ販賣ス

**栽培及別産額** 大麻ノ栽培段別ハ年ニヨリ一伸一縮アリ即チ價格騰貴ノ翌年ニ増加シ下落ノ翌年ニ縮少スルノ傾向ア  
 リ今最近五ケ年間ニ於ケル大麻作付反別收量及價格ヲ表示スレハ左ノ如シ

年次	區別	作付	段別	收量	價格
明治四十年	平均	五	一	一四〇・四	五二、八〇九
				六九・二	一〇、〇三三
				二五八・六	一一、五八〇・九〇〇
				三六三・九	一六八、〇九〇・三〇〇
同四十二年	平均	五	一	一一一・八	八〇、六六二・七六〇
				一一一・八	八〇、六六二・七六〇
				一一一・八	八〇、六六二・七六〇
				一一一・八	八〇、六六二・七六〇
同四十四年	平均	五	一	一八八・七	九八、七八六・二〇〇
				一八八・七	九八、七八六・二〇〇
				一八八・七	九八、七八六・二〇〇
				一八八・七	九八、七八六・二〇〇

**後作** 大麻ノ後作ハ地方ニヨリ多少差違アルモ本縣下ニ於ケル多クハ大根、蕎麥、豆類ヲ栽培ス

**販賣先用途及農家賣拂價格** 販賣先ハ福岡、久留米、門司、小倉、中津ニシテ其用途ハ主トシテ網道具糸等ナリ  
 次ニ農家ノ賣拂價格ハ地方ト各個人トニヨリテ一様ナラス殊ニ時價ハ時ニヨリテ甚タシキ相違アリテ其標準ヲ示スコ  
 ト極メテ難キモ今最近五ケ年ニ於ケル一反歩收穫高及一貫外價格ヲ示サハ次ノ如シ

年次	區別	一反歩收穫高	一貫外價格	年次	區別	一反歩收穫高	一貫外價格
明治四十年	平均	三六・九〇〇	二・一三〇	明治四十三年	平均	七・一〇〇	二・六九〇
		一四・四〇〇	一・九二〇			二六・七〇〇	二・七四〇
		二〇・〇三〇	二・二三〇			二六・七〇〇	二・七四〇
		二〇・〇三〇	二・二三〇			二六・七〇〇	二・七四〇
同四十二年	平均	二〇・〇三〇	二・二三〇	同四十四年	平均	二六・七〇〇	二・七四〇
		二〇・〇三〇	二・二三〇			二六・七〇〇	二・七四〇
		二〇・〇三〇	二・二三〇			二六・七〇〇	二・七四〇
		二〇・〇三〇	二・二三〇			二六・七〇〇	二・七四〇

(備考) 右ハ製麻ノミニシテ皮麻ヲ除キタルモノナリ反當收穫高ハ總收量ヲ作付反別ニテ除シ一貫外價格ハ上中  
 下混合ノモノニシテ總收量ヲ以テ金額ヲ除シタルモノナリ

**耕作畑ノ時價** 耕作畑ノ時價ハ地方ニヨリ大ナル差異アリ今之レカ大様ヲ示セハ左ノ如シ



一反步收支計算

自作ニシテ中等ノ場合ヲ假想シ最近五ヶ年間平均ヲ標準トシテ一反步收支計算ヲ示セハ左ノ如シ

主産物	上		中	下	
	上	中		下	上
主産物	一六〇〇〇	三、〇〇〇	一、四〇〇	四〇〇	四〇〇
副産物	八〇、〇〇〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
麻	二〇、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
生	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
葉	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
厨	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
單	二、五〇〇	一、四〇〇	五〇〇	四〇〇	四〇〇
價	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
總	二、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
格	一、三〇〇	一、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
備					
考					

收入合計 金四拾七圓貳拾錢

(乙) 支出ノ部 (自作ノ場合)

種別	數	量	單	價	總	價	格	備	考
種別	五	升	一	四〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇		
肥料	一	束	〇、五〇	〇、五〇	〇、五〇	〇、五〇	〇、五〇		
勞力	一	日	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇		
公課	一	日	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇		
薪炭	一	束	〇、五〇	〇、五〇	〇、五〇	〇、五〇	〇、五〇		
備									
考									

本品型土

種別	數	量	單	價	總	價	格	備	考
種別	五	升	一	四〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇		
肥料	一	束	〇、五〇	〇、五〇	〇、五〇	〇、五〇	〇、五〇		
勞力	一	日	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇		
公課	一	日	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇		
薪炭	一	束	〇、五〇	〇、五〇	〇、五〇	〇、五〇	〇、五〇		
備									
考									

支出合計 金四拾貳圓九拾貳錢

勞銀 內譯

(備考) 勞銀中男一人賃金四拾錢女一人一日貳拾五錢馬一頭五拾錢トシテ計算セルモノナリ

(丙) 收支計算

收入總計 金四拾七圓貳拾錢

支出總計 金四拾貳圓九拾貳錢

差引 金四圓貳拾八錢



大麻ハ各栽培者ニシテ一反歩收入金百圓ニ登ル事アリ又中ニハ參拾圓ニ滿タサルモノアリ其收入極メテ區々ナレトモ前表ハ中等ノ自作者ニヨリ調査シタルモノナリ今支出總額ヨリ勞銀ヲ控除シタル殘額ヲ支出トシテ收入總計ヨリ差引キ其殘額ヲ全部勞銀ト看做シ之ヲ所要勞働者男女延人數ニ對シ按分ニ分配スルトキハ左ノ如シ

男一人一日ニ對シ 五拾壹錢壹厘  
女一人一日ニ對シ 參拾壹錢參厘

丁 大麻ト陸稻トノ收支計算比較

本縣大麻栽培ト同一期節ニ作付シ大麻ト對抗スル作物ハ陸稻ニシテ殊ニ近年米價ノ騰貴ニ伴ヒ陸稻栽培增加セル傾向アリ今之等ニ就キ收支計算ヲ大麻ニツキ行ヘルト同様ニ自作ニシテ中等ノ場合ヲ假想シ比較計算ヲナセハ左ノ如シ

收支計算	陸稻	大麻
收入總計	二二・五〇〇	四七・二〇〇
支出總計	一八・五〇〇	四二・九二〇
差引益金	四・〇〇〇	四・二八〇

是レニ依リテ之レヲ見レハ大麻ト陸稻トハ收支計算ニ於テ益金略同一ナルヲ見ル

但シ此場合ニ於テモ土地其他資本利子及農具損料等ハ計算ヲ簡便ナラシムル爲メ計上セサリキ

土品選

熊本縣 火山灰質土及壤土等ニモ栽培スレトモ其ノ最モ廣ク栽培スルハ砂質壤土ナリ  
赤色種、白色種  
適良ナル母本ヨリ採種シ選行  
冬季農閑ノ時期ニ於テ鐵ヲ用ヒテ深サ二尺位ヲ程度トシ叮嚀ニ耕起シ置キ播種セントスルニ當リ再ヒ土

播種

塊ヲ粉碎シ膨軟ナラシメ均平ス  
播種期 三月上旬乃至下旬ヲ以テ普通トス  
播種法 一般ニ條播ヲ行フ  
整地後畦間一尺二寸乃至一尺五寸トシ深サ三寸位ノ作條ヲ切り之レニ施肥シ其上ニ種子ヲ播下シ覆土シテ鎮壓ス

施肥

播種量 一反歩當ト三升ヲ以テ標準トス  
肥 本縣ニ於テ施用スル肥料ノ種類ハ通常ノ肥料ニシテ特異ノモノヲ選フ處ナシ而シテ土地ノ狀況ニ依リ素ヨリ一定セスシテ多少ノ相違アルモ最モ廣ク用ヒラルル種類及數量ハ次ノ如シ

種類	一反歩施用量	備考
堆肥	四〇〇貫	第五號配合肥料
下肥	百五十貫	
白砂	百二十貫	備考

中耕除草及間引

(備考) 以上ノ種類及施用量ハ混合シ基肥トシテ用ユ  
發芽後二三寸ニ生長シタル時第一回間引ヲ行ヒ生育不良ナルモノハ勿論餘リニ旺盛ニ過タルモノモ除去ス其ノ後五寸位ニ達スルトキハ畦間ヲ鋸ニテ三寸位ノ深サニ培土ヲ兼ネテ中耕シ七八寸乃至一尺位ノ時ニ適宜第二回ノ間引ヲ行フ而シテ除草ハ間引中耕ノ際ニ行フハ勿論ナルモ之レカ回数ハ雜草ノ多少ニヨリ増減アルモノトス

病蟲害其他ノ被害豫防驅除

播種シテヨリ發芽後五日位マテノ間ニ於テ鳥害ヲ被ムルコト多キヲ以テ此ノ期間ハ鳥逐ヒヲ行ヒ又五月頃地蠶ノ發生盛ナル時ハ一々之レヲ捕殺ス

收穫期

七月下旬乃至八月中旬ナリ

收穫及調製

成熟スレハ直ニ畑地ニテ刈リ取り一個ノ廻リ三尺位ノ束ニツカネ叮嚀ナルモノハ長短相區別シテ束ネ之レヲ苧蒸場ニ運搬ス苧蒸場ハ徑二尺七寸位ノ釜ノ上ニ苧蒸桶又ハ苧蒸箱ヲ据ヘ釜ノ中ニ八分通り水ヲ盛リテ沸騰セシム桶又ハ箱ノ内ニ麻ヲ入レ蒸スコト凡ソ一時間四十分乃至二時間即チ剥皮ノ容易ナル程度マテ蒸シテ取り出シ手ヲ以テ剥皮ス剥皮シタルモノハ五寸廻リ位ニ束ネ之レヲ竿ニ掛ケテ日乾シ充分乾燥シタル時ハ一個五貫目位ノ束トナシ藏置ス之レヲ荒苧ト云フ







(備考) 勞銀内譯ハ第二表ノ處ニ讓リ此處ニハ省略ス  
(甲) 第二表 收入ノ部(自作ノ場合)

主產物	中	上	數	量	單價(一斤代)	總價額	備考
上	中	下	八・八〇〇	三・五〇〇	〇・五〇〇	二七・五〇〇	麻子
〇・三〇〇	〇・四〇〇	〇・三〇〇	二・〇〇〇	〇・三〇〇	〇・四〇〇	八・七五〇	麻子
〇・三〇〇	〇・三〇〇	〇・三〇〇	二・〇〇〇	〇・三〇〇	〇・四〇〇	四・三七五	麻子
〇・三〇〇	〇・三〇〇	〇・三〇〇	二・〇〇〇	〇・三〇〇	〇・四〇〇	一・二〇〇	麻子
〇・三〇〇	〇・三〇〇	〇・三〇〇	二・〇〇〇	〇・三〇〇	〇・四〇〇	四一・八二五	麻子

(乙) 第二表 支出ノ部(自作ノ場合)

種	肥料	勞銀	公課	其他	數	量	單價	總價額	備考
種	肥料	勞銀	公課	其他	數	量	單價	總價額	備考
〇・六〇〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇
〇・六〇〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇
〇・六〇〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇
〇・六〇〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇

施中耕除	肥	中耕除	害防除	收製	荷運搬	計
五	五	三	一	四	八	八
〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇	〇・二五〇
〇・一八〇	〇・一八〇	〇・一八〇	〇・一八〇	〇・一八〇	〇・一八〇	〇・一八〇
一・二五〇	一・二五〇	一・二五〇	一・二五〇	一・二五〇	一・二五〇	一・二五〇
〇・九〇〇	〇・九〇〇	〇・九〇〇	〇・九〇〇	〇・九〇〇	〇・九〇〇	〇・九〇〇
二・一五〇	二・一五〇	二・一五〇	二・一五〇	二・一五〇	二・一五〇	二・一五〇

但シ第一表荒芋ノ場合ニ於ケル勞力ハ右計算ヨリ調製ニ於テ男二十五人女十五人少ナシ

第一表 荒芋ノ場合

收入總計 金貳拾七圓五拾錢  
 支出總計 金參拾八圓六拾壹錢  
 差引 金拾壹圓拾壹錢

第二表 麻子ノ場合

收入總計 金四拾壹圓八拾貳錢五厘  
 支出總計 金五拾圓六拾壹錢  
 差引 金八圓七拾八錢五厘

一、右計算ニハ土地其ノ他資本ノ利子ハ省略セリ  
 一、公課諸掛ハ本畑一反歩ニ課セラルル地租五拾錢、縣稅參拾錢、村稅貳拾錢合計壹圓ノ二分ノ一ヲ割當テタルモノナリ  
 一、支出ノ内譯中其他トアルハ第一表ニ於テハ一貫目壹錢五厘ノ薪百六十貫代及一期間蒸桶損料四拾錢ヲ計上セシモノ  
 一、ニテ第二表ニ於テハ薪二百三十二貫四百多尊達五百六十一多ノ各代金及蒸桶損料一期間四拾錢ヲ計上セルモノナリ但  
 シ曹達ハ百多參拾五錢トシテ計算セリ  
 一、支出總額ヨリ勞銀ヲ控除シタル殘額ヲ支出トシテ收入總額ヨリ差引キ其ノ殘額ヲ全部勞銀ト見做シ之レヲ所要勞働



者男女別延人員ニ對シテ按分ニ分配シ男女各一人一日ノ賃銀ヲ求ムレハ次ノ如シ

第一表 荒芋ノ場合

男	五十九人	六圓七拾六錢強
女	三十二人	貳圓六拾四錢弱
男	一人一日賃銀	拾壹錢五厘弱
女	一人一日賃銀	八錢三厘弱

第二表 麻芋ノ場合

男	八十四人	拾四圓七拾參錢八厘弱
女	四十七人	五圓九拾參錢七厘強
男	一人一日賃銀	拾七錢五厘強
女	一人一日賃銀	拾貳錢六厘強

(丁) 本作物ト他作物トノ反當收支計算比較

一 麥作一反步收支計算  
 收入總計 金拾貳圓六拾錢  
 支出總計 金拾壹圓五拾錢  
 差引 益 金壹圓拾錢

二 兩作物收支計算對照

大 麻	荒 芋	收 入	支 出	差 引	損 益
麥	大 麻	二七五〇〇	三八六二〇	損	一一一〇〇
荒 芋	荒 芋	四一八二五	五〇六一〇	同	八七八五
		一二六〇〇	一一五〇〇	益	一一一〇〇

鹿兒島縣

本縣ニ於ケル大麻栽培ハ年々衰退シツ、アリ而シテ現今尙栽培ヲ繼續セル地方ハ薩摩、日置ノ兩郡ヲ主トシ薩摩郡ニアリテハ宮之城、鶴田ノ二ヶ村日置郡ニアリテハ日置、吉利、永吉ノ三ヶ村ヲ主ナルモノトス本調査ハ以上ノ地方ニ就テナセルモノナリ

土 質

大麻ニ適スル土質ハ排水良好ナル砂質壤土ニシテ表土ハ最モ深キヲ要シ適度ニ腐植質ヲ含有シ肥沃ナル土壌ヲ良トスルモ日置地方ニ在テハ畑地面積稍狭小ナルヲ以テ甚ダシク瘠薄ナラサル限リハ各種ノ土壌ニモ栽培セラル

品 種

本縣ニ栽培セラル、大麻ハ一種ニシテ特ニ品種ノ名稱ナク往年栃木縣下ヨリ白木ト稱スル品種ヲ輸入シ栽培セシコトアルモ收量少ナカリシヲ以テ絶滅シ現今ハ在來ノ一種ヲ栽培スルノミナリ

選 種

採種用母本ハ栽培圃ノ一隅ノ蔭地等ニ選定シ間引シテ六、七寸ノ距離トナシ花粉ノ散リタル後雄株ヲ刈リ取り雄株ハ四、五日間日乾シ一週間位水浸シテ脱皮ス

種子採收ノ時期ハ十一月上中旬(舊十月ノ亥ノ日)ヲ過クレハ採收スルニシテ採收スルニハ枝ヲ二三尺ノ所ヨリ切り取リ束トナシ逆ニシテ一週間位日乾シ棒ニテ打ち落シ然ル後一日間陽乾シ篩撰及風撰ヲ行ヒ吹又ハ袋等ニ入レ屋内ノ乾燥セ

ル場所ニ貯藏シ播種前日ニ至リテ取り出シ白ニ入レ輕ク搗キ外皮ヲ脱シ風撰ス

一反歩ノ種子用トシテ宮之城地方ニテハ普通十二、三坪母本ヲ存置スルモ日置地方ニアリテハ母本ノ間引ヲ行ハサルヲ以テ五坪ニテ足ル

整 地

大麻ヲ栽培スヘキ畑ハ前作粟跡地ヲ休閒シ置キ宮之城地方ニアリテハ二月上中旬ニ一回鋤ヲ以テ深ク七寸位ニ耕起シ又日置地方ニアリテハ一月及三月ノ二回ニ深サ五六寸ニ耕起ス

肥 施

大麻ノ肥料トシテ最モ普通ニ使用セラル、モノハ堆肥、人糞尿、魚肥及大豆粕ニシテ宮之城地方ニテハ堆肥三百六十貫人糞尿百貫乾籾十八貫ヲ使用シ又日置地方ニテハ堆肥三百貫人糞尿二百貫大豆粕十貫ヲ施用スルヲ普通トス而シテ肥料ハ悉ク原肥トシ日置地方ニアリテハ播種凡ソ一週間前記肥料ヲ混合シテ舍内ニ堆積シ又宮之城地方ニ

テハ反當凡ソ三石ノ白砂ヲ混シテ圃場ニ之ヲ堆積シ醱酵セシメテ施用ス

播 種

大麻ノ播種期ハ四月上旬ニシテ反當播種ハ三升ヲ普通トシ日置地方ニアリテハ稀ニ二升五合ヲ播種スル



者アリ

畦幅ハ宮之城地方ハ九寸乃至一尺日置地方ハ一尺二三寸ニシテ何レモ條播トス  
播種スルニハ晴天ノ日ヲ撰ビ鍬ヲ以テ前記ノ距離ニ畦條ヲ切り然ル後前項記載ノ如ク準備シタル肥料ト種子トヲ混シタルモノヲ撒布シ薄ク土ヲ覆ヒ輕ク鎮壓ス

間引及中耕除草

播種後凡ソ一週間ニシテ發芽ス發芽後十日位ニシテ第一回ノ間引ヲ行ヒ又十日ヲ經テ第二回ノ間引ヲ行フ此ノ際ハ生育不良ナルモノ又ハ特ニ伸長シテ勢力旺盛ナルモノ即チ所謂雄苗ヲ拔キ取り可成發育一様ナルモノ、ミヲ勉メテ互ノ目形ニ存置シ株間ヲ三、四寸ノ間隔トナス此ノ時日置地方ニアリテハ熊手ヲ以テ中耕ヲ行フモ其他ノ地方ハ中耕ヲ行フコトナシ而ツテ除草ハ中耕ノ際之ヲ兼テ一回入梅前五月下旬乃至六月上旬頃之ヲ行フヲ普通トス

病蟲害

年ニ依リ夜盜蟲ノ被害アリト雖モ甚シカラス之カ驅除法トシテハ捕殺スルノ外特別ノ方法ナシ又發芽ノ際往々雀ノ害ヲ被ルコトアリ之カ豫防法トシテ全圃ノ周圍ニ繩ヲ張り或ハ鐵葉籠ヲ下ケ之ヲ動搖シテ音響ヲ發セシムル等ノ方法ヲ行フ

收穫

收穫ノ時期ハ夏土用入即チ七月中旬頃ニシテ此ノ時期ニ至レハ下方ノ葉ハ既ニ凋落シテ上部ノ葉モ漸次黄色ヲ帯ヒ莖部稍黄色トナリ全圃淡黄色ヲ呈ス之レ成熟ノ徵候ニシテ晴天ヲ見計ヒ收穫ニ從事スルモノトス  
收穫ノ方法ハ鎌ヲ以テ根元ヨリ刈り取り七、八本宛握リテ竹籠ニテ葉ヲ打チ落シ直徑一尺八寸位ノ大束トナシ繩ヲ以テ三ヶ所結ビ蒸場ニ運搬シ直チニ蒸蒸ヲ行フ

調製及乾燥

蒸場ハ近隣共同シテ之ヲ野外ニ設置シ桶蒸シテ行フ其構造ハ地ヲ堀リテ竈ヲ設ケ直徑二尺二三寸位ノ大釜ヲ据エ付ケ其上ニ圓形ニ編ミタル藁束ヲ置キ七、八分通り水ヲ入レ割竹ヲ十文字ニ置キ又別ニ蒸場ノ傍ニ支柱ヲ立テ其上部ニ撥木ヲ裝置シ之ニ蒸桶ヲ吊リ自在ニ上下セシメ得ル様ニス桶ハ上部ヲ密閉シ下部ヲ開放シ内徑下部二尺上部一尺七、八寸内外高サ一丈二尺ノ圓筒形ノ構造ニシテ日置地方ニテハ稍大キク下部ノ内徑二尺五寸ノモノヲ使用ス  
斯クシテ設備全ク終レハ火ヲ焚キ釜中ノ水沸騰スルニ至レハ前記ノ麻束ヲ根部ヲ下ニシテ釜上ニ立テ吊リタル釜桶ヲ降下シテ麻束ノ全部ヲ覆ヒ蒸スコト一時間乃至一時二十分間ニシテ麻束淡褐色ニ變シ指頭ヲ以テ外皮ヲ去レハ容易ニ剥皮シ得ルヲ度トシ釜桶ヲ吊リ上ケ麻束ヲ取り出シ冷却ヲ俟タスシテ手ニテ剥皮ス  
剥皮シタルモノハ根部ヨリ一寸位ノ所ヲ括リ四寸廻ノ束トナシ乾燥場ニ運搬ス  
乾燥法ハ五尺位ノ高サニ支柱ヲ立テ竹ヲ渡シ束ヲ中央ヨリ稍根部ノ所ヲ掛ケ梢部ヲ擴ケテ兩端ヲ垂下セシメ雨天ノ時

包

ハ軒下ニ持チ込ミ二、三日間日乾シ乾燥スレハ一時貯藏シ農閑ノ際製麻或ハ包裝販賣ス

後作

包裝ハ頗ル簡單ニシテ一把凡ソ八貫目トシ二三回折り曲ケ繩ニテ三ヶ所ヲ結束ス

栽培反別及産額

本縣ニ於ケル大麻栽培ハ悉ク連作ニシテ後作ニハ粟ヲ栽培シ冬季ハ休閑ス  
最近五ヶ年ニ於ケル本縣大麻栽培反別及産額ハ左ノ如シ

年次	栽培反別	産額	年次	栽培反別	産額
明治四十一年	五三八・〇	一六六、一四三	明治四十四年	四〇九・四	一七七、二五一
同 四十二年	五〇九・三	二八六、一五五	均	四七〇・二	二〇三、二四九
同 四十三年	四二四・〇	一八三、四四七			

販賣先用途及農家ノ賣拂價格

宮之城地方ニテハ大部ヲ粗苧ノ儘少部ヲ精麻トシ又日置地方ニアリテハ悉ク精麻トシ網又ハ網索トナシ縣下ノ各漁業地又ハ熊本、長崎、宮崎等ニ輸出ス  
粗苧一斤當賣拂價格ハ左ノ如シ(五ヶ年比較)

年次	價格	年次	價格
明治四十一年	拾 壹	同 四十四年	拾 參
同 四十二年	拾 壹	大正元年	拾 五
同 四十三年	拾 壹	均	拾 貳

耕作畑ノ時價

今宮之城及日置地方ノ時價ヲ示セハ左ノ如シ

宮之城地方	日置地方	平均
上畑 一七〇〇〇〇	上畑 二二〇〇〇〇	上畑 一九五〇〇〇
中畑 一四〇〇〇〇	中畑 一五〇〇〇〇	中畑 一四五〇〇〇
下畑 一二〇〇〇〇	下畑 一〇〇〇〇〇	下畑 一一〇〇〇〇



一反歩ノ收支計算

(備考) 大麻耕作地ハ最モ肥沃ナル上等地ヲ撰フヲ以テ茲ニ下畑ト稱スルモノモ普通畑地ノ中等以上ニ位スルモノナリ

(甲) 収入ノ部 (自作ノ場合)	
主産物	副産物
粗麻	麻葉
數量	數量
二八〇斤	
單價	單價
〇・一二〇	
總價	總價
三三・六〇〇	
備考	備考
粗麻ハ上中下ニ區別セス普通混	合シテ販賣ス

收入合計 金參拾四圓八拾錢

(乙) 支出ノ部

種	數	量	單價	總價	備考
種子	三六〇	斤	〇・三〇〇	〇・九〇〇	
肥料代	一〇〇	斤	〇・一三	一三・一八〇	肥料代ハ便宜上宮之城地方ニ於ケル使用量ヲ取リ計算ス
勞銀	一三・五	日	〇・四〇	八・六二〇	
公課諸掛	二・五	日	〇・二八	〇・五三〇	後作業ノ租收入ト比較シテ其ノ割合ヲ配當ス
薪及繩代				二・三〇〇	
支出合計				金貳拾五圓五拾參錢	

但シ以上ノ計算ニハ土地資本ノ利子農具損料等ハ便宜上省略セリ

勞銀内譯	人夫數		一日賃銀		總賃銀		備考
	男	女	男	女	男	女	
整地	四・五		〇・四〇	〇・二八	一・八〇〇		
播種	二・〇		〇・四〇	〇・二八	〇・八〇〇		
肥料運搬	〇・五		〇・四〇	〇・二八	〇・二〇〇		
間引及中耕除草	〇・五		〇・四〇	〇・二八	〇・二〇〇		
收穫	三・〇		〇・四〇	〇・二八	一・二〇〇		
調製及乾燥	二・五		〇・四〇	〇・二八	一・〇〇〇		
荷造	〇・五		〇・四〇	〇・二八	〇・二〇〇		
合計	一三・〇		一・二〇	〇・八四	一三・〇〇		

計 金八圓六拾貳錢

(丙) 收支計算

收入總計 金參拾四圓八拾錢  
 支出總計 金貳拾五圓五拾參錢  
 差引益 金九圓貳拾七錢

但シ以上ノ計算ニハ土地其他ノ資本利子農具損料等ハ便宜上省略セリ

今支出總額ヨリ勞銀ヲ控除シタル殘額ヲ支出トシ收入總計ヨリ差引キ其殘額ヲ全部勞銀ト見做シ之ヲ所要勞働者男女別延人數ニ對シテ按分ニ分配シ男女各一人一日ノ賃銀カ幾何ニ相當スルヤヲ算出スレハ左ノ如シ

男 八拾參錢強  
 女 五拾八錢壹厘強

(丁) 該作物ト他作物トノ收支計算比較

大麻作ト同一期節ニ作付スヘキ大豆作ノ收支計算ヲ示セハ左ノ如シ  
 收入總計 金拾壹圓四拾五錢  
 支出總計 金七圓四拾壹錢貳厘







刈掛 八九月ノ候山野ノ雜草及笹柴等ヲ刈リ置キタルモノヲ十一月ニ至リ畑一面ニ散布シ肥料トナス

二年目ノ作業

施肥 五月中旬堆肥ヲ畑一面ニ散布シ六月下旬稀薄ノ人糞尿ヲ施ス

刈草 五月施肥前及六月九月ノ三回行フ  
掛 前年ノ如ク行フ

三年目以後ノ作業

畑焼又ハ畑削リ 五月中旬ニ至リ早キ發芽ノ三四寸ニ伸ヒタル頃除草ヲ行ヒ刈掛ヲ播キ立テ乾燥シタル後火ヲ放チ畑焼ヲ行フ畑焼ヲ行ヒ難キ場合ハ表土壹寸位ヲ草ト共ニ鋤ニテ削リ發芽ノ整一ヲ計ル之レ發芽早キモノハ莖硬化シ皮薄ク剥皮困難ニシテ纖維少キニヨル

施肥 畑焼又ハ畑削リヲ終リタル後ハ堆肥及稀薄ノ人糞尿ヲ散布シ尙生育ノ狀況ニヨリ人糞尿ヲ施シ或ハ地方ニヨリ刈取リ後堆肥ヲ施スモノナリ

除草 除草ハ五月畑焼前及六月中旬行フ然レトモ畑焼以後ノ除草ハ芋麻繁茂ノ狀況ニヨルモノニシテ芋麻ノ畑一面密生シタルモノハ雜草ノ發生ナク僅ニ畑周圍位ニテ可ナリ而シテ莖軟カナル時ハ折レ易キヲ以テ特ニ注意ヲ要ス

收穫 早刈ハ品質良好ナレトモ纖維少ク晚刈ハ品質劣レトモ收量最多シ故ニ品質ニ重キヲ置ク所ハ早ク然ラザルハ晩シ大抵早キハ七月下旬ヨリ始メ晚キハ九月中旬ニ及ブ下葉枯レ莖皮脆付クヲ以テ成熟ノ徵候トス

刈取リハ莖ノ容易ニ萎凋セザル朝夕ヲ選ミ鎌ニテ地上ニ一寸位ノ所ヨリ刈取リ葉ヲ除キ長短ヲ區別シ徑六七寸ノ束トシテ水ニ浸スナリ而シテ葉ハ早刈ハ株元ヨリ成熟後ハ梢頭ヨリ扱キ去ルモノトス

收穫後ノ畑手入 地方ニヨリ刈取リ後堆肥ヲ薄ク散布スルモノアレトモ刈掛ヲ行フヲ普通トス即チ八九月ノ候山野ノ雜草及笹柴類ヲ刈リ來リ生ノ儘散布シ置ク時ハ雜草發生ノ憂ナク二番芽ハ刈掛間ヨリ伸長シ長キハ二三尺以上ニ達スルモノアレトモ翌年ノ發育ヲ害スルヲ以テ絶テ收穫スルモノナシ

病蟲害其他ノ被害防除 (風害豫防) 平地ニ於テハ畑ノ周圍ニ萱籬ヲ立テ廻シ風害ト共ニ莖ノ硬化ヲ防キ伸長ヲ計

ルモノアリ

(蟲害) 徑五六分位ノ蝸牛アリテ發芽五六寸ニ至ルマテノ間夜間又ハ雨天ノ際心芽ヲ喰害スルモノアリ時々捕殺ヲ行フ又「からむしてふ」アリ六月及九月幼蟲發生シ葉ヲ喰害ス孵化當時幼蟲ノ未タ散ラサル内ニ捕殺スルヲ當トス

調製 芋麻莖ハ水ニ浸スコト五六時間以上ニシテ皮ヲ剥キ水ニ浸シ置キ引臺上ニテ金引ヲ以テ粗皮ヲ去リ乾上リ二十五分内外ヲ一把トシテ束ネ干棹ニ掛ケ干場ニテ乾燥スルヲ普通トスレトモ選リ麻トテ上等ノモノヲ製スルハ傷ナキモノノミヲ選ヒ五六分ノ小把トナスモノアリ晴天三日ニテ乾上ケ尙三日間晝夜屋外ニ曝シ充分乾燥シ稍漂白セラレタル後滑カナル堅木ノ棹二本ヲ以テ六七把位ヲ一拵トシテ棹間ニ挟ミ扱キ下シ糸條ヲ正シ二尺二三寸ノ長サニ折リ卷キ把トナシ一貫六百匁ヲ一束トシテ商人ノ手ニ渡スヲ普通トス

包装 一貫六百匁束ニテ買入レタルモノヲ小把ニ解キ充分糸條ヲ整ヘ十把ヲ以テ一ト束ネトナシ之ヲ五貫匁ノ大束トナシ四箇ヲ集メ莖ヲ以テ四方ヲ包ミ横三箇所縦一箇所周圍一箇所繩ヲ掛ケ二十貫一捆トナスモノトス

販賣 從來ハ主ニ越後、近江ナレトモ近年ハ新ニ北海道、庄内、秋田地方ニ販路擴張セラレタリ

用途 越後及近江ニ於テハ織物ノ原料トナリ其他ノ地方ニ於テハ船具及漁具ニ用キラル尙副産物ハ次ノ如キ用途アリ

一麻(イチン) ハ芋麻ヲ選リ取リタル残り短キ莖ノ糸ニシテ品質良好ナリ織物ノ原料ニ用キラル

稗割(カラハギ) ハ芋麻ヲ剥キタル稗ニ残りタル糸ヲ取リ粗皮ノマ、乾シタルモノニシテ疊表ノ縦糸又ハ草履ノ裏真田ニ用キラル

下ノミ(シタノミ) 一尺二寸位ノ短キ莖ヲ剥キ乾シタル糸ニシテ用途稗割ニ同シ

程(カラ) ハ皮ヲ剥キタル稗ニシテ乾燥ノ上萱葎屋根ノ下地及燃料ニ供ス

引粕(ヒキカス) 粗皮ヲ引キ去リタル粕ニシテ乾燥ノ上木灰汁ニテ蒸纖維ノミトナシ打綿トナシ蒲團綿ニ用キ又ハ紡キテ織物トナス

元折(モトオリ) ハ剥皮ノ節一尺二三寸折リタル莖元ノ稗ニシテ乾燥ノ上燃料ニ供ス

農家ノ賣拂價格



年次	一貫匁價格	年次	一貫匁價格
明治四十四年	二・七九一	同 四十一年	二・九一〇
同 四十三年	二・一三六	同 四十年	三・四四〇
同 四十二年	二・〇八三	平均	二・六七二

以上ハ縣統計ニヨル

耕作畑ノ時價 (一反歩)

上畑	中畑	下畑
七拾圓乃至百五拾圓	五拾圓乃至七拾圓	五拾圓以下

一反歩收支計算

項目	數	量	價	格	摘	要
整地	男	二〇	二〇	七〇〇	男一人賃金拾五錢	男一人賃金拾五錢
植付	男	二〇	二〇	七〇〇	男一人賃金拾五錢	男一人賃金拾五錢
水肥	男	一〇	一〇	七〇〇	男一人賃金拾五錢	男一人賃金拾五錢
堆肥	男	一〇	一〇	七〇〇	男一人賃金拾五錢	男一人賃金拾五錢
中耕	女	六	六	一五〇	女一人賃金拾五錢	女一人賃金拾五錢
除草	女	六	六	一五〇	女一人賃金拾五錢	女一人賃金拾五錢
刈り取り	男	六	六	一七五	男一人賃金拾五錢	男一人賃金拾五錢
刈り取り	女	六	六	一七五	女一人賃金拾五錢	女一人賃金拾五錢
種根	男	六	六	三七五	男一人賃金拾五錢	男一人賃金拾五錢
種根	女	六	六	三七五	女一人賃金拾五錢	女一人賃金拾五錢
合計						

項目	數	量	價	格	摘	要
堆肥	男	七〇	七〇	三五〇	男一人賃金拾五錢	男一人賃金拾五錢
水肥	男	二〇	二〇	一〇〇	男一人賃金拾五錢	男一人賃金拾五錢
刈り取り	男	三〇	三〇	一四一	男一人賃金拾五錢	男一人賃金拾五錢
堆肥	女	一〇	一〇	二七・二八五	女一人賃金拾五錢	女一人賃金拾五錢
除草	女	一〇	一〇	二七・二八五	女一人賃金拾五錢	女一人賃金拾五錢
刈り取り	男	一〇	一〇	一七五	男一人賃金拾五錢	男一人賃金拾五錢
堆肥	女	一〇	一〇	一七五	女一人賃金拾五錢	女一人賃金拾五錢
水肥	男	七〇	七〇	三五〇	男一人賃金拾五錢	男一人賃金拾五錢
刈り取り	女	七〇	七〇	三五〇	女一人賃金拾五錢	女一人賃金拾五錢
堆肥	男	二〇	二〇	一〇〇	男一人賃金拾五錢	男一人賃金拾五錢
水肥	女	二〇	二〇	一〇〇	女一人賃金拾五錢	女一人賃金拾五錢
刈り取り	男	三〇	三〇	一四一	男一人賃金拾五錢	男一人賃金拾五錢
堆肥	女	三〇	三〇	一四一	女一人賃金拾五錢	女一人賃金拾五錢
合計						



項 目	數 量	價 格	摘 要	三年ヨリ以後ハ三年目ノ支出ニテ永年差支ナキモノトス			
				男	女	男	女
推肥施與		三・五〇〇	運搬及敷布				
刈掛刈リ取リ	男	一・二五〇					
堆肥		四・五〇〇	粗製ニ付一貫匁五厘				
水肥		一・〇〇〇	一升ニ付金五厘				
刈掛用野草		九・〇〇〇	野生ノマ、ニ付一貫匁金壹厘				
芋麻刈取リ	男	二・二二五	男一人買金壹拾五錢				
芋麻皮剝キ	女	三・七五〇	女一人貳拾五錢				
芋麻皮引キ	男	五・八一〇					
公租	女	一・四一〇					
計		二七・〇九五					
(備考) 三年ヨリ以後ハ三年目ノ支出ニテ永年差支ナキモノトス							
項 目	數 量	價 格	摘 要				
芋麻	七・五〇〇	二・二五〇	一貫匁ニ付金壹圓				
一麻	一・〇〇〇	三・五〇〇	一貫匁ニ付金壹圓五拾錢				
下麻	四・七五〇	二・八五〇	一貫匁ニ付金六拾錢				
引	三・三五〇	一・二五〇	一貫匁ニ付金四拾錢				
元計	一三・七五〇	九・六〇〇	六尺一シメニ付金壹拾五錢				
折		四・一三〇	一貫ニ付金壹圓				
計		三二・五九八					

以上ハ自作中等ノ場合ニシテ最近五ケ年ヲ平均算出セルモノナリ而シテ土地其他ノ資本利子農具損料等ハ便宜省略シタリ

三年目ヨリノ收支計算

收入 總計 金參拾壹圓五拾九錢八厘  
 支出 總計 金貳拾七圓九錢五厘  
 差 引 益 金四圓五拾錢參厘  
 (備考) 以上ハ三年目以後ノ一反歩一ケ年間ノ收支計算ニシテ一年及二年目ノ支出ニ關係ナキモノトス

收支差引益金ヲ労働者ニ分配シタル場合ノ勞銀

收入 總計 金參拾壹圓五拾九錢八厘  
 支出(勞銀控除) 金七圓八拾壹錢  
 差 引 金貳拾參圓七拾八錢八厘  
 右差引貳拾參圓七拾八錢八厘ヲ労働者男四十人一分女二十三人ニ按分配當スル時ハ男一人賃金四拾貳錢壹厘弱女一人賃金參拾錢壹厘強ニ當ルコトナル  
 芋麻ト他作物トノ收支計算比較 本調査ハ芋麻ニ似寄リタル作物ナキヲ以テ此項ヲ缺ク







二合ナリ往々特ニ死滅セシメタル種子二合ヲ加ヘテ下種スルモノアリ又二合以上三合ヲ下種スルモノハ間引菜ヲ利用セシ場合ナリ本圃ニ直播スル場合ハ苗床ノソレニ後ル、コト約一ヶ月即チ十月上旬ニ於テ一反歩ニ對シ二合五勺乃至六合ノ量ヲ播下ス就中三合播最モ多シトス而シテ直播ト苗床トニ論ナク凡ヘテ條播法ニ依リテ平等ニ下種シ後約二三分ヲ覆土ス

苗床ノ管理

間引ハ二合播ノモノハ三回其レ以上ノ場合ハ四回行フヲ普通トセリ其時期ハ發芽後一週間以內ニ第一回ヲ本葉少シク伸長セル頃第二回ヲ本葉ハ二葉以上ヲ開展シ生育ノ狀ヲ見計ヒテ第三回ヲ行フ第四回ノ間引ヲ行フモノハ隨時ニナシテ蔬菜用トナス而シテ最後ノ間引ニ於テ一條一尺ニ付約十五本ヲ生育セシム

本圃ノ整地

畑作ニアリテハ直播移植ノ間ハ前作陸稻、大豆ナルトキハ刈取後其刈株ヲ埋没シツ、荒起シ置キ後地均ラナス甘藷跡ニ於テハ直ニ地均ヲ行フ地均後二尺乃至二尺二寸廣キハ三尺ニ畦立ヲナシ元肥ヲ施シテ土ヲ被ヒ更ニ作條シテ蒔代ヲ作成ス

本圃ノ施肥

水田裏作ノ場合ハ稻刈後馬耕ニ依リ若クハ「マンガン」ヲ以テ荒起シ土地ノ乾燥ヲ見計ヒ一間半内外ヲ距テ、幅二尺深約八寸ノ溝(底面約七寸)ヲ設テ廣キ高畦ヲ作成シ雁木ニ幅一尺七寸乃至二尺ヲ距テ、植條ヲ劃ス

堆肥	二百五十貫
大豆粕	十貫
過磷酸石灰	七貫
糞	十五貫

ヲ條底ニ施シ追肥トシテ人糞尿ヲ

移植ノモノハ二月上旬約三十貫ヲ施ス

直播ノモノハ十二月中旬約二十貫ヲ二月中旬約三十貫ヲ施シ即チ二回五十貫ヲ使用ス

水田裏作トナスモノハ畑地ニ比シ元肥ノ量ヲ減シ追肥ハ必ス二回トシテ畑ニ比シ其量ヲ増加スルモノ多シ

移植 畑ニアリテハ十二月初旬ニ於テ最盛期ヲ十二月十日トス水田裏作ノ場合ハ畑地ヨリモ早ク即チ十一月中旬ヨリ着手シテ十二月五日頃ニ終ルヲ常トス株間ノ距離ハ五六寸トシ一本宛ヲ栽植ス一坪ノ株數畑ハ三十内外水田ハ三十五株内外ナリ

本圃ノ間引

直播ノ本圃ニ於テハ生育ノ狀況ニ依リ苗床ノ間引ト大差ナキ頃ニ於テ二三回行フ第一回ハ特ニ行ヘトモ以後ハ除草ト兼ネ或ハ中耕ノ際密生ノ個所ヲ間引ス最後ノ間引ニ於テ各株間ヲ三四寸トナシ一坪四十五株内外ヲ存スサレハ移植畑ニ對シ約一倍半ノ株ヲ有セリ

中耕及除草

畑直播ノモノハ三回中耕ヲ行フ即チ十二月中及二月中旬三月上中旬ニシテ第一回第二回ハ追肥前トス地方ニヨリ四回施行ス移植畑ハ二回ニ止メ二月中旬ノ追肥前及三月上旬トス水田裏作ノ莖葉ハ二月上旬ニ一回中耕ス

病虫害其他被害ノ防除

病害ニハ往々白錆病ノ發生スルモノアレトモ其被害未タ激甚ナラス爲ニ豫防ノ方法ヲ講スルモノナシ

害虫ノ主ナルモノハ蚜蟲ニシテ被害部タル莖葉ノ先端ヲ摘除シテ驅除ス夜盜蟲ニ對シテハ發生部ノ周圍ニ深キ溝ヲ掘リテ之ニ墜落セシメテ驅除シ其蔓延ヲ防クヲ普通トセリ

成熟期

本縣南部ニアリテハ早生ハ五月上旬、中生ハ五月下旬、晩生ハ六月上旬ニ成熟シ北部ハ早生五月下旬、晩生ハ六月中旬トス

收穫

成熟ニ達スレハ之レヲ拔キ取リ又ハ刈リ取リ其畑ニ於テ三四日間乾燥ス乾燥ノ度ヲ見計ヒテ晴天ノ日連日ヲ用ヒテ脱穀スルモノアレトモ多クハ手ヲ以テ揉ミ落シ後莖及土砂ヲ去リテ調製シ莖干ハ一日乃至二日トス一反歩ノ平均收量ハ左ノ如シ

直播ノ畑	一石六斗 多キハ晩生種ニ於テ二石ニ達スルモノアリ
移植ノ畑	一石四斗



水田裏作 八斗多キモ一石ヲ越ユルコト稀ナリ  
 包 栽培ノ僅少ナル地方ニテハ特ニ包裝スルコトナク單ニ桶中ニ貯フ其荷造ヲ要スルモノハ五斗入ノ叭ヲ用  
 後 販賣先用途及農家ノ賣拂價格 地方ノ製油業者ニ販賣シ又ハ該業者ノ菜種油ト交換ス  
 販賣價格ハ一石ニ付金拾壹圓トシ交換スルモノハ菜種一斗ニ對シ油二升三合ヲ得  
 耕作畑ノ時價

收支計算  
 (甲) 收入ノ部 (中畑自作ノ場合)  
 上 畑 壹百五拾圓 此地價約貳拾五圓  
 中 畑 壹百圓 同 拾八圓  
 下 畑 五拾圓 同 拾圓

主產物	上物	下物	數量		單價		總價		備考
			數	量	價	格	價	格	
一石	六斗	一斗	一	六	一	拾	七	圓六拾錢	特ニ販賣スルニアラサレハ見積價格ニヨリ算定ス
一石	二斗	一斗	一	二	一	拾	九	圓拾錢	
一東	二付	壹錢	一	二	一	拾	壹	圓	

收入合計金拾九圓五拾錢也

肥料	種子	代	數量		單價		總價		備考
			數	量	價	格	價	格	
三	堆肥二百五十貫	人糞五十貫	三	合	一	合ニ付	九	圓	賣大豆十貫 賣灰十五貫 過燻石七
九	圓	錢	七	圓	五	拾	五	錢	

支出合計拾五圓六拾貳錢也

公勞	課銀	人數		食付	貳拾貳錢	七圓拾八錢
		男	女			
十七人	十一人	同	同	貳拾貳錢	八拾錢	

本圃	播種	施肥	管理	害蟲	刈取	其他	人數		一日賃銀		總賃銀		備考			
							男	女	男	女	男	女				
二〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	二	二	二	二	七	〇	食費ハ雇主ニ於テ負擔ス			
二〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	二	二	二	二	七	〇				
二〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	二	二	二	二	七	〇				
二〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	二	二	二	二	七	〇				
二〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	二	二	二	二	七	〇				
二〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	二	二	二	二	七	〇				
二〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇五	二	二	二	二	七	〇				
計							四	七	六	〇	二	四	二	七	一	八

右ハ廣ク耕作セラレル地方ニ於ケル自作直播畑ヲ標準トシタルモノニシテ便宜上土地其他資本ノ利子農具ノ損料等ヲ省略セリ然レトモ收支計算タル地方ニ依リ幾分ノ差異アリ之レ肥料價ノ差人夫賃ノ高低ニヨル故ニシテ尙又人夫數ニ就テモ整地ノ如キ多キハ男女ニテ五人ヲ要シ甘藷跡ニシテ砂質壤土ノ如キハ一人半ノ少キヲ以テ足ルヲ得ルナリ元來菜種ハ

第五卷(千葉縣)







**選種** 普通唐箕選ヲナス株種ニ就キ特別ナル方法ヲ行フコトナシ  
**播種** 何レモ直播ニシテ苗床ニ播種スルモノナシ而シテ大豆收穫後耕鋤シテ畦幅一尺七八寸株間一尺乃至一尺三四寸トシ反當種子量ニ合乃至二合五勺ヲ所要ノ肥料ニ能ク混合シテ播下シ土ヲ覆フコトナク只足ニテ種子ヲ踏ミ付ケ置クモノナリ畦ヲ作ルニ鉞ヲ用ヒスシテ足引スルヲ普通トセリ  
 又勞力關係上播種期ヲ逸スルコトヲ恐レ耕起セスシテ播種スルモノアリ  
**施肥** 肥料ノ種類及用量ハ區々ニシテ標準ヲ得難シト雖モ反當菜種粕四貫、大豆粕二貫、強過磷酸四貫、堆肥七八十貫ヲ種子ト共ニ混合シテ原肥トシ二月ニ至リ多少ノ人糞尿ヲ追肥トシテ施スモノアリ  
**間引** 十一月中旬三月中旬ノ二回之レヲ行フ  
**中耕及除草** 中耕ハ十二月上旬、二月中旬、三月中旬、四月上旬ノ四回除草ハ三月中旬間引ノ際之ヲ行フ  
**收穫調製** 成熟シタルトキ鎌ニテ刈リ倒シテ其儘畑ニテ乾燥シ藁上ニテ揉ミ落シ直ニ五斗叭ニ入レ販賣スルカ又ハ更ニ藁干シヲナシ充分乾燥セシメタル後叭ニ入レテ貯藏スルカ或ハ直ニ賣却ス  
**後作** 後作ハ普通大豆ニシテ時ニ陸稻里芋等ヲ作付スルコトアリ  
**栽培反別及産額** (明治四十二年本縣産業統計ニ據ル)

年次	種(畑作)			種(田作)		
	作付反別	收穫高價	額	作付反別	收穫高價	額
明治四十一年	三、〇二七・五	三〇、三六四	二六一、二八三	六三・七	五九〇	五、三八〇
同四十二年						
同四十三年						
平均						

**販賣先及農家ノ賣拂價格**(石ノ價) 生産物ハ地方ニ於テ仲買人又ハ雜穀商ニ販賣ス從前ハ各地方ニ製油業者アリ盛ニ取引キアリタリ

耕作地ノ時價

上地	拾圓	中地	拾圓	下地	拾圓
----	----	----	----	----	----

一反步收支計算

種實		(甲) 收入ノ部	
數量	價	數量	價
一・五〇〇	九〇〇〇	一三・五〇〇	備考

收入合計金拾參圓五拾錢  
 (乙) 支出ノ部

種	數量	單價	總價	備考
種子			五〇〇〇	
肥料			四・九五〇	
勞代			六〇〇	
公課諸掛			一〇・五七〇	年額壹圓貳拾錢半額

支出合計金拾圓五拾七錢

勞銀內譯		總計	
男	女	男	女
三		一三・五〇	一三・五〇







但シ以上ノ計算ニハ土地其ノ他資本ノ利子農具損料等ハ便宜上省略セリ  
前記支出總額ヨリ勞銀ヲ控除シタル殘額ヲ支出トシテ收入總額ヨリ差引キ其ノ殘額ヲ全部勞銀ト見做シ之ヲ勞働者男女  
別延人數ニ對シテ按分ニ分配シ男女各一人一日ノ賃銀ヲ算出スルニ左ノ如シ  
但シ土地其他ノ資本利子及農具損料等ハ支出ニ計算セス

(大 麥)

男	七拾壹錢參厘
女	四拾七錢六厘

今雲蒸作ト大麥作トノ收支ヲ比較對照スレハ左ノ如シ

收入總計	金拾五圓六拾錢
支出總計	金拾貳圓
差引總益	金參圓六拾錢

土 品

質 本縣ニ於ケル雲蒸栽培地ハ主ニ平坦部ノ砂質壤土ニシテ其他各種土壤ニ栽培セラル  
種 本縣ニ於テ栽培スル雲蒸ノ品種ハ其主ナルモノ左ノ如シ

早生	早生	早生
中生	中生	中生
晚生	晚生	晚生

右ノ内早生等種最モ廣ク栽培セラル

三 重 縣

選 種 多クハ株選ヲ行ヒ種子ハ唐箕選ヲ行フ  
苗床ノ整地 九月下旬ノ頃畑又ハ田地(早稻刈取跡)ヲ打起シ幅三尺ノ平床ヲ設ケルヲ普通トスレトモ伊賀地方ニ於  
テハ幅二尺内外ノ畦ヲ設ケルモノアリ  
苗床ノ施肥 十坪ニ付厩肥十貫人糞尿十六貫(四倍ニ稀釋セルモノ)草木灰八百匁位ヲ普通トシ整地ノ際之ヲ施ス  
播 種 九月下旬頃苗床十坪ニ對シ五勺ヲ撒播ス  
苗床ノ管理 發芽後三回間引ヲ行ヒ同時ニ除草シ追肥トシテ十坪ニ對シ稀釋ノ人糞尿十貫又ハ二三回施與ス  
本圃ノ整地 二毛作田ニアリテハ十一月下旬頃牛耕ヲ行ヒ幅約四尺乃至五尺ノ高畦ヲ設ケ畦ニ沿フテ二列ノ植溝ヲ設  
ケ但シ濕地ハ高畦トシ其中央ニ一條ノ植溝ヲ設ケルモノアリ  
本圃ノ施肥 通例一反歩ニ對シ堆肥又ハ厩肥二百貫人糞尿三百貫(三倍ニ稀釋セルモノ)米糠十五貫又ハ餅粕五貫草木  
灰十五貫ノ割合ニシテ人糞尿ハ其三分ノ一ヲ移植ノ際ニ三分ノ一ハ一月下旬ノ頃殘リ三分ノ一ハ二月下旬ノ頃ニ補肥ト  
シテ施シ他ハ全部元肥トシテ整地ノ際之レヲ施ス但シ一部ノ地方ニハ堆肥、厩肥ノ類ハ追肥トシテ一月中ニ畦ノ兩側又  
ハ畦ノ中央ニ埋メ込ムコトトセリ

移 植 十二月上旬ノ頃ヨリ一月上旬ノ間ニ於テ八寸乃至一尺ヲ距テ、定植ス

中耕及除草 一月中旬、二月中旬、三月中旬ノ三回中耕ヲ行ヒ其都度除草ヲ行フ

病蟲害其他被害防除 病蟲害ノ主ナルモノハ菌核病、白黴病ニシテ驅除豫防トシテハ別ニ行ハス但シ伊賀地方ニ於  
テハ小學校ノ兒童ヲシテ被害部ヲ採集セシム  
野鼠ニ被害多キ地方ニハ窒扶斯菌ニヨリテ驅除ヲ行ヘリ

成 熟 期 五月中旬乃至下旬

收 穫 刈取後圃場ニ擴ケ乾燥セハ連枷ヲ以テ脱粒スルヲ普通トスレトモ刈取後直ニ一定ノ方法ニ結束シテ積上  
ケ乾燥セシムル地方アリ一反歩ノ年收量ハ上田ニアリテハ一石、莖稈六十貫、中田ニアリテハ八斗莖稈五十貫、下田  
ニアリテハ四斗莖稈四十二貫ヲ生産ス

製 穀 脱粒後一日間乾干トシ唐箕ニテ精選ス  
通常以ニ入レ一畝五斗トス

裝 束 二毛田ニアリテハ稻トシ畑地ニアリテハ、陸稻、大豆、甘藷等ヲ栽培ス

後 包 調 製



栽培反別 作付反別左ノ如シ

年次	作付	反別	計別
明治四十四年	一一、六一四、三	四八五、四	一一、〇九九、七
同 四十三年	一一、六七八、四	五四四、九	一一、二二三、三
同 四十二年	一一、一八六、〇	八五〇、三	一一、〇三六、三
同 四十一年	一一、八六七、四	九八四、三	一一、八五一、七
同 四十年	一一、六二四、二	六四七、〇	一一、二七一、二

産額

年次	産額	年次	産額
明治四十四年	八五、二一七	明治四十一年	八八、七六四
同 四十三年	八二、一六四	同 四十年	八四、四〇三
同 四十二年	八八、八二一		九七二、九三八

販賣先農家ノ賣拂價格

年次	賣拂價格(一石ニ對シ)	年次	賣拂價格(一石ニ對シ)
明治四十四年	一一、五〇〇	明治四十一年	九、四六〇
同 四十三年	一一、一六〇	同 四十年	一〇、九三〇
同 四十二年	八、九二〇		

栽培地ノ時價

當時ノ賣買價格一反歩凡左ノ如シ

一反歩ノ收支計算

(甲) 收入ノ部 (自作ノ場合)

主産物	數量	單價	總價	備考
上物	〇・五五〇	一石ニ付 一一・五〇〇	六・八七五	
中物	〇・〇〇五	六・〇〇〇	〇・三〇〇	
下物	〇・〇〇〇	〇・〇〇〇	〇・〇〇〇	
副産物	五・〇〇〇	一貫匁ニ付 〇・〇〇〇	〇・五〇〇	副産物ハ販賣スルモノナシ

(乙) 支出ノ部 (自作ノ場合)

種子	數量	單價	總價	備考
厩肥	〇・〇〇一	一合ニ付 〇・一〇〇	〇・一〇〇	
人糞	二・〇〇〇	一貫匁ニ付 〇・〇〇一	二・〇〇〇	肥料代中ニハ苗床二十坪所要ノ肥料ヲモ含メリ
餅粕	一・〇〇〇	〇・〇〇一五	一・六五〇	
草木灰	一・六六〇	〇・〇〇三〇	〇・四九八	
勞銀	九人七分	〇・五〇〇	四・八五〇	
公課諸掛	七人五分	〇・三〇〇	二・二五〇	公課諸掛ハ概テ本作ノ負擔トシテ茲ニ計算セズ



